

2025

内部評価 報告書

九州大学・久留米大学・福岡大学・産業医科大学・
佐賀大学・長崎大学・熊本大学・大分大学・
宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学



次世代の九州がんプロ養成プラン

TRAINING PROGRAM FOR NEXT-GENERATION HEALTH PROFESSIONALS
WITH CANCER CARE IN KYUSHU

次世代の九州がんプロ養成プラン

令和 7 年度 内部評価報告書

目次

タイトル	ページ
はじめに	2
自己評価一覧	3
九州がんプロ全体の内部評価	4
各大学の内部評価	10
九州大学	10
福岡大学	19
久留米大学	21
産業医科大学	25
佐賀大学	29
長崎大学	34
熊本大学	37
大分大学	45
宮崎大学	54
鹿児島大学	59
琉球大学	62
数値実績一覧	64
セミナー・シンポジウム等	64
満足度調査／指導技術向上等のための FD／ホームページ・SNS 更新	67
教育プログラム・インテンシブコースの受入実績	68
受験・合格・資格取得者	70

はじめに

『次世代の九州がんプロ養成プラン』は、九州内の 11 大学（九州大学・福岡大学・久留米大学・産業医科大学・佐賀大学・長崎大学・熊本大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学）が参画する事業であり、文部科学省が行う『次世代のがんプロフェッショナル養成プラン』事業（令和 5 年度～令和 10 年度）の採択を受けて活動しています。

本報告書は、令和 7 年度（令和 7（2025）年 4 月 1 日～令和 8（2026）年 3 月 31 日（見込み））の実績を取りまとめ、各大学・プラン全体での自己評価（内部評価）を行ったものです。

なお、本報告書をもとに外部評価委員の先生方による第三者評価をいただくことで、次年度以降、客観的視点も踏まえた事業改善を行い、がん専門医療人材を養成して参ります。

※内部評価は、平成 29 年度から毎年継続して実施しています。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」
令和7年度内部評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている /
c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

○「次世代の九州がんプロ養成プラン」全体としての自己評価

九州がんプロ	b:目標を達成できている
--------	--------------

○各大学の自己評価

九州大学	a:十分に目標を達成できている
福岡大学	c:あと少しで目標を達成できる
久留米大学	b:目標を達成できている
産業医科大学	c:あと少しで目標を達成できる
佐賀大学	a:十分に目標を達成できている
長崎大学	b:目標を達成できている
熊本大学	b:目標を達成できている
大分大学	b:目標を達成できている
宮崎大学	c:あと少しで目標を達成できる
鹿児島大学	c:あと少しで目標を達成できる
琉球大学	c:あと少しで目標を達成できる

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

代表校	九州大学
連携大学	久留米大学、福岡大学、産業医科大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学
事務担当者	九州大学医系学部等事務部 学務課 黒添 俊英

1. 概要

補助事業の目的・必要性 総論

九州の11医療系大学大学院が、過去16年にわたる密接な連携を基盤とする拠点を形成し、第4期がん対策推進基本計画において求められる人材の育成の強化を実現する。各大学は当該地域のがん医療のニーズも考慮し、大学の規模や特徴に基づいた大学院プログラムを設置して、九州全体で各テーマの人材育成を目指す。テーマに関する専門講義に加え、大学病院の放射線治療、病理診断、がん疼痛緩和、小児がん医療、腫瘍内科等の各部門との強力な連携に基づく実地教育を行う。拠点内の合同講義・研修の実施とともに、eラーニング、遠隔通信を利用した広域にわたる大学間連携を実現し、離島僻地医療や多職種連携を含む教育体制を構築する。特に新規治療法開発やがん予防等の研究を推進する人材育成には、拠点内大学間のみならず、拠点間、国外の医療・研究教育機関と共同で取組み、我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

各テーマに対する今年度の実績

- 全11大学において、計36コース（大学院24コース、インテンシブ12コース）を設置した。本年度は計**542名**（大学院コース72名、インテンシブコース470名）の**新規受入**があり、年間を通じて教育を行った。
- 2024年10月に開設した「**次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース**」では、九州全11大学で実施しているコースで本年度は**合計35名の新規受入**があった。筑波大学が運用するオンライン教育プラットフォームを活用し、多職種の専門医療人を対象とした、がんの様々な課題に求められる専門領域の知識や最新情報を提供した。
- 全11大学のコーディネーター教員12名を構成員とした「**事業運営推進協議会**」を設置し、今年度はハイブリッド形式で2回、書面回議を1回開催した。九州という広範なエリアにおいて、地域差や大学差を生じさせず、どの大学においても優秀ながん専門医療人材が養成できることを目指し、拠点および大学ごとに予定している事業計画を共有し、本プランの活動をより加速・発展させた。
- 全11大学の若手教員を構成員とする「**がん医療教育推進チーム**」を新たに設置し、定期的にWEB会議を開催し、各大学間の連携と協働を強化するとともに、プログラムの改善および企画案の立案を行った。
- 全11大学のがんプロ在学学生を対象にWEBアンケート調査を実施した。がんプロ事業が提供する教育内容について理解度や満足度、意見を聴取し、現状を把握する事で今後の事業改善に努めた。
- 九州がんプロ公式ホームページでは、「**修了者の声**」と題したコーナーに、これまでの各大学におけるがんプロコース修了者の記事の掲載を行い、在学生・市民に対して広くがんプロの情報を発信した。
- 例年開催している「**九州がんプロ全体研修会**」を沖縄にて2日間にかけて開催し、九州がんプロ全10大学より35名が参加し、講演とグループワークを行い、先人T細胞白血病・リンパ腫の最新治療や地域医療について最新知識を習得した上、今後の医療連携のための職種・学生・教員の枠を超えた交流、意見交換を行った。
- 各大学における履修生の研究成果を相互に報告することにより、今後の養成の刺激となるよう、九州がんプロ履修生による「**教育研究成果発表会**」をハイブリッド形式で開催した。多職種のがんプロ教員・学生が参加し**九州全11大学より60名の参加**があった。学生8名が発表を行い、特に優秀な発表を行った上位3名には研究奨励賞を授与した。
- 海外研修として、九州全4大学より教員・学生8名が**韓国の延世大学セブランス病院とアサン医療センターを訪問**し、施設内見学や合同シンポジウムを開催した。
- 北部エリア5大学合同による「市民公開講座**」を福岡市内にて開催し、病理診断・病理解剖、胃がんの最新治療について講演を行うとともに、がんプロの取組について市民へ情報発信を行った。
- 北海道拠点、東北拠点、北信拠点、九州拠点の4拠点連携シンポジウムを九州大学にてハイブリッド形式で開催し、各拠点より学生や教員8名による発表を行った。他施設における医療体制や研究について情報共有し、拠点間の連携を構築する事ができた。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

- ・全11大学において、今年度は合計**483名（大学院31名、インテンシブ452名）**ががんプロコースを修了した。各コース学生のうち**19名が、がん医療に関連する認定医・専門医資格（がん薬物療法専門医、がん治療認定医、放射線治療専門医など）を取得**しており、今後、がん専門医療人として九州の医療現場で活動することが期待できる。
- ・次世代のがん専門医療人養成インテンシブコースでは、がん診療拠点病院の医療従事者も履修登録しており、大学内だけでなく地域の医療機関においても広くがん教育を提供することができている。
- ・全11大学のがんプロ在学学生を対象にした「**在学生へのアンケート**」をWEBにて実施し調査を行った。今年度のがんプロ教育に対する満足度は高く、多数の学生からがん医療への理解と知識が深まったとの高評価を得る事ができた。今回の調査結果をもとに、次年度以降もより良い教育の提供に努め、がん専門医療人養成に寄与する。
- ・九州がんプロホームページの「**修了者の声**」と題したコーナーに、各大学のがんプロコース修了者**9名の記事を新たに掲載**し、在学生・市民に対して広くがんプロの情報を発信した。今後、本記事を活用してがんプロコース履修者のリクルートに努めるとともに、記事掲載した修了者と在学学生の実際の交流を設ける等して、より具体的なネットワークの構築に役立った。
- ・「**九州がんプロ全体研修会**」では、沖縄にて2日間に渡り対面での研修会を実施し、10大学より教員や学生の計35名が参加し、講演や症例検討のグループワークの実施等を通じて交流を深めるとともに、他大学における医療の現状について情報共有を行いがん医療への理解を深めた。特に他業種、他の専門分野の講演を聴くことで、学生は知識を増す機会となり、教員にとってはより横断的な視点でのがん教育を実施する契機となった。
- ・がんプロ履修生による「**教育研究成果発表会**」では、8大学より履修生各1名ずつが発表し質疑応答も行った。他大学のがん研究の進捗状況についての情報を共有することで、自大学での今後のがん研究・教育を発展させるための新たなアイデアを育む場となった。

2. 各事業の取り組み状況

(1) 交付申請書に記載した内容への対応

No	具体的な事業内容	実績
①	教育コース（大学院24コース、インテンシブ12コース）を実施する。	大学院20コース、インテンシブ7コースにて新規学生を受け入れ、19コースにおいて当初の受入目標を達成した。
②	本プランを有効かつ効率的に運営するため、「次世代の九州がんプロ養成プラン事務局」によりプロジェクトの事務管理を行う。	事務局を九州大学に設置し、今後の具体的な事業計画・評価指標を定め拠点内で共有することができた。
③	「eラーニング支援室」を中心として、各大学にてeラーニング用コンテンツの作成、提供、維持管理を行う。	「次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース」の教材用として、29講義の収録を行った。
④	がんプロ広報室を中心として各大学や本プランホームページを活用し、情報提供を行う。	九州がんプロの公式ホームページや、各大学で管理しているがんプロホームページ、SNSを含め全体で計112回の記事掲載・更新を実施し、積極的に広く情報発信を行った。
⑤	各大学において、また各エリア内の大学等が協働し、本プランのテーマに関するシンポジウム、セミナー、講習会、市民公開講座等を実施する。	各大学で、のべ140回のシンポジウム、セミナー、講習会、市民公開講座を実施し、約4,700名の参加を得ることができ、学内外に対して情報提供、啓発活動を行った。
⑥	がんプロ学生・修了生に対して専門医資格取得のサポートを実施。	今年度はサポートの依頼がなかった。
⑦	大学間の連携と協働を強化するため、「がん医療教育推進チーム」を新たに設置する。	各大学の若手教員を構成員とする「がん医療教育推進チーム」を設置し、WEB会議を4回開催した。各大学の養成上の課題を他大学の強みで補完することで、参加大学での養成を強化するプログラムを来年度より実施する。
⑧	事業運営の意思統一、円滑な運営のため、「事業運営推進協議会」会議を開催する。	今年度はWEB会議、メール会議を活用した事業運営推進協議会会議を4回開催し、事業運営について協議するとともに多大学による運営を効率的に進めることができた。
⑨	国内外医療機関、他拠点との連携教育や交流活動を実施し、教育の連携体制を構築する。	韓国訪問研修を実施し、教員・学生8名が参加した。北海道・東北・北信の4拠点連携シンポジウムを開催した。
⑩	本プランの参加大学共同による研修会を実施する。	1月に沖縄にて2日間に渡る九州がんプロ全体研修会を実施した。九州全10大学より35名が参加した。

⑪	がんプロ学生・修了生による教育研究成果発表会を開催する。	12月に履修生による教育研究成果発表会を開催した。全11大学より60名が参加し、8名の学生が発表を行い、他大学との情報共有をするとともに、がん医療への理解を深めた。
⑫	各大学において事業の実績・成果報告書を作成し、内部評価を実施する。	12月～1月に各大学において内部評価資料を作成し、内部評価の結果をもとに、今後の事業改善に努める。
⑬	事業の進捗状況を評価するため、外部評価委員による評価を実施する。	2月に外部評価委員を招いて「外部評価会」を開催する。

(2) 各事業の実績・成果 (詳細)

①教育コース (大学院コース、インテンシブコース)	
<ul style="list-style-type: none"> ・11大学・計36コース (大学院24コース、インテンシブ12コース) において教育を実施。今年度合計542名の受入があり、483名の修了者を輩出した。九州がんプロ全体として当初の受入目標を達成した。 ・九州全体で実施している「次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース」において、今年度は合計35名の新規受入があり、九州がんプロ全体としての当初の受入目標を達成した。 ・各大学のがんプロ学生が、論文発表や、国内学会、国際学会での発表を行い多くの実績をあげている。 (英文誌106件、和文誌10件、国内学会256件、国際学会35件、その他受賞等11件) 	
②シンポジウム、セミナー、講習会等	
<p>今年度は拠点内において合計140回のシンポジウム・セミナー等を開催し、約4,700名の参加が得られ、当初の目標を大きく上回ることができた。各大学において他施設との連携・共同によるセミナーなども活発化しており、地域の医療従事者をはじめとした学外者も多く参加している。今後がんプロの輪を更に各地へ広げべく積極的な開催を進める。</p>	
③地域や社会への情報発信の取り組み (ホームページ、SNS等の実績含む)	
<ul style="list-style-type: none"> ・各大学で管理するがんプロホームページと合わせて全体で112回の記事掲載・更新を行った。FacebookやXといったSNSでも更新を行い、積極的に発信するよう努めた。 ・各大学において市民公開講座を開催しており、がん医療についての最新情報を提供するとともに、がんプロ事業について市民へ広く情報発信を行った。 	
④大学関連病院との連携 (特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して)	
<ul style="list-style-type: none"> ・各大学において、地域のがん診療連携拠点病院、および小児がん拠点病院との連携により、カンファレンス、研修会・セミナー、市民公開講座を多数実施している。これらに、がんプロ教員・履修生をはじめ各医療機関の医師・医療スタッフが参加し、知識向上・意見交換を行っている。 ・北海道拠点と東北拠点、北信拠点、九州拠点の4拠点連携シンポジウムを九州大学にてハイブリッド形式で開催し、各拠点より学生や教員8名による発表を行った。他施設における医療体制や研究について情報共有し、拠点間の連携を構築する事ができた。 	
⑤自己評価体制 (拠点間リポート含む)	
<p>九州がんプロにおいて「事業運営推進協議会」を組織し、その中で拠点における事業の評価指標を具体的に策定した。これをもとに今回の内部評価を実施しており、この結果を外部評価会において第三者評価を行うことで、客観的な視点も加えた事業の見直しを実施する。また、内部評価・外部評価の結果は公式ホームページにて広く社会に公開、発信する予定であり、これにより更に多くの関係者・市民等から意見を得ることで、恒常的なPDCAサイクル (Plan、Do、Check、Action) の確立に努める。</p> <p>また、来年度も北海道拠点、東北拠点、北信拠点との4拠点合同事業を実施し、他拠点の活動を参考にして本拠点の活動を評価、改善する。</p>	

3. プラン採択時における「がんプロフェッショナル養成推進委員会」の評価への対応

(1) 推進委員会所見（令和5年6月20日発表）への対応状況

要望事項	所見の内容	本プランの対応方針
①	各診療科、職種横断的な取組を推進するため、学長又は学部長等をトップとした実行性の高い実施体制を構築すること。	代表校である九州大学の医学研究院長を事業責任者とし、各大学のコーディネーター教員で構成される事業運営推進協議会を設置する。原則として年2回協議会会議を開催し、連携大学間で教育・研究の情報共有を図り事業運営の意思統一、円滑な運営を構築する。
②	アウトカムとして、各種がん関連資格取得者数の具体的な目標値や養成した専門人材の地域定着・均てん化に向けた具体的な取組及び目標値を可能な範囲で明確にすること。	九州各県の大学で地域に合わせた独自の養成コースを設定し、福岡県171名、佐賀県6名、長崎県35名、熊本県24名、大分県35名、宮崎県18名、鹿児島県11名、沖縄県10名の受入を目標に専門人材の地域定着とがん医療の均てん化を図る。病理診断（病理専門医、分子病理専門医）、放射線治療（放射線治療専門医）、小児がん医療（日本血液学会専門医、小児血液がん学会専門医）、がん薬物療法（がん薬物療法専門医、がん治療認定医、がん専門薬剤師、がん指導薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師）について専門的な知識を習得し、高度ながん医療を実践することが可能な医療人を育成する。
③	特に正規課程コース修了者の進路や活躍状況のフォローアップを可能な限り行い、地域定着状況等の事業成果の把握に努めること。	各大学にて修了者の進路、専門的な資格の取得状況を調査し、がん医療均てん化の為の地域定着状況等の事業成果の把握に務める。久留米大学では、久留米ネットワークセミナー（がん看護CNS課程履修生と修了生から構成される）を開催し、フォローアップに努める。
④	一般市民を対象とした公開講座やシンポジウムの開催、SNSの活用等により、本事業の成果を社会や地域に広く情報発信し、開発した人材養成モデル等を全国に普及させるための取組を積極的に行うこと。	各大学にて市民公開講座等を開催し、九州がんプロHPや公式アカウントにて情報発信するとともに、全国がんプロ協議会主催の市民参画イベントに積極的に参加し取組成果について報告する。九州がんプロHPは大幅な改定を行い公開の準備を進めており、情報の充実化を図るとともに、本事業の成果を市民の方へより分かりやすく発信していく。また、拠点間連携事業を計画し本拠点の人材養成モデルを発表する。産業医科大学のがんプロ修了生は全国各地で産業医として活動を行っており、そのネットワークを利用して両立支援コースで得られた成果を発信していく。
⑤	達成目標・評価指標の適切性や達成状況などを定期的に自己点検・評価するとともに、客観的に評価するため患者等を含む外部評価の仕組みを構築すること。	自己点検・評価のため毎年内部評価を実施し、外部有識者を評価委員とした「外部評価委員会」を設置し、継続的な第三者評価を実施することで、客観的評価を踏まえた事業改善を可能とし、PDCAサイクルを確実に回せる体制を構築する。また、令和5年度よりNPO法人パンキャンジャパン理事長の眞島喜幸氏に外部評価委員としてご就任いただいております。患者の視点からの評価を行っていただく。
⑥	長期的な展望に基づき、事業期間終了後も各大学において、必要な取組を自動化するための具体的な計画を検討すること。	本プランで養成された人材が次の世代のがん医療者の養成に携われるような素養を身につけさせることにより、がん医療者の教育基盤をつくる。九州がんプロ内に事業継続のための運営推進委員会を立ち上げ、外部資金獲得も含めた検討を行っていく。

推進委員会所見に対する今年度の対応状況

①	代表校である九州大学の医学研究院長を事業責任者とし、各大学のコーディネーター教員で構成される事業運営推進協議会を設置している。今年度は4回の協議会を開催し、連携大学間で教育・研究の情報共有を図り、事業運営の意思統一、円滑な運営を構築し、多大学による運営を効率的に進めることができた。
②	病理診断、放射線治療、小児がん医療、がん薬物療法などについて専門的な知識を習得し、実践することが可能な医療人を養成するにあたり、九州各地に所在する各大学で目標を明確化し、充実した教育コースを構成している。均てん化への障害となる各大学の養成上の課題を、他大学の強みで補う強化するプログラムを開始するにあたりがん医療教育推進チームを立ち上げた。また病理専門医養成には不可欠な病理解剖について市民公開講座で取り上げることにより、病理解剖の意義について広く市民に知ってもらう機会を作った。
③	各大学にて修了者の専門的な資格取得状況を調査し、がん医療均てん化の為の地域定着状況等の事業成果の把握に努めた。特に正規課程コースについては修了時ばかりでなく、可能な限りその後も定期的にフォローを行う。
④	各大学において、様々なセミナーや市民公開講座を開催しており、多くの参加を得ている。九州がんプロ公式ホームページをはじめとして、各大学で管理しているがんプロホームページにおいても情報発信を行っており、今年度中に各実績報告書や本内部評価の結果等を公開する予定である。
⑤	自己点検・評価のため内部評価を実施している。さらに継続的な第三者評価を実施し、客観的評価を踏まえた事業改善を可能とし、PDCAサイクルを確実に回せる体制を構築するために外部有識者を評価委員とした「外部評価委員会」を設置している。令和5年度よりNPO法人パンキャンジャパン理事長に外部評価委員としてご就任いただいている。
⑥	本プランで養成された人材が、次の世代のがん医療者の養成に携わる動機づけとして、正規課程最終学年より人材養成について指導教官と協議を行っていく。

(2) 本プラン（九州がんプロ）に対する推進委員会からのコメントへの対応状況

	推進委員会のコメント（充実を要する点）	本プランの対応方針
①	福岡のような大都市から離島や少子高齢化を抱える地域まで様々な環境にある大学が連携しており、目的や方向性、不足する人材の異なる様々な大学が相乗りしているため、目的や方向性に沿った小グループを形成するなど、実効性の伴う運営体制の構築が求められる。	離島を多数有する地域にある長崎大学と琉球大学が連携し、離島におけるがん医療人材の育成を行いがん医療の偏在の解消を目指すとともに、九州がんプロ全体研修会等で成果発表報告を行い情報共有する事で事業運営の推進を行う。
②	養成されたがん専門医療人が福岡など大都市に集中せずに適切に配置されるような具体的な取組を示すことが望ましい。	九州の各地域各大学において独自のプログラムを構成し、その地域の医療者を養成することで都市部に集中せず均てん化を図る。特に、沖縄では本島だけでなく八重山、宮古といった離島の医療人コースへのリクルートに務める。
③	テーマ①に関して、今までに行ってきた教育基盤をどのように発展的に見直すのか明確にすることが望ましい。	これまで15年間のがんプロ教育の中で行ってきたがん疼痛に関する講義や、がん学際領域に関する講義をより充実させる。また、放射線、病理については個別にコースを設定し、看護師や薬剤師といった多職種を対象としたインテンシブコースを設置する。 また、医学生の中からがんの診療やサババーブシップに関する講義を行い、がん診療に興味をもつ医師を増やすように努める。
④	医師以外の医療職の養成を目標としたコースも充実されることが望ましい。	全国e-ラーニングシステムを活用したインテンシブコースにおいて、多職種の養成を可能とする講義内容を充実させ、受講生確保の為に広報活動に努める。
⑤	テーマ③に関するインテンシブコースの設定の有無が不明確であるため、明確にする。	九州がんプロが実施する「次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース」はテーマ①と記載しているが、テーマ③にも該当するコースである。
⑥	アウトカムとして各種がん関連資格取得者数の具体的な目標値を設定することが望ましい。福岡県では放射線科専門医数にシーリングがあるなどの状況を勘案した人数設定も望まれる。	各大学において、それぞれ明確な目標値を設定していき、それを指標に次年度以降のプログラムの改善を行っていく。 福岡県では放射線科専門医のシーリングは年間15名であり、放射線科医養成コースを設置している九州大学と久留米大学において年間3名前後で設定している。
⑦	患者市民参画（PPI）の観点から、外部評価委員会に患者もしくは市民の立場からの評価が行われるのか明らかではない。	令和5年度より、NPO法人パンキャンジャパン理事長の眞島喜幸氏に外部評価委員としてご就任いただき評価を行っていただく。
⑧	進捗状況の評価結果を次に活かし、発展的に計画を見直すことが望まれる。	自己点検・評価のため毎年内部評価を実施するとともに、外部評価委員による評価結果を基に次年度以降の事業改善を行っていく。 インテンシブコースでは、受講者の理解度を確認しながら講義内容の見直しを行う。
⑨	成果の普及に関しては一般的な記述のみであり、社会への情報発信をどのように行っていくのか前もって具体的に検討しておくことが望ましい。	各大学において市民公開講座を開催するとともに、拠点内合同でも実施する。 中間年度と最終年度には実績報告書を作成し、関係各機関へ配布することで本事業の成果について情報発信を行う。 がんプロHPを大幅に改定し、令和5年度中に新たなHPにてイベント情報や活動報告等を発信していく。また、がんプロ広報室を新たに設置し、社会への情報発信について企画・検討を行い、がんプロ事業の成果について広く情報発信を行っていく。
⑩	事業継続についても具体的な記述が見受けられず、事業継続のための資金分担、外部資金獲得等を視野に入れておくことが望ましい。	本プランで養成された人材が、次の世代のがん医療者の教育基盤をつくる。 九州がんプロ内に事業継続のための運営推進委員会を立ち上げ、外部資金獲得について検討を行っていく。

推進委員会からのコメントに対する、今年度の対応状況

①	<ul style="list-style-type: none"> 福岡県南の地域医療を担う大学として教育関連病院等の協力体制を図り、地域がん診療連携拠点病院として事業運営の推進を行う。 離島を多数有する地域にある長崎大学と琉球大学が、離島におけるがん医療人材の育成を目的として、連携のための相互単位互換協定を締結している。 1月に沖縄にて全体研修会を開催し、講演や症例検討等で情報共有する事で事業運営の推進を行った。
②	<ul style="list-style-type: none"> 産業医科大学では、北九州地域を中心に周辺の非都市部への医師派遣を行っている。九州の各地域においてその地域にとどまることが見込まれる医療者を増やすために、各大学で独自の養成プログラムを構成した。 宮崎大学のがん専門医療人養成プログラム（インテンシブコース）では、院内外の医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師等の多職種医療従事者を対象として、約3か月間にわたり計13回の宮崎大学がんセミナーを開催し、多様な専門職の育成を通じて、地域におけるがん医療水準の向上を目指している。
③	<ul style="list-style-type: none"> これまでのがんプロ教育の中で行ってきたがん疼痛に関する講義や、がん学際領域に関する講義をより充実させたシラバスを構成した。また、放射線、病理については個別にコースを設定し、看護師や薬剤師といった多職種を対象としたインテンシブコースも開設している。 宮崎大学では、放射線治療専門医の育成を目的として、放射線治療専門医育成コース（インテンシブコース）を個別に設け、同専門医を目指す医師に対する体系的な教育体制を整備している。

④	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種を対象とした「次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース」を開設している。がんプロオンライン教育プラットフォームを活用し、第4期のテーマに沿った内容を学習できるようシラバスを構成した。 ・産業医科大学では、合同がんセンターボード及び両立支援をテーマにeラーニングコンテンツを作成している。 ・久留米大学、宮崎大学では、がん看護専門養成コースを設置し、現場の課題に対応可能な実践力および研究能力を兼ね備えた専門看護師の育成を目的として、大学院生の確保を進め、医師以外の医療職の養成を推進している。
⑤	九州がんプロが実施する「次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース」をはじめとしたインテンシブコースでは、履修者のニーズに合わせて、テーマ①ばかりでなく、テーマ②・テーマ③についても学習できるようシラバスを構築している。
⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・コース履修終了後に、日本臨床腫瘍学会が認定する「がん薬物療法専門医」の資格取得者を毎年1名以上目指す。 ・久留米大学では、本プラン期間中に放射線治療専門医師2名、がん看護専門看護師2名の養成を目指している。 ・大分大学において、毎年3～5名程度の複数名の専門医を輩出したい。放射線治療医を目指す医師にインテンシブコースへの入学を促したうえで、放射線治療医資格の取得目標を2名とする。
⑦	令和5年度より、NPO法人パンキャンジャパン理事長の眞島喜幸氏に外部評価委員としてご就任頂き、2月に開催予定の外部評価会にて評価を行って頂く事としている。
⑧	今回の内部評価を実施しており、九州全体での実績や目標達成に向けた進捗状況を確認し事業改善に努める。また、2月に外部評価を実施予定にしており、第三者からの評価を基に来年度の事業改善と向上に努める。
⑨	ホームページの充実を図り、地域の医療関係者やがん患者及びその家族に継続的に情報発信し、学内外においてがん教室や市民公開講座を通じて地域のがん教育及び啓発活動に努めている。
⑩	事業継続については、内部資金での継続を考えているが、補助金獲得などに向け情報収集を行う。

5. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない
b : 目標を達成できている
理由・分析等
<ul style="list-style-type: none"> ・各大学に設置している教育コース（正規・インテンシブ）において、九州がんプロ全体としては目標を大きく上回る受け入れがあったが、一部のコースでは当初の目標を達成できていない点が課題となっている。 ・各大学において、大小様々な規模のシンポジウム・セミナー等を開催し、がん専門医療人の育成に寄与した。 ・各大学において、がん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院等の他施設との連携・共同も活発化している。また、一般市民を対象とした市民公開講座の開催により、がんに関する最新の情報を提供するとともに、がんプロ事業の周知を行った。 ・北海道拠点、東北拠点、北信拠点との拠点間合同事業も計画通り実施し、拠点間の情報共有を行うとともに、連携体制の構築を行った。 ・各大学のがんプロ活動情報を収集し、積極的にホームページやSNSで発信し、広く社会へ広報できた。
自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等
<ul style="list-style-type: none"> ・一部、学生の受入がなかった教育コースもあることから、単一大学内での検討に留まらず、九州がんプロ全体として改善策を検討し、引き続き積極的な学生受入を行う。地域差により学生確保に課題を持つ大学については、他大学からも積極的にアドバイスや協力を行う等して、拠点としての目標達成を目指す。 ・がんプロ内だけでなく、各大学附属病院の機能を活かし、他診療科とも更に積極的に具体的な事業・教育を行う事で、連携体制の可視化を行う。また、がんプロ教員・履修生が各施設の事業・教育活動に積極的に関与することで、大学院入学前の研修医や学部学生のがん医療への興味を高めていく。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	九州大学
コーディネーター	大学院医学研究院 連携腫瘍学分野 教授 馬場英司
事務担当者	医系学部等事務部 学務課 課長補佐 黒添俊英

1. 概要

テーマ
○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成
○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。
○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成

各テーマに対する今年度の実績

- ・本年度、正規課程5コースを開講した。「個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース」11名、「がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース」1名、「医用量子線データサイエンティストコース」21名、「がんゲノム専門細胞検査士コース修士課程」2名、「がん創薬研究薬学コース博士課程」3名の**合計38名の新規受入**があった。
- ・全国オンライン教育プラットフォームを利用したインテンシブコースは、本学において**25名の新規受入**があった。また、資料となる講義の録画、編集作業を行っており、全国eラーニングクラウドへのアップロードを進めている。
- ・大分大学と合同で開催している「**九州大学・大分大学合同カンファレンス**」を大分県別府市にて開催した。両大学のがんプロ教員・履修生に加えて、福岡、大分両県のがん診療連携拠点病院等から計28名の医療関係者が参加した。
- ・九州大学病院がんセンターとの共催にて、「**がんゲノム医療セミナー**」、「**九州大学病院がんセミナー**」を開催し、がんプロ履修生と教員に加え、九州大学病院やがん診療連携拠点病院からの多職種を含む、合計278名が参加した。2月には市民公開講座も共催で開催を予定している。
また、がんプロと協力し、がん患者さんやその家族を対象とした「**クローバー会**」を5回開催し、91名が参加した。
- ・九州大学病院ARO次世代医療センターと協力して、新規の治療開発を行う人材を育成するための「**Translational Science and Medicine Training Program (TSMTP)2025**」を開催し、2日間に渡ってシーズ開発から創薬、知財、GCPに基づく臨床開発、承認審査に至る内容の講習会を実施した。学内外より49名が参加し、がんプロ履修生、教員が聴講し、講師も務めた。
- ・九州大学病院小児緩和ケアチームと共催で、「**小児緩和ケアチーム勉強会**」を特別講演会も含めて4回開催し、院内の医療スタッフに加え、がん診療連携拠点病院や地域医療機関の医師・医療スタッフを含む、合計238名が参加した。今年度中にとあと1回開催を予定している。
- ・「**先端医用量子線技術科学コース講演会**」を開催し、臨床現場で物理学的かつ技術的な面で指導者としての役割を果たし、様々ながん治療を含む臨床研究を推進する先端医用量子線技術の医療人を養成している。本年度は、Zoomによる第1回遠隔講習会を開催し、全国各地から多職種171名の参加があり、2月にも第2回の開催を予定している。
- ・九州大学、福岡大学、久留米大学、産業医科大学、大分大学の**5大学合同による「市民公開講座」**を福岡市内で開催した。胃がん治療の講演に加え、ゲノム医療に関わる病理検査や、病理専門医養成には必須である病理解剖の意義について講演を行い、45名の会場参加があった。
- ・12月に台湾の国立中興大学より、Kai-Cheng Chuang博士研究員を受け入れ、両国における取組や研究内容について、がんプロ履修生らと共に意見交換を行い、国際的な学術交流を行った。
- ・海外研修として、**韓国の延世大学セブランス病院とアサン医療センターを訪問**し、施設内見学や合同シンポジウムを開催した。本学からは教員・学生の4名が参加した。
- ・**北海道拠点、東北拠点、北信拠点、九州拠点の4拠点連携シンポジウム**を九州大学にてハイブリッド形式で開催し、各拠点より学生や教員8名による発表を行った。他施設における医療体制や研究について情報共有し、拠点間の連携を構築する事ができた。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

- ・本プラン履修生を対象とし「教育研究成果発表会」、「九州大学・大分大学合同カンファレンス」、「がんセミナー」、「がんゲノム医療セミナー」を実施した。また、個別化医療を学ぶ履修生については、がんゲノムエキスパートパネルへの参加とそのレポート提出を求めた。これらによりがん医療現場の課題に対応し、新たな治療法開発にも必要な知識を習得し、実臨床における理解が深まった。
- ・インテンシブコースの履修生は、筑波大学が運用するオンライン教育プラットフォームを活用し、「個別化医療」、「緩和医療」、「がん関連学際領域」などの、第4期がんプロのテーマで求められている専門領域の知識や最新情報を習得できた。学内だけでなく、がん診療拠点病院の医療者ら19名もより深くがん診療について学び、日常の治療・ケアに応用できる知識を習得することができた。
- ・がんプロ履修生による「教育研究成果発表会」では、履修生8名が発表を行った。九州11大学より多職種の教員・学生が質疑応答に参加すると共に評価を行い、優秀演題3題に奨励賞を授与した。他大学の研究について情報共有をするとともに、がん医療への理解を深めた。
- ・「九州大学・大分大学合同カンファレンス」では、多職種の履修生・教員が参加し、がん診療連携拠点病院からの医療者も含めた参加者間での症例検討や研究発表を通じてがん医療現場の課題とその対策についての理解を深めた。また、がん専門医療人を今後どのように養成していくかについて、がんプロ教員や市中のがん診療拠点病院の医師を交え議論を行った。
- ・「先端医用量子線技術科学コース講演会」を開催し、がんの診断・治療分野における放射線に関する講演を通じて、臨床現場で物理学的かつ技術的な面で様々ながん治療を含んだ臨床研究を推進するための、先端医用量子線技術科学への理解が深まった。
- ・「小児緩和ケアチーム勉強会」では、小児がん患者におけるリハビリと小児緩和ケアでのリハビリのかかわりなどについて院内セミナーを開催した。



【教育研究成果発表会】



【九州大学・大分大学合同カンファレンス】

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

- ・前述のとおり、本年度は「個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース」11名、「がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース」1名、「医用量子線データサイエンティストコース」21名、「がんゲノム専門細胞検査士コース修士課程」2名、「がん創薬研究薬学コース博士課程」3名の合計38名の新規受入を行った。
- ・前述のとおり、本年度10月に開設した「次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース」では、25名の新規受入を行った。

1. 個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース

がんの個別化医療実現のため、臨床情報・ゲノムデータ解析や、バイオマーカー・新規治療標的の探索についての講義及び演習を行った。がんゲノムについての基礎・臨床医学的知識を十分に習得し、実臨床でもがんゲノムパネル検査に基づく診療を積極的に推進し、かつ研究や教育に貢献できる人材を育成するため、参加大学合同の講習会や講演会を行うとともに、参加大学全体で多職種に対する教育を可能とするよう努めた。

2. 放射線治療学コース

過去の大学院志願者数や入学ニーズ調査の結果から、本コースは当初より隔年1名の受入を目標にしており今年度の受入はなかった。来年度以降も大学院進学を志望する放射線治療医に本コースを積極的に提案していく予定である。さらに、放射線治療医を増やすための長期的な取り組みとして、学生や研修医に対し、放射線治療の重要性や魅力を発信していく。

3. がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース

当初の目標通り、学生1名を受け入れ講義や演習を実施した。「小児緩和ケアチーム勉強会」として院内セミナーや特別講演を今年度6回開催した。

4. 次世代の病理学コース

本コースは隔年度の受入を目標にしており、今年度は受入がなかったため開講はしなかった。来年度の学生受入のため、本コースの取り組みについて情報発信を行った。

5. 医用量子線データサイエンティストコース

- 臨床現場で働く医用量子線データサイエンティストとして必要な、画像診断、核医学、放射線治療の理工学的知識と臨床医療の課題解決に対応できる医学物理融合型の総合知を身につけるための教育を実施した。
- 医学物理学及び放射線技術科学の研究者として、自立し独創的研究活動を行い、高度な専門的業務に従事するために必要な問題解決能力及びその基礎となる豊かな学識とグローバルな視野を持つ人材育成を推進した。
- 医用量子線科学分野では2025年度に英語日本語併用の分野ホームページを一新し、九州がんプロの広報も含め、本分野の紹介及び業績や活動内容に関する情報を国内外へ広く発信した。
- 海外の研究者によるオンライン特別講義や特別演習を実施し、グローバルな教育プログラムを実施した。
- 教員2名が2026年3月にベトナムの大学と病院訪問を予定しており、本分野の広報や留学生リクルート活動を行うと共に、アジアの医学物理士の現状や放射線治療に関する情報収集を行い、国際化に対応可能な人材育成を目指す。

6. がんゲノム専門細胞検査士コース修士課程

- 細胞検査士が扱う組織・細胞診検体の標本の作成方法や標本の評価のトレーニングを実施した。
- 細胞検査士資格認定試験合格に向けた病院研修を実施した。
- 細胞検査士が扱う細胞診検体の細胞免疫化学染色に関する予備実験として、培養細胞の扱いや手法による組織検体の細胞免疫化学染色法のトレーニングを実施した。
- 細胞検査士が扱う組織・細胞診検体の免疫化学染色及びDNA、RNAの品質に関する検討による組織検体の細胞免疫化学染色法のトレーニングを実施した。

7. がん創薬研究薬学コース博士課程

- 乳がんを対象とした抗がん剤応答性および薬剤耐性機構の研究を通じ、遺伝子変異や細胞内シグナルに着目した研究設計、データ解析、結果解釈に関する指導を行い、個別化医療の基盤となる腫瘍薬理学的思考を修得させた。
- 基礎実験から動物モデル評価までを一貫して経験させる研究指導体制を構築し、トランスレーショナルリサーチを担う人材育成を推進した。
- 診療情報を活用した後方視的研究を通じ、臨床研究デザイン、統計解析手法、交絡因子への対応等について体系的な指導を行い、がん薬物療法の安全性向上に貢献できる薬学的視点を育成するとともに臨床データを用いた解析能力を養成した。
- 研究成果の社会発信を重視した教育を行い、学術論文作成および学会発表を通じて、科学的知見を適切に発信する能力の育成を行った。
- チーム医療を推進するための人材育成を目指し、多職種人材が集い症例検討を行う研修会に学生を派遣した。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

- 九州大学病院がんセンターと共催し、「がんゲノム医療セミナー」を開催した。九州大学病院やがん診療連携拠点病院等も含めて174名が参加した。がん遺伝子パネル検査における二次的所見の対応に関する内容や、がんゲノム医療の現状と展望について等の講義を行った。また、今年度中に2回開催予定である。また、「九州大学病院がんセミナー」も共催にて本年度3回開催した。九州大学病院やがん診療連携拠点病院から多職種の出席者があり合計159名が参加した。がん診療について幅広い知識を習得する為に、各臓器の専門医によるガイドラインや最新のエビデンスに基づいた講習を行い、今年度中に2回開催予定である。また、がんプロとの協力で、がん患者さんやその家族を対象とした「クローバー会」を5回開催し、91名が参加した。
- 「先端医用量子線技術科学コース講演会」を開催し、学内・外から多職種の171名が参加した。がんの診断・治療分野における放射線検出に関する講演を通して最新の知見について理解を深めた。また、2月にも開催を予定している。
- 小児がん拠点病院事務局と共催し、「小児緩和ケアチーム勉強会」を本年度4回開催し、学内・外から合計238名が参加した。また、今年度中に1回開催予定である。
- 日本の腫瘍内科の切り開くために設立されたJ-HOPE (Japan Health & Oncology Practice Enhancement Program) との協力で「最先端がん治療セミナー」の開催や、日本希少がん患者会ネットワーク主催の「希少がんキャラバン」、九州大学病院ARO次世代医療センター主催の「異分野融合のはじめかた」といったセミナーをがんプロ後援で開催し、がん医療に関する情報発信を行った。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

- ・本学に設置している「九州がんプロ事務局」にて、本学をはじめ拠点内大学の情報を収集し、積極的にホームページを更新した。（合計28回更新）また、ホームページと連携したSNS（Facebook, X）も併せて活用し合計64回の投稿発信を行った。
- ・北部エリアの5大学（九州大学、久留米大学、福岡大学、産業医科大学、大分大学）が連携し、「病理検査・病理解剖」、「胃癌の最新治療」をテーマにした市民公開講座を開催し、最新のがん医療について情報提供するとともに、がんプロ事業についての情報発信を行った。
- ・九州大学病院がんセンターと共催で市民公開講座を2月に開催を予定しており、希少がん特集を内容に市民へ情報発信を行う。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・「九州大学・大分大学合同カンファレンス」では、両大学がんプロ履修生・教員に加え、大分県、福岡県等のがん診療拠点病院の医師・医療スタッフが参加し、主にごん腫瘍内科領域のがん医療、教育、研究について症例検討や研究発表を行った。
- ・「九州大学病院がんセミナー」では、本学のがんプロ履修生・教員だけでなく、がん診療連携拠点病院や小児がん拠点病院からも多くの医師、医療スタッフが参加し、積極的な情報・意見の交換を行った。
- ・小児がん拠点病院である当院において、「小児緩和ケアチーム勉強会・特別講演」を定期的に開催。がんプロ教員・履修生を含む病院内の医療スタッフに加え、がん診療連携拠点病院や地域医療機関の医師・医療スタッフが参加し、小児を対象とした緩和ケアの知識向上に寄与した。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

a : 十分に目標を達成できている

理由・分析等

- ・本年度5つの教育コースにおいて、履修者の受入目標26名に対し受入実績38名と、目標を達成した。
- ・九州がんプロインテンシブコースでは、九州全体の受入目標40名に対し、本学において目標の過半数となる25名の受入を行った。
- ・各セミナーや市民公開講座、海外訪問研修など今年度中の実施予定を含め計画していた研修はすべて達成できた。
- ・九州拠点内の大学とともに、合同研修会、大学間合同カンファレンスを開催し、がん専門医療人の養成に大きく寄与した。
- ・九州がんプロ公式ホームページやFacebook, XといったSNSを活用し、開催予定のイベントや活動報告について積極的に更新を行い、地域や社会に対して情報発信を行った。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・コース全体の履修生数は当初の目標に達しているが、各々の教育コースにおいて受入目標の人数を達成できるよう、学内・大学病院内の各部署、学外のがん診療拠点病院に働きかけて履修生の確保を図る。
- ・福岡県がん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院、がんゲノム医療中核拠点病院、臨床研究中核病院としての大学病院の活動を利用し、がんプロ教員・履修生が積極的に関与することで、履修生のがん教育の幅を広げるとともに、大学院入学前の研修医や学部学生のがん医療への興味を高める。
- ・セミナーやシンポジウムも積極的に開催して拠点内大学との連携を深めるとともに、北海道、東北、北信拠点とともに開催する4拠点連携セミナーをさらに充実させる予定である。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	九州大学
-----	------

○ 英文誌

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>Kitazono T.</u> , <u>Isobe T.</u> , <u>Baba E.</u> et al. Metastatic urachal carcinoma treated with trifluridine/tipiracil and bevacizumab: a case report. Int Cancer Conf J. 14(3):280-288. 2025
2 個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>Nakashima K.</u> , <u>Otsubo K.</u> , <u>Tsuchiya-Kawano Y.</u> , <u>Mikumo H.</u> , <u>Iwama E.</u> , <u>Harada E.</u> , <u>Okamoto I.</u> Suitability of Frozen Pleural Fluid Pellets for Next-Generation Sequencing-Based Driver Gene Testing in Non-Small Cell Lung Cancer. Thorac Cancer. 2025 Jun;16(11)
3 がん予防とプレジジョンメディシをを目指す小児腫瘍学コース	<u>Yoshiki Y.</u> , <u>Mutsumi N.</u> , <u>Akihiko T.</u> et al. A Neonatal Case of Oaraesophageal Mixed Hiatal Hernia Detected by “Coiled-Up Sign”. Surg Case Rep, 11, 2025.
4 個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>Nakashima M.</u> , <u>Iwasaki T.</u> , <u>Katayama Y.</u> , <u>Shimo M.</u> , <u>Tagigawa K.</u> , <u>Shimada N.</u> , <u>Matsushita M.</u> , <u>Kuwamoto S.</u> , <u>Sato S.</u> , <u>Toya M.</u> , <u>Miyawaki K.</u> , <u>Akashi K.</u> , <u>Kato K.</u> , <u>Oda Y.</u> Tumor Microenvironments in Malignant Ovarian Germ Cell Tumors: MHC Class I Loss and T-Cell Exhaustion in Dysgerminoma. Cancer Sci, 2025
5 放射線治療学コース	<u>Takaki M.</u> , <u>Hirose TA.</u> , <u>Yoshitake T.</u> , <u>Matsumoto K.</u> , <u>Shirakawa Y.</u> , <u>Wakiyama H.</u> , <u>Hisano O.</u> , <u>Imafuku H.</u> , <u>Ishigami K.</u> Dosimetric evaluation of cone beam computed tomography-guided online adaptive radiotherapy in gastric mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma. Tech Innov Patient Support Radiat Oncol 35:100321, 2025
6 放射線治療学コース	<u>Shibayama Y.</u> , <u>Arimura H.</u> , <u>Hirose TA.</u> , <u>Takaki M.</u> , <u>Fukunaga JI.</u> , <u>Yoshitake T.</u> et al. Can Online Adaptive Radiation Therapy Eliminate Intrafractional Deformation in Gastric Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphoma? Pract Radiat Oncol 2025;15:e621-e633.
7 個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>Yusuke Inomata.</u> , <u>Keisuke Kodama Shoji Maenohara.</u> et al Retrospective analysis of treatment and prognosis for clear cell carcinoma of the uterine cervix: 15-year experience at a single institution, Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 2025;51:e16300
8 個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>Mita J.</u> , <u>Takemura Y</u> et al.Characteristics and Outcomes of Declined Adult Liver Allografts due to Donor-Related Medical Reasons in Japan: Insights for Safe Utilization. J Hepatobiliary Pancreat Sci.2025 Dec;32(12):878-892.
9 先端医用量子線技術科学コース	<u>Yu Jin.</u> , <u>Hidetaka Arimura.</u> , <u>Takeshi Iwasaki.</u> , <u>Takumi Kodama.</u> , <u>Noriaki Yamamoto.</u> , <u>Yunhao Cui.</u> and <u>Yoshinao Oda.</u> Multiscale-fusion models with genomic, topological and pathomic features to predict response to radiation therapy for non-small cell lung cancer patients. Laboratory Investigation, 16 June 2025, 2025.6
10 先端医用量子線技術科学コース	<u>Jinyue Wu.</u> , <u>Donghee Han.</u> , <u>Toshioh Fujibuchi.</u> Design and Validation of an Augmented Reality Training Platform for Patient Setup in Radiation Therapy Using Multimodal 3D Modeling. Applied Sciences 15 (19) 2025.9 (eISSN:2076-3417)
11 先端医用量子線技術科学コース	<u>Kazuki Mitsushima.</u> , <u>Hidetaka Arimura.</u> , <u>Yuko Shirakawa.</u> , <u>Takumi Kodama.</u> , <u>Tadamasu Yoshitake.</u> Time-variant tumor growth trajectory models for in silico randomized controlled trials for patients with early-stage non-small cell lung cancer in optimizing stereotactic body radiation therapy. Health and Technology (05 August 2025) 15, 963-973, 2025.7
12 先端医用量子線技術科学コース	<u>Masaki Y.</u> , <u>Yamashita Y.</u> , <u>Isoda T.</u> , <u>Kato T.</u> , <u>Baba S</u> A study of differences in absorbed dose estimates by images used in dosimetry of Lu-177-DOTATATE therapy. Radiological physics and technology 18(2) 477-483 2025
13 先端医用量子線技術科学コース	<u>Anton Schwarz.</u> , <u>Hidetaka Arimura.</u> , <u>Yunhao Cui.</u> , <u>Shun Shimabukuro.</u> , <u>Qijing Lin.</u> , <u>Yu Jin.</u> , <u>Satoshi Kobayashi.</u> , <u>Takashi Matsumoto.</u> , <u>Masaki Shiota.</u> , <u>Masatoshi Eto.</u> , <u>Yoshinao Oda.</u> Fractal dimensions for tumour-related cell types of prostate cancer on histopathology images using multiple-threshold box counting algorithm, Biophysics and Physicobiology, Advance online Publication on October 18, 2025 2025.10
14 先端医用量子線技術科学コース	<u>Hizukuri Kyoko.</u> , <u>Fujibuchi Toshioh.</u> , <u>Han Donghee.</u> , <u>Arakawa Hiroyuki.</u> , <u>Furuta Takuya.</u> Directional vector-based quick evaluation method for protective plate effects in X-ray fluoroscopy(DQPEX). Radiological Physics and Technology 18 (1) 196 - 208 2025
15 先端医用量子線技術科学コース	<u>Hyojin Lee.</u> , <u>Toshioh Fujibuchi.</u> , <u>Donghee Han.</u> , <u>Hiroyuki Arakawa.</u> Visualization of the scatter radiation in real time using a high-sensitivity CMOS camera with pinhole collimator, Health and Technology 15 (5) 909 - 917 2025.
16 先端医用量子線技術科学コース	<u>Sakai Mayu.</u> , <u>Fujibuchi Toshioh.</u> , <u>Lee Hyojin.</u> , <u>Han Donghee.</u> Imaging of scattered radiation sources in X-ray radiography using a semiconductor radiation visualization camera, Radiological Physics and Technology 18 (1) 308 - 315 2025
17 先端医用量子線技術科学コース	<u>Yagiz Yedekci.</u> , <u>Hidetaka Arimura.</u> , <u>Yu Jin.</u> , <u>Melek Tugce Yilmaz.</u> , <u>Takumi Kodama.</u> , <u>Gokhan Ozyigit.</u> , <u>Gozde Yazici.</u> Non-invasive Prediction of Secondary Enucleation Risk in Uveal Melanoma Based on Pretreatment CT and MR Imaging Prior to Stereotactic Radiotherapy. Strahlentherapie und Onkologie 2025. (Published: 08 August 2025) 2025.8
18 先端医用量子線技術科学コース	<u>Noguchi Koki.</u> , <u>Fujibuchi Toshioh.</u> , <u>Han Donghee.</u> Effectiveness of radiation protection educational material during angiography using visualization of scattered radiation by augmented reality technique, Radiological Physics and Technology 18 (2) 484 - 495 2025
19 先端医用量子線技術科学コース	<u>Iwasaki T.</u> , <u>Arimura H.</u> , <u>Inui S.</u> , <u>Kodama T.</u> , <u>Cui YH.</u> , <u>Ninomiya K.</u> , <u>Iwanaga H.</u> , <u>Hayashi T.</u> , <u>Abe O.</u> Predictive models of severe disease in patients with COVID-19 pneumonia at an early stage on CT images using topological properties, Radiol Phys Technol. 2025 June, 18 (2), 534-546, 2025.6
20 先端医用量子線技術科学コース	<u>Nishizawa N.</u> , <u>Yabuuchi H.</u> , <u>Nishikawa K.</u> , <u>Wada T.</u> , <u>Kobayashi K.</u> , <u>Tokunaga C.</u> , <u>Kojima T.</u> , <u>Ohnishi T.</u> , <u>Yano Y.</u> , <u>Sagiyama K.</u> , <u>Hida T.</u> , <u>Yamasaki Y.</u> , <u>Hino T.</u> , <u>Ishigami K.</u> Optimization of shoulder synthetic MRI through post-processing and comparison with conventional MRI. European Journal of Radiology 186(3) 112069. 2025
21 がん創薬研究薬学コース 博士課程	<u>Tanihara T.</u> , <u>Yoshida Y.</u> , <u>Ogino T.</u> , <u>Terada Y.</u> , <u>Tsurusaki F.</u> , <u>Hamasaki K.</u> , <u>Otsuki K.</u> , <u>Fukuoka K.</u> , <u>Oyama K.</u> , <u>Tsuruta A.</u> , <u>Hamamura K.</u> , <u>Mayanagi K.</u> , <u>Koyanagi S.</u> , <u>Murakami Y.</u> , <u>Ono M.</u> , <u>Kuwano M.</u> , <u>Ohdo S.</u> , <u>Matsunaga N.</u> 2025. Microcurrent stimulation induces cell death in p53-mutant and 5-FU-resistant breast cancer. J Biol Chem., Vol 301, 110414,
22 がん創薬研究薬学コース 博士課程	<u>Mori K.</u> , <u>Kawashiri T.</u> , <u>Mine K.</u> , <u>Ishida H.</u> , <u>Mori Y.</u> , <u>Ueda M.</u> , <u>Koura Y.</u> , <u>Fujita S.</u> , <u>Tsuruta A.</u> , <u>Egashira N.</u> , <u>Ieiri I.</u> , <u>Koyanagi S.</u> , <u>Shimazoe T.</u> , <u>Kobayashi D.</u> Possible prevention of paclitaxel-induced peripheral neuropathy by concomitant use of $\alpha 1$ -receptor antagonist based on a retrospective study. Support Care Cancer. 2025 Mar 24

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

23	がん創薬研究薬学コース博士課程	Mine K, Kawashiri T, Mori K, Mori Y, Ishida H, Kudamatsu H, Fujita S, Uchida M, Yamada T, Egashira N, Ieiri I, Koyanagi S, Ohdo S, Shimazoe T, Kobayashi D. Proton pump inhibitor concomitant use to prevent oxaliplatin-induced peripheral neuropathy: Clinical retrospective cohort study. <i>Pharmacotherapy</i> . 2025
24	がん創薬研究薬学コース博士課程	Mori Y, Mine K, Kawashiri T, Koura Y, Ueda M, Kaneko R, Fujita S, Tsuruta A, Koyanagi S, Kobayashi D. Class effects of proton pump inhibitors in preventing oxaliplatin-induced peripheral neurotoxicity. <i>J Pharmacol Sci</i> . 2025

○ 和文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	落合 百合菜「前胸壁に発生し巨大乳房腫瘍の外観を呈した異型脂肪腫様腫瘍の1例」臨床外科学会誌, 第87巻03号（2026年2月頃掲載予定）
2	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	吉村晴香、永吉絹子、中村雅史、分娩時陰裂傷を契機に発症した直腸腫瘍に対し経腔的瘻口切除と腔後壁のadvancement flapを用いた再建術を施行した一例、日本大腸肛門病学会誌、2026年2月掲載予定
3	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	村田結実子, 前之原章司, 井ノ又裕介, 術前化学療法を行った外陰部腺様嚢胞癌の一例, 福岡産科婦人科学会雑誌, 49巻1号 Page16-21 (2025.07)
4	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	江崎高明, 前之原章司, 井ノ又裕介, STUMPの診断後早期に子宮平滑筋肉腫として再発したが手術及び化学療法が奏効した一例, 福岡産科婦人科学会雑誌, 49巻1号 Page9-15 (2025.07)
5	先端医用量子線技術科学コース	北 健斗, 井手口忠光, 田中延和, 加藤豊幸, 大藤孝文, 田中亮治, 猪本奈美, 田畑成章, 濱田美知, 畔柳宏之, 木島悟:胸部X線撮影のtarget EI設定におけるSSIMの有用性一視覚評価との比較検討—: 日本診療放射線技師会誌; vol.72 no.879 (2025年12月) accepted April 28, 2025
6	先端医用量子線技術科学コース	檜作 響子, 藤淵 俊王, Han Donghee, 仮想現実技術を利用したX線透視時の散乱線の方向ベクトルの可視化教材の開発, 日本放射線技術学会雑誌/81巻 (2025) 9 号

○ 国際学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	放射線治療学コース	Takaki M, Yoshitake T, Matsumoto K, Shirakawa Y, Wakiyama H, Hisano O, Imafuku H, Matsukane R, Matsuo M, Ishigami K, Impact of Thyroid Irradiation on Thyroid Immune-Related Adverse Events in Head and Neck Cancer Patients Receiving Immune Checkpoint Inhibitors, American Society for Radiation Oncology (ASTRO) 67th Annual Meeting, (San Francisco) 2025.09.29
2	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	Yusuke Inomata, Keisuke Kodama, Yoshihiro Katayama, et al. Oncologic and obstetric outcomes after neoadjuvant chemotherapy followed by abdominal radical trachelectomy in cervical cancer: a single-institution retrospective analysis, European Society of Gynaecological Oncology in Denmark 2026.02.26
3	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	Mita J, et al. The Number of Declinations in utilized liver allografts and Their Effects on Outcomes of Deceased Donor Liver Transplantation: A Nationwide Survey of Japan. ILTS Annual Congress 2025 - Singapore. 2025/5/28
4	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	Mita J, et al. Integration of Portal Pressure and MELD Score Enhances Prediction of Early Graft Loss in LDLT. Asian Transplantation Week 2025 Korea Seoul. 2025/11/20
5	先端医用量子線技術科学コース	Masaki Y, Yamashita Y, Isoda T, Kato T, Baba S, A study of the relationship between administration dose and absorbed dose estimates in dosimetry of Lu-177 oxodotreotide therapy, IUPESM World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering (Adelaide Convention Centre :Australia) 2025
6	先端医用量子線技術科学コース	Takumi Kodama, Hidetaka Arimura, Tomoki Tokuda, Kentaro Tanaka, Hidetake Yabuuchi, Nadia Fareeda Muhammad Gowdh, Chong Kin Liam, Chee Shee Chai, Kwan Hoong Ng. Prediction of EGFR mutation for NSCLC patients using persistent lifetime image features on diagnostic CT images. The International Union for Physical and Engineering Sciences in Medicine 2025, (Adelaide, Australia), 2025.10.02
7	先端医用量子線技術科学コース	Naoya Fuchiwaki, Hidetaka Arimura, Kentaro Tanaka, Yutaro Kabata, Eiji Iwama, Predictive models of time-variant tumour grow trajectory in patients with EGFR mutated non-small cell lung cancer treated by tyrosine kinase inhibitors. The International Union for Physical and Engineering Sciences in Medicine 2025, (Adelaide, Australia), 2025.10.02
8	先端医用量子線技術科学コース	Mayu Nakagaki, Hidetaka Arimura, Yu Jin, Takumi Kodama, Jyunya Eda, Hidetake Yabuuchi, Predictive models for recurrence in triple-negative breast cancer patients using preoperative dynamic contrast-enhanced magnetic resonance image features. The International Union for Physical and Engineering Sciences in Medicine 2025, (Adelaide, Australia), 2025.10.02
9	先端医用量子線技術科学コース	Yu Jin, Hidetaka Arimura, Takeshi Iwasaki, Takumi Kodama, Noriaki Yamamoto, Yunhao Cui, Yoshinao Oda, Pathomic topology-based predictive models of radiation treatment response in patients with non-small cell lung cancer, The International Union for Physical and Engineering Sciences in Medicine 2025, (Adelaide, Australia), 2025.10.02
10	先端医用量子線技術科学コース	Takumi Kodama, Hidetaka Arimura, Tomoki Tokuda, Kentaro Tanaka, Hidetake, Nadia Fareeda Muhammad Gowdh, Chong Kin Liam, Chee Shee Chai, Kwan Hoong Ng Yabuuchi, N-dimensional persistent homology for identification models of epidermal growth factor receptor mutation characterized on CT images of patients with non-small cell lung cancer. International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT) (Yokohama), 2025.04.11
11	先端医用量子線技術科学コース	Qijing Lin, Hidetaka Arimura, Yunhao Cui and Hidetake Yabuuchi, Automatic Segmentation of Large Gross Tumor Volumes based on Hierarchical Vision Transformer Model for Radiotherapy Patients with Stage III NSCLC. International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT) (Yokohama), 2025.04.11
12	先端医用量子線技術科学コース	Yunhao Cui, Hidetaka Arimura, Tadamasa Yoshitake, Yuko Shirakawa, Yoshiyuki Shioyama, Hidetake Yabuuchi, Efficient deep learning segmentation model with small training dataset for three-dimensional automatic measurement of gross tumor volume diameters of lung cancer on planning CT images. International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT) (Yokohama), 2025.04.11
13	先端医用量子線技術科学コース	Kenta Takida, Hidetaka Arimura, Naoya Fuchiwaki, Takumi Kodama, Kazuki Mitsushima, Yu Jin, Mayu Nakagaki, Novel mathematical models for tumor growth trajectories in breast cancer patients during neoadjuvant chemotherapy. International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT) (Yokohama), 2025.04.11
14	先端医用量子線技術科学コース	Yuki Yamaguchi, Hidetaka Arimura, Kazuma Kobayashi, Junya Eda, Takumi Kodama, Hiroyuki Okamoto, Hiroshi Igaki, Evaluation of Robustness of MR-based Prediction Models of EGFR Mutations in Metastatic Brain Tumors Using Coefficient of Variation. International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT) (Yokohama), 2025.04.11

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

15	先端医用量子線技術科学コース	Shiroma Taishi, Hidetaka Arimura, Yuko Shirakawa, Takumi Kodama, Tadamasa Yoshitake, Yoshiyuki Shioyama. Impact of Threshold Value for Maximum Standardized Uptake Value on pretreatment FDG-PET-based Prediction Models of Recurrence in Patients with Lung Cancer Prior to SBRT. International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT) (Yokohama), 2025.04.11
16	先端医用量子線技術科学コース	Yunhao Cui, Hidetaka Arimura, Yuko Shirakawa, Tadamasa Yoshitake, Yoshiyuki Shioyama, Hidetake Yabuuchi. Three-dimensional consolidation-tumorratio-relate features help classify solid, part solid and pure ground-glass nodules. International Forum on Medical Imaging in Asia 2025 in Kagawa 2025.03.20
17	先端医用量子線技術科学コース	Nishizawa N, Yabuuchi H, Nishikawa K, Wada T, Kobayashi K, Tokunaga C, Kojima T, Ohnishi T, Yano Y, Sagiya K, Ishigami K. Severity classification of rotator cuff tears using T1 and T2 values with synthetic MRI. 2025 European Congress of Radiology (Vienna, Austria) 2025.2.26-3.2
18	先端医用量子線技術科学コース	Mao Tabuchi, Kyoko Hizukuri, Han Donghee, Toshioh Fujibuchi, Investigate the contribution of scattered radiation from each source at the operator's position using Monte Carlo simulation. ICRPT (Yokohama), 2025.4
19	先端医用量子線技術科学コース	Koki Noguchi, Toshioh Fujibuchi, Han Donghee, Development of Radiation Protection Educational Material by Augmented Reality during Angiography with User's Opinion, ICRPT (Yokohama), 2025.4
20	先端医用量子線技術科学コース	Mayu Sakai, Toshioh Fujibuchi, Han Donghee, Real-time imaging of scattered radiation sources during X-ray fluoroscopy using a portable radiation visu. ICRPT (Yokohama), 2025.4alization camera

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>溝口公久</u> : トリプルネガティブ乳癌に対するPD-L1阻害薬の効果増強に関する検討, 第125回日本外科学会定期学術集会 (仙台) 2025年4月10日
2	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>溝口公久</u> : FoundationOne® CDxでHRD signatureが陽性であった進行再発乳癌2例の検討, 第31回日本遺伝性腫瘍学会学術集会 (北九州) 2025年6月20日
3	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>溝口公久</u> : トリプルネガティブ乳癌に対する術前化学療法の治療効果予測バイオマーカーとしての血漿miRNAの可能性, 第33回日本乳癌学会学術総会 (東京) 2025年7月11日
4	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>溝口公久</u> : 当院で術前化学療法を施行した浸潤性小葉癌5例の検討, 第23回日本乳癌学会九州地方会 (久留米) 2025年9月6日
5	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>溝口公久</u> : 5mm以下で見つかった浸潤性乳癌症例の検討, 第35回日本乳癌検診学会学術総会 (高知) 2025年11月28日
6	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>落合 百合菜</u> 「未発症のBRCA病的バリエーション保持者に対する当院でのサーベイランス」 遺伝性腫瘍学会 (北九州) 2025/6/21
7	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>落合 百合菜</u> 「FGFR1 遺伝子増幅乳癌に対するPazopanib療法が有効であった一例」 乳癌学会 第33回 (東京) 2025/7/10
8	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>落合 百合菜</u> 「早期乳癌におけるセンチネルリンパ節生検省略の検討」 乳癌学会地方会 (久留米) 2025/9/6
9	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>吉村晴香</u> 、分岐時陰裂傷を契機に発症した直腸腫瘍に対して外科的修復術を施行した3例、第80回日本大腸肛門病学会 (東京) 2025年11月15日
10	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>石川 琢磨</u> 肝細胞癌におけるラクテル化の生物学的意義に関する検討 第125回日本外科学会定期学術集会 (仙台) 2025年4月12日
11	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>石川 琢磨</u> 肝細胞癌における新規エピジェネティック制御ラクテル化とフェロトーシスへの影響 第61回日本肝臓学会総会 (東京) 2025年6月5日
12	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>石川 琢磨</u> The Impact of Capicua expression in the Lenvatinib Resistance in Human Hepatocellular Carcinoma 第37回日本肝胆膵外科学会学術集会 (軽井沢) 2025年6月14日
13	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>石川 琢磨</u> 肝細胞癌におけるラクテル化の役割とその影響 第34回日本がん転移学会 (神戸) 2025年6月19日
14	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>石川 琢磨</u> PET-SUV max を指標とした初発肝細胞癌の予後因子解析 第61回日本肝臓研究会 (神戸) 2025年7月11日
15	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>中島和輝</u> 、大坪孝平、土屋裕子、三雲大功、岩間映二、原田英治、岡本勇、胸水凍結ペレットを用いたオンコマインDxTTによる肺癌ドライバー遺伝子検査の有用性に関する検討, 第66回日本肺癌学会学術集会 (東京) 2025年11月6日
16	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>田中星羽</u> ほか、歯周病菌Fusobacterium nucleatumが肺癌の微小免疫環境に及ぼす影響, 第56回日本腫瘍学会大会 (東京), 2025年7月25日
17	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	<u>山口修輝</u> 、中村睦、玉城昭彦、他。EDチューブ挿入により待機的手術の方針とした新生児食道裂孔ヘルニアの2例。第62回日本小児外科学会 (東京) 2025年6月6日
18	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	<u>山口修輝</u> 、川久保尚徳、馬庭淳之介、他。巨大腸間膜血管腫に対し腹腔鏡下針生検で診断し、mTOR阻害剤が著効した一例。第530回日本小児科学会福岡地方会 (福岡) 2025年9月13日

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

19	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	山口修輝, 川久保尚徳, 馬庭淳之介, 他. 非代償性ショックを伴う肝芽腫破裂に対し, 一期的肝切除およびOpen abdominal managementにて救命しえた一例. 第44回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会(大阪)2025年10月31日
20	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	山口修輝, 川久保尚徳, 馬庭淳之介, 他. 小児悪性腫瘍破裂に対し, Open abdominal managementを行った2例. 第67回日本小児血液・がん学会(福岡)2025年11月19日
21	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	舟越弘樹, 肺内に発生した単中心性キャスルマン病の一例, 第58回日本胸部外科学会九州地方会総会(福岡)2025年7月24日
22	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	中島京, Microenvironmental diversity of malignant ovarian germ cell tumor, 第114回日本病理学会総会(仙台)2025年4月19日
23	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	畑井三四郎, 膵癌におけるネオアンチゲンワクチンの効果とTLSの相関についての検討, 第52回 日本膵切研究会(富山)2025年8月23日
24	放射線治療学コース	高木正統, 即時適応放射線治療の費用対効果, 日本放射線腫瘍学会第38回学術大会(東京)2025年11月28日
25	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	井ノ又裕介, 小玉敬亮, 川上穰 当院で施行した術前化学療法後の子宮頸部摘出術の検討, 第67回婦人科腫瘍学会(東京)2025年7月17日
26	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	安永昌史, 井ノ又裕介, 川上穰 PARP阻害薬の長期使用経過について, 第67回婦人科腫瘍学会(東京)2025年7月17日
27	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	前之原章司, 田浦裕三子, 井ノ又裕介 当院におけるMyChoice検査とHB00診断への取り組み, 第67回婦人科腫瘍学会(東京)2025年7月17日
28	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	三田純也, 第32回 生体肝移植ドナー術後に肝性脳症を来した先天性門脈循環シャントの一例 日本門脈圧亢進症学会総会 奈良春日野国際フォーラム 奈良県 2025/9/11
29	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	Mita J, et al. Association of xCT Expression with Disulfidptosis in Hepatocellular Carcinoma. The 36th Annual Meeting of the Japanese Society for Gastroenterological Carcinogenesis. 16 Dec (Tue) - 17 Dec (Wed), 2025 Fukuoka.
30	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	三田純也, 肝移植における搬送手段と総阻血時間・予後との関連に関する後方視的検討 第61回 日本移植学会総会 ウィンクあいち 愛知県 2025/10/11
31	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	三田純也, 生体肝移植における予後予測モデルとしてMuscle-Donor Age-MELD (MD-MELD)の有用性 第61回 日本肝臓学会総会 ホテルニューオータニ 東京都 2025/6/6
32	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	三田純也, 本邦脳死肝移植において下位受諾となったグラフトの特徴および成績に関する検討 第43回 日本肝移植学会学術集会 KDDI維新ホール 山口県 2025/7/11
33	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	小佐井孝彰, colitis-associated colon cancerにおける腫瘍浸潤性リンパ球の免疫抑制性サブセットの解析, 日本外科学会定期学術集会2025/4
34	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	小佐井孝彰, 潰瘍性大腸炎関連colitis-associated colon cancerにおける腫瘍浸潤性リンパ球免疫抑制性サブセットの解析, 日本消化器外科学会総会2025/7
35	先端医用量子線技術科学コース	荒木真由, 早期非小細胞肺癌SBRTにおける人工知能を用いた治療計画の評価, 第53回日本放射線技術学会 秋季学術大会(札幌)2025年10月
36	先端医用量子線技術科学コース	Yui Masaki, Yasuo Yamashita, Shingo Baba, A study of the relationship between administration dose and absorbed dose estimates in dosimetry of Lu-177 oxodotreotide therapy, 第84回日本医学放射線学会総会/第81回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜)2025年4月10~13日
37	先端医用量子線技術科学コース	Saho Kamitamari, Yasuo Yamashita, Shinichi Awamoto, Yui Masaki, Kana Inuzuka, Shingo Baba, Effect of reconstruction method on the In-111 SPECT quantification, 第84回日本医学放射線学会総会/第81回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜)2025年4月10~13日
38	先端医用量子線技術科学コース	Kana Inuzuka, Yasuo Yamashita, Shinichi Awamoto, Yui Masaki, Saho Kamitamari, Shingo Baba :Effect of deep learning based TOF image enhancement on PET quantification using a whole body human FDG phantom, 第84回日本医学放射線学会総会/第81回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜)2025年4月10~13日
39	先端医用量子線技術科学コース	上玉利咲歩, 赤松剛, 山下泰生, 粟元伸一, 吉留郷志, 政木結衣, 犬塚果奈, 馬場真吾, アミロイドPETの白質、灰白質分離に 画像処理が与える影響について, 第53回日本放射線技術学会秋季学術大会(北海道札幌市)令和7年10月16~19
40	先端医用量子線技術科学コース	犬塚果奈, 山下泰生, 粟元伸一, 吉留郷志, 政木結衣, 上玉利咲歩, 馬場真吾, F-18/Ga-68点線源を用いた 画像再構成繰り返し回数と空間分解能、計数値の関係の評価、第53回日本放射線技術学会秋季学術大会(北海道札幌市)令和7年10月16~19
41	先端医用量子線技術科学コース	田中友紀, 山下泰生, 粟元伸一, 政木結衣, 犬塚果奈, 上玉利咲歩, 榎木麻央, 北岡真衣, 馬場真吾, ファントムを用いたアミロイドPETの皮質集積と画像再構成法の検討、第20回九州放射線医療技術学術大会in鹿児島(鹿児島県鹿児島市)令和7年11月1~2日
42	先端医用量子線技術科学コース	榎木麻央, 山下泰生, 粟元伸一, 政木結衣, 犬塚果奈, 上玉利咲歩, 北岡真衣, 田中友紀, 馬場真吾, ジェネレータ溶出68GaCl3の 吸着と容器材質の関係の検討、第20回九州放射線医療技術学術大会in鹿児島(鹿児島県鹿児島市)令和7年11月1~2日
43	先端医用量子線技術科学コース	北岡真衣, 山下泰生, 粟元伸一, 政木結衣, 犬塚果奈, 上玉利咲歩, 田中友紀, 榎木麻央, 馬場真吾, Lu-177治療の腫瘍セグメント法が 吸収線量と体積に与える影響、第20回九州放射線医療技術学術大会in鹿児島(鹿児島県鹿児島市)令和7年11月1~2日
44	先端医用量子線技術科学コース	政木 結衣, 山田 明史, 畔柳 善文, 磯田 拓郎, 馬場 真吾, サイクロトロン製造Ga-68の品質評価、第65回日本核医学会学術総会/第45回日本核医学技術学会総会学術大会(京都市)2025年11月13~15日

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

45	先端医用量子線技術科学コース	犬塚果奈 山下泰生 粟元伸一 吉留郷志 政木結衣 上玉利咲歩 馬場眞吾、半導体BG0-PETにおける収集時間と再構成法が定量値に与える影響 ～全身ファントムを用いた検討～、第65回日本核医学会学術総会／第45回日本核医学技術学会総会学術大会（京都市）2025年11月13～15日
46	先端医用量子線技術科学コース	上玉利咲歩 赤松剛 山下泰生 粟元伸一 吉留郷志 政木結衣 犬塚果奈 馬場眞吾、アミロイドPETの白質、灰白質分離におけるBSREM法の有用性について、第65回日本核医学会学術総会／第45回日本核医学技術学会総会学術大会（京都市）2025年11月13～15日
47	先端医用量子線技術科学コース	Qijing Lin, Hidetaka Arimura, Yunhao Cui and Hidetake Yabuuchi. Automatic Segmentation of Large Gross Tumor Volumes based on Swin UNETR Model for Radiotherapy Patients with Stage III NSCLC. JAMIT 2025(Tokyo) 2025.8
48	先端医用量子線技術科学コース	植野翔子, 藪内英剛, 村崎裕生, 和田達弘, 小林幸次, 徳永千晶, 西澤直人 三角線維軟骨複合体におけるCompressed SENSE AI画像再構成を用いた高分解能MRIの至適撮像法の検討 第81回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜）2025年4月10日～13日
49	先端医用量子線技術科学コース	大西匠, 藪内英剛, 和田達弘, 小林幸次, 徳永千晶, 西澤直人, 矢野祐二 頭頸部におけるSynthetic MRIの有用性の検討 第81回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜）2025年4月10日～13日
50	先端医用量子線技術科学コース	矢野祐二, 藪内英剛, 池辺栄一, 成田浩, 濱田清美, 下村幸平, 西澤直人 三角線維軟骨複合体損傷における年齢別T1, T2値の比較と年齢別基準値の有用性の検討 第81回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜）2025年4月10日～13日
51	先端医用量子線技術科学コース	矢野祐二, 藪内英剛, 池辺栄一, 成田浩, 濱田清美, 下村幸平, 西澤直人, 大西匠, 植野翔子, 森川遼 三角線維軟骨複合体損傷に対する保存療法の成績におけるT1およびT2値を用いた予後予測の有用性の検討 第53回日本磁気共鳴医学会大会（姫路市）2025年8月29日～31日
52	先端医用量子線技術科学コース	南條航希, 近藤雅敏, 小島幸, 船津亮平, 白坂崇, 加藤豊幸, Dual-energy CTの仮想単色X線画像における基準物質密度の補正について、第202回医用画像情報学会（熊本）2025年6月7日
53	先端医用量子線技術科学コース	南條航希, 近藤雅敏, 石津遥菜, 岩切高弥, 関郁馬, 船津亮平, 白坂崇, 加藤豊幸, Dual-energy CTの仮想単色X線画像における水密度補正, 第20回九州放射線医療技術学術大会（鹿児島）2025年11月1日
54	先端医用量子線技術科学コース	石津遥菜, 近藤雅敏, 南條航希, 関郁馬, 岩切高弥, 船津亮平, 白坂崇, 加藤豊幸, 仮想単色X線画像のノイズが逆計算による基準物質密度画像に与える影響の可視化, 第20回九州放射線医療技術学術大会（鹿児島）2025年11月1日
55	先端医用量子線技術科学コース	岩切高弥, 近藤雅敏, 南條航希, 関郁馬, 石津遥菜, 船津亮平, 白坂崇, 加藤豊幸, Iodine no water と iodine density差分画像を用いたノイズ評価の試み, 第20回九州放射線医療技術学術大会（鹿児島）2025年11月1日
56	先端医用量子線技術科学コース	関郁馬, 近藤雅敏, 南條航希, 岩切高弥, 石津遥菜, 船津亮平, 白坂崇, 加藤豊幸, PHITSを用いたdual-energy CTの仮想単色X線における入射・減弱フルエンスマップの作成, 第20回九州放射線医療技術学術大会（鹿児島）2025年11月1日
57	先端医用量子線技術科学コース	Kazunori Kitajima, Nariaki Tabata, Tamamitsu Ideguchi : Development of an Application for Task-based Sharpness Assessment in Digital X-ray images, 第80回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜）, 2025.04.10-13
58	先端医用量子線技術科学コース	Shuto Okaba, Jumpei Takamura, Tamamitsu Ideguchi: Evaluation of low-contrast resolution based on bit depth differences in medical monitors, 第80回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜）, 2025.04.10-13
59	先端医用量子線技術科学コース	岩崎翔悟, 高村純平, 大柁愁斗, 北島和孝, 板井宏孝, 田中延和, 井手口忠光:マンモグラフィにおける階調反転併用読影法による微細信号検出能の改善効果, 第20回九州放射線医療技術学術大会（鹿児島）11月1日～2日
60	先端医用量子線技術科学コース	佐藤琴音, 大柁愁斗, 北島和孝, 高村純平, 板井宏孝, 田中延和, 井手口忠光:RM1156ファントムを用いたビット深度の違いによる腫瘍陰影検出能の比較, 第20回九州放射線医療技術学術大会（鹿児島）11月1日～2日
61	先端医用量子線技術科学コース	木原莉奈, 北島和孝, 大柁愁斗, 高村純平, 板井宏孝, 田中延和, 井手口 忠光:10bitと8bit表示による微細信号検出能の比較－視覚評価とMS-SSIMによる検討－, 第20回九州放射線医療技術学術大会（鹿児島）11月1日～2日
62	先端医用量子線技術科学コース	境 真由, 藤淵 俊王, HAN DONGHEE, 放射線可視化カメラを装着したサーベイメータによるX線透視中の散乱線源リアルタイム表示の有効性評価, 日本放射線技術学会 秋季学術大会(札幌) 2025年10月
63	先端医用量子線技術科学コース	瀧地夏実, 藤淵俊王, Han Donghee, 宮崎仁志, 高感度CMOSカメラを用いた血管撮影場での散乱線源の可視化と最適な放射線防護対策の検討, 日本放射線技術学会 秋季学術大会(札幌) 2025年10月
64	がんゲノム専門細胞検査士コース	藤本翔太, 私の経験した間葉系腫瘍-細胞診現場と専門家によるハイブリッドワークショップ 【紡錘形～上皮様細胞が出現する間葉系腫瘍の形態的多様性】, 第64回日本臨床細胞学会秋季大会(広島)2025年11月30日
65	がん創薬研究薬学コース博士課程	峯圭佑, オキサプラチン使用患者におけるアレルギー発現に対するプロトンポンプ阻害薬の影響, 第35回日本医療薬学会年会(神戸)2025年11月22日

○ その他(受賞等)

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	Mita J, et al. Integration of Portal Pressure and MELD Score Enhances Prediction of Early Graft Loss in LDLT. Asian Transplantation Week 2025. Best Mini-oral presenting award. 2025/11/22
2	先端医用量子線技術科学コース	犬塚 果奈: Effect of deep learning based TOF image enhancement on PET quantification using a whole body human FDG phantom 学生優秀賞. 2025年04月13日

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	福岡大学
コーディネーター	高松 泰
事務担当者	廣瀬 裕哉

1. 概要

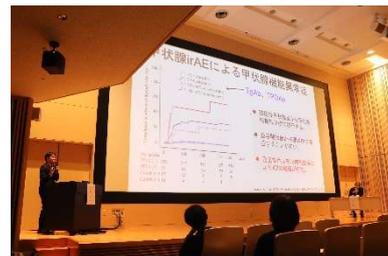
テーマ
<p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p>

各テーマに対する今年度の実績
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師2名が日本血液学会血液専門医の資格を取得した。今後はがん治療のスペシャリストを目指して大学院に進むことを検討中である。 ・ 看護師1名が緩和ケアの認定看護師の資格を取得した。また2名の看護師ががん化学療法看護の認定取得を目指している。がんプロの看護師コースは設けていないが、看護部と協力してインテンシブコースや病院内のカンファレンス等を通じて資格取得に興味をもつ看護師の育成を継続する。
実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）
<ul style="list-style-type: none"> ・ インテンシブコースについては、今年度は下記のコンテンツをアップロードした。 <ol style="list-style-type: none"> ①化学療法誘発性悪心・嘔吐 ②がん地域連携クリティカルパス ③がん治療におけるアピアランスケアと医療者の役割

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院コースは入学者がいなかった。来年度以降の入学者獲得を目指す。 ・ インテンシブコースは昨年度に引き続きオンデマンド配信を実施し、院内医療従事者のがん診療の知識向上に努めた（インテンシブコースの受入実績参照）。今年度は医師2名、看護師1名ががん治療に関する専門資格を取得したが、インテンシブコースの講師を医師、看護師、薬剤師、リハビリ技師など多職種が務め、それぞれの職種の役割や特色を含めて講演していることが、がん治療に関する専門資格の認定を目指す若手医療者を増やすことに役立っていると考えられる。
②シンポジウム、セミナー、講習会等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般市民を対象としたがんセミナーを福岡大学病院で3回（「がん検診って重要ですか？（7月30日）」、「HTLV-1キャリアについて解説します（10月29日）」、「がん治療に伴う外見変化：アピアランスケアについて（11月29日）」）、地域の公民館に出張して2回（「がん治療薬の進歩と福岡大学病院のチーム医療（7月11日）」、「最新のがん薬物療法と福岡大学病院がん診療の取り組み（9月30日）」）行った。 ・ 福岡市に住民票がある中学生全学年および高校1年生を対象に、「知ってる？ HPVワクチンでがんから身を守る方法」と題してHPVワクチンに関する講演会とHPVワクチンの日曜接種を行った（8月17日）。がんプロ卒業生が運営に携わった。

- ・患者、家族および一般市民を対象に『骨髄腫福岡セミナー～患者・家族・医療者のつどい』を患者と家族の会オリゾンと共同で、福岡大学病院、九州がんセンター、原三信病院、福岡日赤病院、JCHO九州病院、聖マリア病院の医師が協力して開催した（10月26日）。参加者数46名で、個別相談会、分科会が好評であった。
- ・福岡大学病院および関連病院の医師、看護師、薬剤師、技師を対象に福岡大学病院メディカルセミナーを開催した（11月31日）。「がん免疫療法の進化とチーム医療ー最良の成果を導く連携の力」というテーマで、腫瘍内科医師、がん認定薬剤師、内分泌糖尿病専門医師が講演を行った。



③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

- ・がんセミナーは、対面式で実施するとともに、YouTubeで動画配信している。
- ・セミナーなどの開催案内、開催報告をHPに掲載し情報発信に努めた。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・がん診療連携拠点病院の九州がんセンター、九州医療センター、福岡赤十字病院と合同でLymphoma Web Meeting in South Fukuokaを開催した（6月20日、11月13日）。再発・難治性の濾胞性リンパ腫、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する治療をテーマとして、各病院の若手医師が症例経験を発表し、全員で議論を行った。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c. あと少しで目標を達成できる

理由・分析等

- ・医師2名が日本血液学会血液専門医、看護師1名が緩和ケアの認定看護師の資格を取得した。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・今後もがん診療に興味をもつ医療者を増やすことを目標に、インテンシブコースの動画配信を行う。
- ・大学院コースの入学者獲得を目指す。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	久留米大学
コーディネーター	医学部外科学講座 教授 唐 宇飛 ・ 医学部看護学科 教授 桐明 あゆみ
事務担当者	医学部事務部教務課 係長 木村稚恵

1. 概要

テーマ
<p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p>

各テーマに対する今年度の実績

○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成

令和7年度は大学院医学研究科博士課程個別最適医療系専攻先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット「放射線療法専門医養成コース」に1名が在籍し、令和7年度においては、学生は本学で定められた専攻・コースのカリキュラムに基づき履修を行い、また、国内学会、国際学会への参加及び発表（予定を含む）を行った。今後、修了までの3年間、計画的に本養成プランの育成プログラムに基づく放射線治療専門医を育成していく予定である。（担当：久留米大学放射線腫瘍センター 淡河教授）

大学院医学研究科修士課程専門職養成コース「がん看護分野高度実践看護師養成」には、令和7年度は1名の在籍者がいる。順調に1年次の科目の単位を取得出来ている。また、本課程の履修科目には、がん看護において卓越した実践ができる専門看護師を養成するため、がん看護実習Ⅰ～Ⅴ（5科目10単位）が含まれている。今年度1名は、がん看護実習Ⅰ「がんの治療場面における身体管理方法と診断・治療の判断過程の理解に基づき、治療・療養過程全般を支える高度な看護支援を行なうために必要な、卓越した判断能力や直接ケア能力を修得する」ことを目的とした実習を令和8年2月に久留米大学病院で行う予定である。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

大学院医学研究科博士課程個別最適医療系専攻先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット「放射線療法専門医養成コース」においては、本養成プランの育成プログラムに基づく放射線治療専門医育成を強化するため、令和6年度より新規科目を2科目増やし、学生には計画的に履修を行うこと、また、積極的に学会への参加や発表を促した。（担当：久留米大学放射線腫瘍センター 淡河教授）

大学院医学研究科修士課程専門職養成コース「がん看護分野高度実践看護師養成」では、がんの様々な治療の時期に応じ、患者を中心に据えた看護の実践を行うことを重要視している。そのため、講義科目では、最前線のがん診断治療学を医学部講師から学び、がん看護専門看護師からは、事例を多く取り入れた実践的な講義内容にしている。また、シミュレーション教育を取り入れ、学生のがん看護実践力の向上を目指している。今年度はさらに、がん患者と家族が抱えるトータルペインへの援助に対し、シミュレーター、デブリーフィングモデルと模擬患者を用いた演習を行った。演習により専門看護師に求められる観察力、洞察力、対人関係能力、看護実践能力が明確になり、学生の専門看護師としてのコンピテンシー育成に有用であった。また、研究においては、令和7年3月に修了した2名の修了生は、修士論文の結果をまとめ、第40回日本がん看護学術集会で発表する。なお、インテンシブコースについては、今年度履修者がいない。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

大学院医学研究科博士課程個別最適医療系専攻先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット「放射線療法専門医養成コース」においては、在学生1名が、国際学会1件（令和7年11月にポルトガル（リスボン）で行われた「国際進行転移性乳癌：ABC8 2025. 11. 5-9」）および国内学会2件（令和7年9月6-7日 第23回日本乳癌学会九州地方会（久留米）、令和7年10月15日 第118回 Neuro-imaging conference筑後・佐賀（久留米）に参加し、発表を行った。令和7年11月 第38回日本放射線腫瘍学会（東京）、令和7年9月 小児放射線研究会（神戸）に参加した。また、国内学会2件（令和8年2月27-28日 第32回日本乳腺疾患研究会（久留米）、令和8年3月14日 第39回高精度放射線外部照射部会学術大会（東京））に参加、発表予定である。（資料②参照） 和文誌 臨床放射線 70巻に投稿した。（担当：久留米大学放射線腫瘍センター 淡河教授）

大学院医学研究科修士課程専門職養成コース「がん看護分野高度実践看護師養成」は前期に修了した学生が1名、後期に終了した学生が2名、書類審査を受け、がん看護専門看護師の認定試験を受け、3名全員合格した。なお、修了生2名は、第40回日本がん看護学会学術集会で「がん診療連携拠点病院の外来化学療法室におけるケアリングに基づく看護実践状況と関連要因」「遺伝子パネル検査を受け、候補薬がみつからなかった原発不明がん患者と家族を支える看護の実際ーがん看護領域の専門看護師および認定看護を対象としてー」をテーマとして学会発表の予定である。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

学内外において様々ながん関連セミナーやがん教室を行われていたが、特にがんの放射線治療法に関する講演の実施（令和8年3月実施予定）により、県南地域における放射線治療専門医の人材養成に寄与することが期待される。（担当：久留米大学放射線腫瘍センター 淡河教授）

令和7年度は「がん看護分野高度実践看護師養成」修了者が所属する久留米ネットワークの会とがんプロの共催で「がん患者が最後まで自分らしく」を支える日本型ACP看護支援モデルについてをテーマにオンラインセミナー令和8年3月に開催予定である。本セミナーは事前に修了生であるがん看護専門看護師が現場で悩むことをヒアリングした上で設定したテーマであり、聴講者のニーズにフィットしていると考えている。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

九州がんプロ関連のセミナーや講演会等の案内については、本学ホームページや大学院生専用ポータルサイト等に掲載をし、広く周知を行っている。

また、関連の久留米大学病院腫瘍センターや先端癌研究センター等と連携し、ホームページにより、「地域連携・セミナー」について、当地域の医療関係者やがん患者及びその家族に継続的に情報発信し、学内外においてがん教室や市民公開講座を通じて地域のがん教育及び啓発活動に努めている。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

本学の附属病院として久留米大学病院はがん診療拠点病院であり、定期的に本学の教育関連病院との間において、治療抵抗性や難治性がんの治療に当たり、Web会議などでゲノム解析やエキスパートパネル及びキャンサーボードの開催を行っている。その結果を薬物開発などの臨床試験へ情報提供し、試験参加を促すことを行っている。院内においては新規免疫チェックポイント阻害薬による薬物療法に対しても総合的に管理する専門委員会が設立され、がん関連診療科同士での意見情報交換を行っており、有害事象の対応などに有効な役割を果たしている。また、遺伝背景の強いがん患者に対して、連携病院と相互的に連携し、患者及びその家族も含め、カウンセリングによりリスク評価を行っており、地域でのハイリスク患者の拾い上げやそれに合わせたスクリーニング検査も行っており、癌の早期発見や治療および予防に貢献している。また、がん放射線治療の専門委員会やカンファレンスのほか、各種の臨床試験なども行われており、がん放射線専門医の育成環境はすでに備えている。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b: 目標を達成できている

理由・分析等

本養成プランの育成プログラムに基づく放射線治療専門医育成を強化するため、令和6年度より新規科目を2科目増やした。1名が入学し、在籍者としては1名となっている。修了までの4年間、計画的に本養成プランの育成プログラムに基づく放射線治療専門医を育成していく予定である。(担当：久留米大学放射線腫瘍センター 淡河教授)

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

大学院進学者において当プログラムに対する周知や理解が不足しているため、大学に在籍しても、積極的に参加する人数が少ないのが現状であり、今後、がん診療に携わる若手医師大学院生に当教育プログラムの意義を再認識させ、より魅力のある内容にしていくことを工夫模索する必要があると考える。一方、限られた人員と時間のなかで指導者に対しても当プログラムへの理解を深め、積極的に関与するように促す必要がある。

大学院医学研究科修士課程専門職養成コースでは、がん看護分野高度実践看護師の役割の1つでもある研究を進め、修士論文を学会発表へ繋げることはできた。今年修了生3名ががん看護専門看護師の認定試験受験の準備があったため、論文投稿に至っていない。令和8年度以降、がん看護専門看護師の継続の要件が変更され、学会発表や論文投稿が重要となるため、是非、修了生の論文投稿を支援する。また、がん緩和ケア地域連携論といったインテンシブコースが次年度開講されるため、準備を整え、受講者を積極的に募りたい。

また、本養成プランを円滑に運用するため、久留米大学大学院医学研究科と久留米大学病院の間において、がん診療や教育において総合的に関連の部署の設立についても模索しており、今後がんプロの教育プログラムにおいてより適切なシステムは確立できると期待される。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	久留米大学
-----	-------

○ 国際学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	放射線療法専門医養成コース	<u>Gaku Shioyama</u> , Etsuyo Ogo, Uhi Toh, Rie Sugihara, Gen Suzuki, Chikayuki Hattori, Chiyoko Tsuji, Koichirou Muraki, Yusaku Miyata, Ryosuke Akeda, Syuichi Tanoue, Efficacy and adverse events of intensity-modulated radiation therapy as postoperative radiation therapy for advanced breast cancer, The Advanced Breast Cancer Eighth International Consensus Conference (ABC8), Lisbon/Portugal, 6-8 November 2025.

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	放射線療法専門医養成コース	<u>塩山 岳</u> 、淡河恵津世、唐宇飛、服部睦行、辻千代子、村木宏一郎、宮田裕作、明田亮輔、藤本野菜、山崎哲生、田上秀一、乳房温存療法後にradiation induced B00P症候群を発症した1例、第23回日本乳癌学会九州地方会（久留米）2025年9月6-7日
2	放射線療法専門医養成コース	<u>塩山 岳</u> 、発熱や頭痛、意識障害を生じた中枢神経病変の画像診断、第118回 Neuro-imaging conference筑後・佐賀（久留米）2025年10月15日
3	放射線療法専門医養成コース	<u>Gaku Shioyama</u> , Etsuyo Ogo, Uhi Toh, Rie Sugihara, Gen Suzuki, Chikayuki Hattori, Chiyoko Tsuji, Koichiro Muraki, Yusaku Miyata, Ryosuke Akeda Tetsuo Yamasaki, Nona Fujimoto, Shuichi Tanoue, Efficacy and adverse events of intensity-modulated radiation therapy as postoperative radiation therapy for advanced breast cancer, 第32回日本乳腺疾患研究会（久留米）2026年2月27-28日（※見込み）
4	放射線療法専門医養成コース	<u>塩山 岳</u> 、明田亮輔、淡河恵津世、唐宇飛、服部睦行、宮田裕作、星田憲人、長廣和也、坂口太郎、田上秀一、再発高リスク乳癌に対するTomoTherapyによる術後照射の経験、第39回 高精度放射線外部照射部会学術大会（東京）2026年3月14日（※見込み）
5	放射線療法専門医養成コース	宮田裕作、淡河恵津世、室谷健太、津田尚武、西尾 真、 <u>塩山 岳</u> 、藤本野菜、山崎哲夫、明田亮輔、村木宏一郎、辻 千代子、服部睦行、田上秀一、子宮頸癌のプラキセラピーにおける新規ヒアルロン酸ゲルスベアー、第38回日本放射線腫瘍学会学術大会、（東京）2025年11月27-29日
6	がん看護専門看護師養成コース	<u>藪本 查子</u> 、桐明 あゆみ 室谷 健太 がん診療連携拠点病院の外来化学療法室におけるケアリングに基づく看護実践状況と関連要因 第40回日本がん看護学会学術集会（大阪）2026年 2月22日
7	がん看護専門看護師養成コース	<u>吉宗今日子</u> 、桐明あゆみ 遺伝子パネル検査を受け、候補薬が見つからなかった原発不明がん患者と家族を支える看護の実例 ―がん看護領域の専門看護師および認定看護を対象として―第40回日本がん看護学会学術集会（大阪） 2026年 2月22日

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	産業医科大学
コーディネーター	吉野 潔
事務担当者	岡本 舞

1. 概要

テーマ
<p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p>

各テーマに対する今年度の実績
<ul style="list-style-type: none"> ・「がん治療と就労の両立支援医師養成コース」に1名、「がんゲノム医療重点コース」に1名の履修生を受け入れ、目標を達成することができた。全在籍者7名に対し、がん医療の現場で顕在化している課題に対応できる人材育成を目的とした教育を行い、不足しているがん治療と就労の両立支援に対応できる医師の人材育成を進めることが出来た。 ・「がん治療と就労の両立支援医師養成コース」の履修生は産業医科大学両立支援科と就学・就労支援センターが連携で実施している両立支援カンファレンス（月2回開催）に参加した。 ・「がんゲノム医療重点コース」の履修生は産業医科大学病院のがんセンターと遺伝カウンセリング科が運営するエキスパートパネル（週1回程度開催）に参加した。 ・合同がんセンターボード及び両立支援研修会（産業医科大学病院がんセンター、就学・就労支援センター、両立支援科との共催）を2月に開催する予定としている。両立支援研修会では、がんや難病等の患者や経験者について、産業医が行う復職や就業措置の判断、産業保健スタッフが行う健康管理など、職場にて両立支援を行う上で、有用な情報を提供した。また、大学病院の特性を生かし、様々な部署の臨床医や大学病院スタッフもこの研修を支援している。 ・本学がんプロホームページに各コースの紹介、活動状況の報告、がんプロ関連サイトのリンクを設置し、適宜更新を行った。 ・「がん治療と就労の両立支援」をテーマに、オンライン教育コンテンツを作成している。 ・教員と事務職員が連携して円滑で確実な運営を行うため、がんプロ運営委員会を毎月1回開催した。
実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）
<ul style="list-style-type: none"> ・「がん治療と就労の両立支援医師養成コース」に1名、「がんゲノム医療重点コース」に1名が入学した。 ・学会発表、論文投稿について定期的に進捗を確認し、支援の体制を整えたことで、履修生の研究成果発表の促進につながった。 ・履修生の実績として、今年度は国内学会発表が7件、英文誌掲載が3件あった。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

- ・前述のカンファレンス等に積極的に参加するよう指導し、多職種との情報共有と、がん医療現場の課題に対応できる人材の育成に努めた。
- ・九州がんプロで開催される研修会への参加やeラーニングを活用することで、がん診療の知識および多職種連携についての理解を深めた。
- ・毎年開催される九州がんプロ教育研究発表会での発表を目標に、研究活動を行うよう指導している。
- ・履修生の研究活動について論文投稿・学会参加の支援制度を設け、今年度は2名の学生に対し学会発表のサポートを行った。来年度以降も、継続して研究活動の活性化を図るとともに、新規履修生獲得に向け情報発信にも取り組んでいく。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

▼両立支援オンラインセミナーチラシ

- ・前年度に引き続き、合同がんセンターボード（共催）を2月に実施する予定である。例年、組織横断的な議論が行われ、先進的かつ包括的ながん医療の実際について理解を深めるとともに、現場課題の対応などに有用な情報を得ることができている。
- ・両立支援オンラインセミナーを2月に開催予定である。本セミナーは、医師・看護師・MSW・両立支援コーディネーターを対象に、がん治療を受けながら就労を継続する患者への支援について、医療従事者等が制度の動向や支援のポイントを共有することを目的とする。厚生労働省が推進する治療と仕事の両立支援については2026年4月から努力義務化される予定であり、こうした動向を踏まえ、本セミナーをZoomにより実施し、全国のがん医療中核拠点病院や連携病院等の現場における支援体制の充実につなげる。



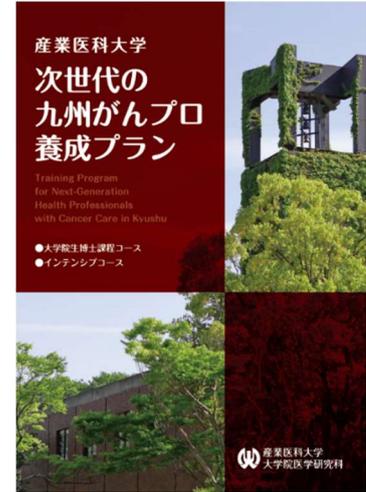
③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

- ・本学ホームページを通して、各コースの特色や活動状況についての紹介を行っている。さらに、がんプロについてのリーフレットを新入生（大学院）に配付するなどして、周知を図っている。
- ・九州がんプロ関連の講演会やセミナー等の案内については、本学ホームページへの掲載および学内掲示板、大学院講義に使用しているTeamsに掲示をし、がんプロ履修生だけでなく学内の教職員および大学院生へ広く周知を行っている。
- ・産業医科大学学会、産業医科大学病院がんセンターとの共催で市民公開講座（2025/9/23(火・祝)、産業医科大学ラムツィーニ大ホール）を開催し、市民及び履修生を含む約30名が参加した。講演内容は動画収録を行い、本学公式YouTubeチャンネルへアップロードし、現地参加できなかった外部の方への情報発信を行っている。

▼大学ホームページ



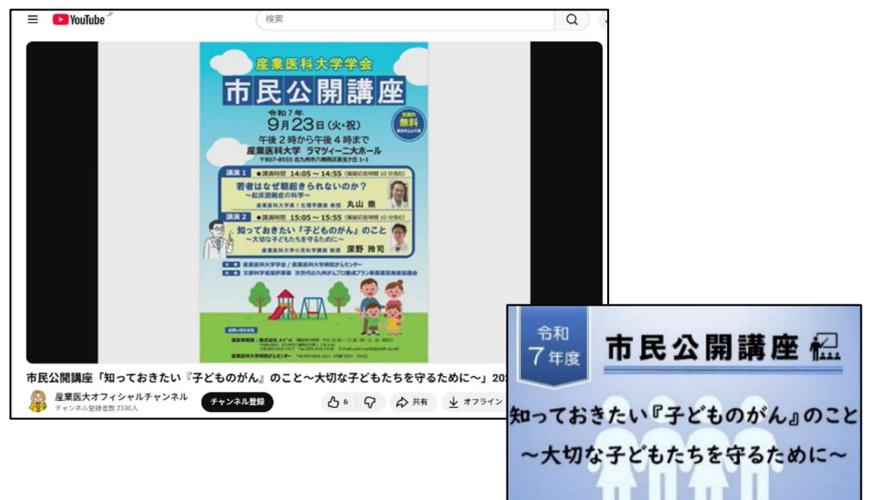
▼リーフレット



▼市民公開講座ポスター



▼YouTube動画



④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・ 両立支援カンファレンス（両立支援科、就学・就労支援センター）やエキスパートパネル（がんセンター、遺伝カウンセリング科）で症例検討を行うなど、がん治療・支援について理解を深めている。
- ・ 2月に開催予定の「合同がんボード」には看護師や社会福祉士など多職種が参加し、各科の取り組みについて発表と意見交換が行われる予定である。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

理由・分析等

当大学のがんプロコースの大学院生は現在履修2年目までの学生しか在籍がないため、研究成果は今後発表されていく見込みである。また、一般市民に対してYouTube等の動画の提供を今年度から開始できたことは大きな進捗と捉えている。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

履修生の学年が進むにつれて研究論文、学会発表などの業績が積み上げられていくことが期待される。来年度は一般社会に対して更に無料動画配信等のデバイスを用いた情報提供を進め、がんプロの活動を通してがんに対する知識や情報を伝えていけるよう検討している。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	産業医科大学
-----	--------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がん治療と就労の両立支援医師養成コース	<u>Ueda T.</u> , Miyagawa K, Nakanishi T, Tsukada J, Harada M. Autoimmune Acquired Factor V Deficiency in a Patient With Pancreatic Cancer Complicated by Cholangitis: A Rare Coagulopathy With a Favorable Course. <i>Cureus</i> . 2025 Jul 14;17(7):e87946.
2	がんゲノム医療重点コース	Ono S, Taniguchi H, Kuroda K, <u>Hashimoto T.</u> Okada A, Goto Y, Kitai H, Nakamura Y, Ogusu S, Hase T, Ota T, Ebi N, Furugen M, Harada T, Kinoshita Y, Mizoguchi T, Nakatomi K, Soejima Y, Yamada T, Takemoto S, Mukae H. Pemetrexed plus platinum as second-line treatment for patients with pleural mesothelioma treated with nivolumab plus ipilimumab. <i>Lung Cancer</i> . 2025 Sep;207:108709. doi: 10.1016/j.lungcan.2025.108709. Epub 2025 Aug 12. PMID: 40819510.
3	がんゲノム医療重点コース	Yoshimatsu K, Takenaka M, <u>Fujita Y.</u> <u>Hashimoto T.</u> <u>Tanaka K.</u> Nemoto Y, Matsumiya H, Tanaka F. [Lung Volume Reduction Surgery for Severe Emphysema]. <i>Kyobu Geka</i> . 2025 Jul;78(7):536-540. Japanese. PMID: 40676741.

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がん治療と就労の両立支援医師養成コース	<u>上田 剛</u> , 宮川恒一郎, <u>篠原暢彦</u> , 大江晋司, 原田 大. 超音波内視鏡下胆管胃吻合術（EUS-HGS）におけるステント選択-cSEMSとPSの適応と課題- 第119回 日本消化器内視鏡学会九州支部例会（久留米）2025年5月16日, 5月17日.
2	がん治療と就労の両立支援医師養成コース	<u>上田 剛</u> , 大江晋司, 宮川恒一郎, <u>梶谷健太</u> , <u>篠原暢彦</u> , 中村光一, 内原大樹, 島尻正平, 原田 大. 混合型肺腺癌の術後に膵・腎転移を呈し、NETとの鑑別を要した一例. 第79回 日本消化器画像診断研究会（久留米）2025年9月19日, 9月20日.
3	がん治療と就労の両立支援医師養成コース	<u>上田 剛</u> , 宮川恒一郎, 内原大樹, <u>篠原暢彦</u> , 秀島宏典, 大江晋司, 原田 大. 膵癌患者におけるGnP療法後の二次治療の有無による予後比較に関する検討. JDDW 2025 第33回 日本消化器関連学会週間 消化器病学会. 2025年10月30日~11月1日.
4	がん治療と就労の両立支援医師養成コース	宮川恒一郎, 大江 晋司, <u>梶谷 健太</u> , <u>上田 剛</u> , <u>篠原 暢彦</u> , 荻野 学芳, 本間 雄一, 柴田 道彦, 原田 大. 胆道ドレナージ法と内瘻化時期の違いがERCP困難な悪性胆道狭窄における減黄効果に及ぼす影響. 第120回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2025年11月28日, 11月29日.
5	がんゲノム医療重点コース	<u>橋本鉄平</u> , 切除不能・進行胸膜中皮腫に対する1st line IPI+NIVO後の再発様式および局所治療の有効性についての後方視的検討, 第6回 日本石綿・中皮腫学会学術集会（神戸）2025年10月5日
6	がんゲノム医療重点コース	<u>橋本鉄平</u> . Precision Lung Wedge Resection using RFID and Hybrid-CT for Small Lung Tumors in our Institution, 第42回日本呼吸器外科学会（東京）2025年5月15日
7	がんゲノム医療重点コース	<u>田中完治</u> . Examination of right lower lobe sleeve resection performed in our department , 第42回. 日本呼吸器外科学会（東京）2025年5月15日

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	佐賀大学
コーディネーター	勝屋 弘雄
事務担当者	山崎 和恵

1. 概要

テーマ
<p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p>

各テーマに対する今年度の実績

【テーマ①】

がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成については、がんプロ事業の取り組みを院内のがんセンター・臨床腫瘍班（がん治療に関わる各科医師、看護師、薬剤師、検査技師など多職種の横断的組織）によって行っている。

● **がん診療セミナー**

がん治療の進歩により新規抗がん薬の増加や高齢者の治療も増え、より安全に治療を遂行していく必要がある。がん診療・支援に関する最新の知識を学ぶことを目的とし、がん診療に関わる医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、MSWなどメディカルスタッフ、そして履修生に対してがん診療セミナーを実施している。



開催日	テーマ	講演者
5/22 (木)	がんリハビリテーション	先進総合機能回復センター 作業療法士 琴浦 健二
7/16 (水)	AYA世代がん患者に対する妊孕性温存について	医療法人社団高邦会高木病院女性医療センター長 国際医療福祉大学医学部教授 北島 道夫
9/25 (木)	がん患者の療養支援 ～アピランスケア・がん相談・就労支援～	看護部（がん看護専門看護師） 前田 美和 医事課社会福祉（医療ソーシャルワーカー） 松本 美樹
11/27 (木)	AYA世代がん患者の心理支援	精神医学 助教（公認心理士） 松島 淳
1/22 (木)	がん患者の自殺対策	

● **多種職カンファレンス**

多種職の専門的な医療人を輩出するために、放射線治療医、病理医、薬剤師、看護師なども参加する血液・腫瘍内科のカンファレンスや消化器癌カンファレンス、希少がんキャンサーボードに履修生は参加し症例検討を行っている。造血器腫瘍に関しては、高度な知識と技術、綿密なチーム医療が重要となる造血幹細胞移植を学ぶために、移植カンファレンスを参加型の研修として用いた。

● **化学療法プロトコール委員**

幅広い臓器のがん薬物療法の知識と技術が必要とされるがん薬物療法専門医を育成するために、履修生は院内の化学療法プロトコール委員のメンバーになっている。院内の各科から申請されるすべての化学療法レジメンのプロトコールをがん治療認定薬剤師、がん化学療法看護認定看護師とともに事前審査を行っている。

● がんゲノム医療

がんゲノム医療中核拠点病院である京都大学医学部附属病院のがんゲノム医療連携病院であったが、2024年7月にエキスパートパネル実施可能ながんゲノム医療連携病院に認定された。毎週開催されるエキスパートパネル、その前に院内で開催する事前勉強会に履修生を参加させ、実地のゲノム医療を学ばせている。

● がん薬物療法専門医

上記の成果により、がんプロ学生の1名ががん薬物療法専門医を取得した。

【テーマ②】

がん予防の推進を行う人材養成のために、履修生は臨床遺伝専門医である副島英伸医師により毎月開催される遺伝カウンセリング事前定例ミーティングに参加している。そこにはがんゲノム医療コーディネーターや遺伝子検査部門のジェネティックエキスパート、病理診断医、がん薬物療法専門医、メディカルサポートセンターのソーシャルワーカーなど多職種の専門家が集まり、前月の遺伝カウンセリングの報告、非侵襲的出生前遺伝学的検査の報告、そして遺伝カウンセリングの事前検討が行われるため、参加型の症例検討会として用いた。

【テーマ③】

佐賀大学医学部 血液・呼吸器・腫瘍内科 木村晋也教授の創薬科学講座では、大原薬品工業株式会社、国立がん研究センター研究所（牛島俊和分野長）と三者の共同で、内服薬として投与が可能で副作用の少ないDNA脱メチル化薬の創出を目指しOR-2100の研究開発を行っている。現在、骨髄異形成症候群で第I相臨床試験を実施中である。創薬科学講座 渡邊達郎准教授の指導のもと、履修生は細胞株やマウスを用いた基礎研究を行っている。また、治験・臨床研究の実施環境に係わる情報を広く学習することを目的として、臨床研究センターと大原薬品工業株式会社との定例会議に参加している。指導者の基礎研究の結果や臨床試験の報告や情報収集のための学会参加への援助、また指導に必要な参考書や備品などの援助を行った。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

● がん診療セミナー

がん薬物療法を中心としたがん診療に必要な知識、また専門看護師による患者のセルフケア支援についての講演を受講した。第5回のセミナーでは、佐賀県伊万里市の緩和ケア病棟の医師と看護師に地域におけるがん診療と地域連携の重要性について学んだ。県内でがん薬物療法専門医として、がん医療の現場に対応できる人材養成を行っている。

● 多種職カンファレンス

履修生は血液・腫瘍内科カンファレンス、消化器癌カンファレンス、移植カンファレンス、希少がんキャンサーボードに参加し、症例提示を行っている。カンファレンスで発表するための準備、またそこでの討論に加わることで、疾患や化学療法についての知識を深めることができている。これらのカンファレンスは放射線治療医、病理医、薬剤師、看護師などの多種職が参加しており、そこでのがん薬物療法医に必要ながん診療のチームリーダーとしての役割を理解できるように試みている。

● 化学療法プロトコール委員

履修生は院内の化学療法プロトコール委員のメンバーとなり、プロトコール委員による審査の前の事前審査を行っている。各科より申請される化学療法レジメンは年間約50例あり、すべての事前審査をがん治療認定薬剤師、がん化学療法看護認定看護師とともにやっている。これにより、がん薬物療法専門医に必要な幅広い臓器の化学療法の知識を得ることができている。

● がんゲノム医療

がんゲノム医療については、まず院内で開催しているエキスパートパネル前の事前勉強会に参加し、遺伝子パネル検査レポートやC-CAT報告書から、推奨される治療法の有無と内容、推奨以外の治療選択肢、2次的所見の有無と内容をまとめレポートにするトレーニングを行っている。現在、院内で年間約70例のがんゲノム提出症例があり、自身で情報検索し考察する能力を向上させている。

● 遺伝カウンセリング

毎月開催される遺伝カウンセリング事前定例ミーティングに参加し、前月の遺伝カウンセリングの報告、非侵襲的出生前遺伝学的検査の報告、そして遺伝カウンセリングの事前検討に加わっている。がんゲノム検査によって検出された2次的所見としての遺伝性腫瘍の知識の習得を行っている。さらに、遺伝カウンセリングでの患者の医学的、心理的、および家族への影響を十分理解し、支援するプロセスについて学ぶことができている。

● 新規薬剤の開発

骨髄異形成症候群で第I相臨床試験を実施中である内服DNA脱メチル化薬であるOR-2100の研究開発にかかわっている。履修生は骨髄異形成症候群以外の造血器腫瘍への薬剤の応用、また多剤との併用による相乗効果の基礎研究を行っている。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

【高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース】

4年生1名、3年生1名、1年生が1名在籍している。

4年生のダブルヒットB細胞リンパ腫に対するDNA脱メチル化薬（OR-2100）の効果、作用機序に関する研究が、医学雑誌 **Blood Neoplasia**（2025;2:100155）に掲載された。

3年生は日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医を取得した。また、HTLV-1感染者、成人T細胞白血病/リンパ腫患者における血漿中のcell-free HTLV-1 DNA定量と予後の関連を明らかにする研究を継続している。2025年12月18日に開催された次世代の九州がんプロ養成プラン履修生による教育研究成果発表会にて報告した。

1年生はT細胞性急性リンパ性白血病に対するDNA脱メチル化薬（OR-2100）の抗腫瘍効果とその作用機序について、研究を実施している。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

● がん診療セミナー

上記で示したように2か月に1回夕方開催している。現在も継続しており、専門的ながんチーム診療を構築する医療人を養成するためには大変有用な講演である。昨年度の外部評価委員より「地方におけるがん診療の均てん化を目指し、地域の医療者向けの研修や情報共有を積極的に行い、都市部との医療格差を縮小する取り組みが重要」とコメントをいただいた。佐賀市より50km以上西に位置する伊万里市の伊万里有田共立病院が今年度より佐賀大学のグループ指定による地域がん診療病院に指定された。この施設の医療者にもWebで参加していただき、がん診療に関わる情報提供を実施している。

● 院内がんゲノム勉強会

これまでのがんプロの卒業生が、がんゲノム診療に携わっており、その卒業生らによるがんゲノム診療に関わらない科の医師や病理医、薬剤師、看護師に対して院内がんゲノム勉強会を以下のように開始した。

2025/10/21「ゲノム解析レポートの読み方」講師：小宮 奈津子 先生（がんゲノム診療部門、がん薬物療法専門医）

2025/11/25「がんゲノムと遺伝性腫瘍」講師：原田 陽平 先生（血液・腫瘍内科、がん薬物療法専門医・臨床遺伝専門医）

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

昨年度の外部評価委員より「履修生の確保が課題であり、がん医療の魅力を伝えるための広報活動を強化することが重要」とコメントをいただいた。そこで以下のように県民公開講座を佐賀大学医学部附属病院の病院長に依頼し、また広報誌に特集を組んだ。

● 県民公開講座

県民公開講座を毎年開催しており、今年は「SOS! 佐賀の前立腺がん」というテーマで、佐賀大学医学部泌尿器科教授 野口 満病院長に講演をしていただく。できるだけ多くの県民の皆様にご覧いただけるようにWeb開催で令和8年2月1日から3月31日まで視聴可能である。案内を佐賀大学のホームページ（佐賀大Press）に掲載し、広く情報発信を行っている。

● 広報誌「がん診療ニュース」

佐賀大学附属病院は都道府県がん診療連携拠点病院として指定されている。佐賀県がん診療連携協議会の広報誌として「がん診療ニュース」があり、今年度は令和7年10月に発刊した。佐賀県の4つのがん診療連携病院と新たに地域がん診療病院に指定された伊万里有田共立病院よりがん診療にかかわる紹介をしている。また、特集として佐賀県内がん診療連携拠点病院の院内がん登録データによる検証『5年生存率から見た非小細胞肺がんの診断時病期と発見経緯の分析』を掲載している。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

昨年度の外部評価委員より「履修生の確保が課題であり、がん医療の魅力を伝えるための広報活動を強化することが重要」とコメントをいただいた。そこで、地域がん診療連携拠点病院 佐賀県医療センター好生館でのがん講演会と、がん化学療法チーム研修会を行った。

● 地域がん診療連携拠点病院 佐賀県医療センター好生館でのがん講演会

昨年度の外部評価委員より「履修生の確保が課題であり、がん医療の魅力を伝えるための広報活動を強化することが重要」とコメントをいただいた。そこで、佐賀県で2番目に大きく、地域がん診療連携拠点病院でもある佐賀県医療センター好生館において、がんプロコーディネーターである勝屋が講演会をさせて頂いた。全員参加が必須とされている院内講演会であり、佐賀大学で行っているがん医療の取り組みや魅力について講演をした。



● 佐賀県がん化学療法チーム研修会

がん診療連携拠点病院である当院と佐賀県医療センター好生館、嬉野医療センター、唐津赤十字病院、地域がん診療病院である伊万里有田共立病院と連携し、がん化学療法チーム研修会を年に2回開催した。各施設よりがん薬物療法診療に関わる医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーがチームとして参加した。各医療機関の化学療法の現状や取り組みを知り、グループワークを通し化学療法を行う上での問題点を共有し、問題解決に取り組んでいる。

2025/7/3 「当院におけるB型肝炎ウイルスの検査状況」（嬉野医療センター）

2025/12/4 「子宮体癌に免疫チェックポイント阻害薬治療中に行ったサイトカイン放出症候群の一例」（伊万里有田共立病院）

● 佐賀県がん診療連携協議会

佐賀大学附属病院は都道府県がん診療連携拠点病院として指定されており、地域がん診療連携病院として佐賀県医療センター好生館、唐津赤十字病院、嬉野医療センターの3つがある。令和7年度佐賀県がん診療連携協議会を令和8年3月13日に開催する。

● 小児がん拠点病院との連携

小児がん拠点病院である九州大学小児科と毎月1回のテレビ会議（症例検討や、日常診療における細かな施設間差異の確認などのアンケート調査、小児がん拠点病院連携会議報告など）を行っている。例えば、①骨髄バンク（臍帯血バンク）移植を九州大学に依頼、生着後の管理を当院で行う ②小児がん関連の大きな外科手術や肝移植を九州大学で行い、術前・術後の化学療法を当科で行う、③九州大学で小児がん治療を行った患児の長期フォローアップを当科で行うなど連携を行っている。県内の連携については、小児がん（疑い）症例については、必要に応じて24時間いつでも大学病院に転院できる体制をとっている。また、治療後の経過観察中の患者の日常診療を県内の中核病院に依頼しながら連携を図っている。

● 佐賀県緩和ケアにおける連携協力カンファレンス

都道府県がん診療連携拠点病院指定要件に基づいて、地域医療機関との連携協力に関する緩和ケアカンファレンスをWebにて毎月開催している。参加対象として、県内の病院、訪問看護ステーション、在宅療養支援診療所に案内し、毎月約30施設が参加されている。

● 希少がん診療連携に関する会議

九州大学病院が中心となり開催される九州・沖縄・山口における希少がん診療連携に関する会議に参加している。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

a:十分に目標を達成できている

理由・分析等

昨年度、外部評価委員より指摘を受けた地域の医療者向けの研修や情報共有と、より多くの医療従事者や市民にがんプロの意義を伝える取り組みを実行した。
また、履修生1名が日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医を取得することができたため、自己評価は「a」とした。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

来年度も新たな履修生を募集するため、積極的に学内への案内を行っていく必要がある。また、がんプロ企画によるがん診療に携わる人材育成のための取り組みを院内セミナーや地域との連携協議会で案内し、募集を募っていく。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	佐賀大学
-----	------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	<u>Fujiita M.</u> , Okamoto S, Jinnouchi K, Kai K, Mihashi T, Kidoguchi K, Kusaba K, <u>Sano H.</u> , Itamura H, Yoshimura M, Katsuya H, Ando T, Kimura S. Histological confirmation and radiotherapy facilitate continuation of epcoritamab in a patient with tumor flare reaction. Int J Hematol. 2025;122:148-152.
2	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	Kimura S, Sako KI, Kikkawa N, Nakamaru Y, Matsuo S, Kusaba K, <u>Fujiita M.</u> , <u>Kidoguchi K.</u> , Okamoto S, Yoda Y, Kimura S, Shimano C. Simulation of perioperative Ibrutinib withdrawal using a population pharmacokinetic model and sparse clinical concentration data. Cancer Chemother Pharmacol. 2025;95:107
3	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	<u>Kidoguchi K.</u> , Ureshino H, Yamamoto Y, Yanagiya R, Kurahashi Y, Fukuda-Kurahasi Y, Mine Y, Aoki S, Nakashima K, Miyoshi H, Ohshima K, Kawaguchi A, Kimura S. Orally available decitabine prodrug OR-2100 induces mitotic perturbation for the treatment of double-hit lymphoma. Blood Neoplasia. 2025;2:100155.
4	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	Ureshino H, Nakamura Y, Budirahardja Y, Nozawa I, <u>Kidoguchi K.</u> , Kamachi K, Kimura S. Clinical Features and T-Cell Repertoire of Chronic Myeloid Leukemia Patients Who Attempt Discontinuation of Tyrosine Kinase Inhibitors: The ISAC-TFR Study. Cancer Med. 2025 Aug;14(15):e71142.
5	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	<u>Kidoguchi K.</u> , Ureshino H, Kimura S. Low Generic Drug Penetration for Expensive Oral Molecular Targeted Agents: An Experience with Generic Imatinib in Japan. Intern Med. 2025.
6	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	Watanabe T, <u>Kidoguchi K.</u> , Kimura S. Treating Hematological Malignancies With OR-2100, an Orally Bioavailable Prodrug of Decitabine. Cancer Sci. 2025;116:853-861.
7	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	Katsuya H, <u>Sano H.</u> , Sano H, Mihashi T, Nakashima C, Kai K, Kimura S. Case report: Efficacy of immune checkpoint inhibitors for high tumour mutational burden malignant phyllodes tumours of the breast as revealed by comprehensive genomic profiling. Front Immunol. 2025;16:1549452.
8	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	Kubota Y, <u>Sano H.</u> , Takeda Y, Yamaguchi K, Nakamura H, Kai K, <u>Kidoguchi K.</u> , Kusaba K, Yokoo M, Ando T, Sueoka E, Kimura S. Pure Red Cell Aplasia in a Patient with Thymic Hyperplasia, Hypogammaglobulinemia and Adult T-cell Leukemia/Lymphoma. Intern Med. 2025;64:1393-1398.

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	<u>佐野晴彦</u> , 勝野弘雄ら, HTLV-1キャリアおよびATL患者におけるHTLV-1 cell-free DNAの予後バイオマーカーとしての有用性, 第11回日本HTLV-1学会学術集会(鹿児島)2025年11月7日
2	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	<u>藤田真衣</u> , <u>嬉野博志</u> , <u>城戸口啓介</u> ら, 慢性骨髄白血病における3次治療以降のアシミニブの安全性および有効性の検討, 第87回日本血液学会学術集会(神戸)2025年10月10日
3	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	<u>嬉野博志</u> , <u>城戸口啓介</u> ら, 慢性骨髄性白血病無治療寛解維持におけるT細胞レパトア, 第87回日本血液学会学術集会(神戸)2025年10月10日

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	長崎大学
コーディネーター	大学院医歯薬学総合研究科 臨床腫瘍学分野 教授 芦澤 和人
事務担当者	生命医科学域・研究所事務部 学務課 主査（大学院）櫻井 香奈

1. 概要

テーマ
<p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p>

各テーマに対する今年度の実績
<p>今年度は、テーマ①に対応する「多面的がん診療専門医師・歯科医師養成コース」に2名、テーマ②に対応する「遺伝看護・遺伝カウンセリングコース」に1名、テーマ③に対応する「がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース」に4名、の学生を受け入れ、昨年度までの在籍する大学院生とともに、人材育成を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今期を含めた在籍するがんプロ大学院生に対し、e-learningの聴講、薬物療法・緩和医療を必須とした臨床実習を行った。 ・ゲノム医療の臨床実装に向けて、がんプロ教員及び大学院生は、がんゲノム医療に関する学会や講演会へ積極的に参加した。がんゲノム医療拠点病院である本学大学病院のエキスパートパネル（genomic cancer board：GCB）、事前のMolecular Tumor Board（MTB）及びClinical Tumor Board（CTB）へ、がんプロ大学院生が積極的に参加した。 ・大学院生に対し、在宅医療実習または離島・僻地実習を継続して行い、がん医療の現場で顕在化している課題を学んだ。 ・大学院生は、外来化学療法室及び緩和ケア外来、さらに核医学治療や放射線治療での実習並びにカンファレンスに参加し、またレジメン審査委員会への参加、腫瘍循環器外来の見学を行った。 ・大学病院のがん診療センターが主催する多職種を対象としたがん診療連携拠点病院研修会をがんプロで共催し、がんプロ教員や大学院生に加えて、多くの多職種の職員も研修会に参加した。 ・がんプロコーディネーターと大学院生1名が韓国訪問研修に参加した。High Volume Centerの見学やシンポジウムでのがんに関する最先端の研究内容の発表があり、充実した研修となった。 ・今期の大学院生の1名が放射線治療専門医、2名ががん治療認定医を取得した。
実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）
<ul style="list-style-type: none"> ・がんゲノム医療や放射線治療に関する講演会、大学病院がん診療センターとの共催の研修会（がん対策等）への参加、並びに薬物療法及び緩和ケア等に関する実習を通して、がん専門医療人の養成を行ってきた。さらに、在宅医療実習または離島・僻地実習を行うことで、地域医療や離島・僻地医療を理解し、がん医療の現場で顕在化している課題を学んだ。がんゲノム医療では、遺伝子パネル検査症例のエキスパートパネル（Genomic Cancer Board：GCB）、事前のMolecular Tumor Board（MTB）、Clinical Tumor Board（CTB）及びがん診療センター主催の院内がんボードへ大学院生が積極的に参加することで、学生のキャリア教育を進めた。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）
<ul style="list-style-type: none"> 今年度、多面的がん診療専門医師・歯科医師養成コース2名、がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース4名、遺伝看護・遺伝カウンセリングコース1名の学生を受け入れ、昨年度までに在籍する学生とともに、がんゲノム医療や個別化医療を含めたがん診療に関して、e-learningの聴講や実習を通して、専門医療人の育成を行なった。 在籍する大学院生が、上述のプログラムを通して得たがん専門分野の知識・技能を用いることにより、これまでの研究成果に関する学会発表及び論文作成を行った。 今期の大学院生の1名が放射線治療専門医、2名ががん治療認定医を取得した。
②シンポジウム、セミナー、講習会等
<ul style="list-style-type: none"> 大学院生が、がんゲノム医療や個別化医療を含めたがん診療に関する講演会及び研修会に参加することで、がん診療に関する重要な知識を習得した。また、エキスパートパネル（Genomic Cancer Board：GCB）、事前のMolecular Tumor Board（MTB）、Clinical Tumor Board（CTB）及び院内がんセンターボードに参加し、専門スタッフの討論に関する理解を深めることができた。 長崎大学がんプロ記念講演会（2月開催予定）では、オンラインを用いて、「腫瘍循環器学」をテーマに開催する予定である。 がんプロコーディネーターと大学院生1名が韓国訪問研修に参加し、High Volume Centerの見学やシンポジウムでのがんに関する最先端の研究内容の発表があり、充実した研修となった。
③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）
<ul style="list-style-type: none"> 今年度は「頭頸部癌ってどんな癌？」「長崎大学病院頭頸部腫瘍センターでの頭頸部癌に対する取り組み」をテーマにして、大学病院のがん診療センターが主催する県民公開講座「がんについてよく考えよう」を共催し、専門スタッフと特別ゲストによる講演で、県民への情報発信を行なった。 これまで大学院生の在宅医療実習及び離島・僻地実習の報告書をHPに掲載し、ライフステージに応じた地域がん医療に貢献する学生の活動に関する情報を発信している。
④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）
<ul style="list-style-type: none"> 大学病院（県がん診療連携拠点病院）と連携し、大学病院がん診療センターが主催する多職種を対象とした研修会や県民公開講座「がんについてよく知ろう」を共催した。 大学院生に対して、大学病院内での薬物療法及び緩和ケアに関する臨床実習を行い、チーム医療や多職種連携の重要性を学習した。 院内で定期開催される緩和ケアカンファレンス、エキスパートパネル（Genomic Cancer Board：GCB）、事前のMolecular Tumor Board（MTB）、Clinical Tumor Board（CTB）及び院内がんセンターボードに大学院生が積極的に参加し、さらに在宅医療実習及び離島・僻地実習等を含めて、病病連携及び病診連携を強化するよう努めた。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない
b:目標を達成できている
理由・分析等
今年度、多面的がん診療専門医師・歯科医師養成コース2名、がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース4名、遺伝看護・遺伝カウンセリングコース1名の学生を受け入れ、昨年度までに在籍する学生とともに、がんゲノム医療や個別化医療を含めたがん診療に関して、e-learningの聴講や実習を通して、専門医療人の育成を行なった。
自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等
来年度は、テーマ①～③を念頭にさらなる大学院生の受け入れを行い、第3期入学の在籍中の大学院生とともに、引き続き、次世代のがん専門医療人育成の教育を実施していきたい。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	長崎大学
-----	------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻・放射線医療科学専攻 がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程）	Hayashi E, Matsuo M, Takemoto S, Ogata R, Umeyama Y, Nakatomi K, Ikeda T, Sugasaki N, Doi S, Kitazaki T, Akagi K, Tomono H, Honda N, Dotsu Y, Taniguchi H, Gyotoku H, Fukuda M, Soda H, Mukae H. A phase II clinical trial on the efficacy and safety of carboplatin plus nab-paclitaxel in chemotherapy-naïve advanced or recurrent thymic epithelial tumors: protocol of Nab-TET, Journal of Thoracic Disease, 17(9), 7343-7351, 2025

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 保健学専攻 遺伝看護・遺伝カウンセリングコース（修士課程）	森藤香奈子, 田崎千尋, 井手尾里美, 柏原由紀乃, 古賀和, 佐々木規子, 小学校低学年を対象とした集団での遺伝教育の試み, 第49回日本遺伝カウンセリング学会(札幌), 2025年8月1日~3日
2	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 保健学専攻 遺伝看護・遺伝カウンセリングコース（修士課程）	井手尾里美, 及川将弘, 江崎章子, 松本恵, 田崎千尋, 高橋友美, 柏原由紀乃, 古賀和, 森藤香奈子, 佐々木規子, 乳癌診断時に遺伝性乳癌卵巣癌を疑われた患者の遺伝学的検査受検に至る経験, 第49回日本遺伝カウンセリング学会(札幌), 2025年8月1日~3日
3	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 保健学専攻 遺伝看護・遺伝カウンセリングコース（修士課程）	田崎千尋, 井手尾里美, 柏原由紀乃, 古賀和, 松田理子, 高尾真未, 佐々木規子, 森藤香奈子, デルファイ法を用いた『ヒトの遺伝に関する認識尺度』の妥当性の検証, 第49回日本遺伝カウンセリング学会(札幌), 2025年8月1日~3日
4	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻・放射線医療科学専攻 がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程）	鄭 晔剛, 大腸手術後の呼吸器合併症の危険因子: 多施設共同研究, 第125回日本外科学会(仙台)2025年4月10日
5	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻・放射線医療科学専攻 がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程）	鄭 晔剛, 高齢者大腸癌患者に対するロボット支援下手術の有用性, 第33回日本消化器関連学会週間(神戸)2025年11月1日
6	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻・放射線医療科学専攻 がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程）	諸富 幸, 進行下咽頭癌に対する導入化学療法の治療成績の検討, 第49回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会(札幌)2025年6月14日
7	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻・放射線医療科学専攻 がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程）	諸富 幸, 下咽頭癌に対する導入化学療法としてのTPF療法とPCE療法の治療成績の比較, 第35回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会(横浜)2026年2月5日

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	熊本大学
コーディネーター	岡部 弘尚
事務担当者	尾崎 瑞穂

1. 概要

テーマ
<p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p>

各テーマに対する今年度の実績

- 令和7年度は「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」の新規加入者は3名、「ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース」の加入者は1名となり、目標を達成することができた。前年度から引き続きがんプロ事業に取り組み、「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」の在籍者8名および「ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース」の在籍者1名に対し、消化器におけるがん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成を図った。
- 「日本内視鏡外科学会技術認定医」1名（取得見込み）、「消化器病学会専門医」1名、「消化器外科専門医」1名、「がん治療認定医」（取得見込み）2名、「外科専門医」1名、「消化器病専門医」2名が専門医資格を取得、もしくは今年度中に取得見込みである。
- 消化器がんに関するセミナーを6回開催した。また、がん専門薬剤師養成・特別講演を2回開催した。セミナーには大学院生、医師、薬剤師、看護師及び理学療法士等、総計で258名の多職種の参加があった。
- 消化器外科学会、日本外科学会、胃外科・術後障害研究会、日本内視鏡外科学会総会、日本消化管学会総会、日本食道学会学術集会、次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム等の国内学会でコース生の多くが参加し、研究成果を発信するとともに、最先端のがん研究について学ぶ機会を得ることができた。
- がん治療に関する最先端の情報を理解し、集学的ながん治療を実践できる研究者・薬剤師を養成するために、国内外で先駆的に活躍する講師のセミナーを複数回開催している。また、昨年度から引き続きインテンシブコースの受講者を受け入れ、がん患者個別のライフステージ・QOLに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師の育成に努めている。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

- 研修に従事しながら大学院生として研究を行うことで、臨床と研究のバランスの取れたがん専門医の育成を行うことができ、また、専門医資格取得のサポートにも務め、専門医資格を複数名が取得することができた。
- 大学院生として研究の成果を論文業績として情報発信し、29編の英文業績取得に関わることができた。今後の研究を推進する力を育成できている。
- 国内学会で14件の研究発表をコース生が行い、がんに対する研究成果を広く情報発信することができた。
- 6回開催した「消化器がんに関するセミナー」ではオンラインやハイブリッド形式で実施することで県内のみならず、県外からも多くの参加者があり、最先端のがん治療に関する情報を発信し、多職種人材の育成に貢献することができた。
- がん治療の最前線で活躍する講師（薬剤師）による講演会・セミナーを通して、がん治療の現状およびがん薬物療法の課題を学ぶと共に、集学的な知識を基盤とし、課題を克服するための薬剤師の役割（TDMや副作用コントロール等）、さらにはがん専門薬剤師・がん薬物療法専門医制度等についても触れることで、がん薬物療法に関して全般的知識を得ることができた。

- ・インテンシブコースでは様々な領域の教育プログラムを通して、がん免疫療法、病理診断、放射線治療、遺伝性腫瘍、緩和医療など幅広い知識をえることができた。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

- ・研修医・大学院一体型がん専門博士養成コースでは12月に1名、3月に2名、ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コースでは今年度中に1名がコースを修了予定である。
- ・「日本内視鏡外科学会技術認定医」1名（取得見込み）、「消化器病学会認定医」1名、「消化器外科専門医」1名、「がん治療認定医」（取得見込み）2名、「外科専門医」1名、「消化器病専門医」2名が専門医資格を取得することができ、即戦力となる人材を養成することができた。
- ・臨床と研究のバランスのとれた育成を行うことで、コース生の論文が英文誌に29編掲載された。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

- ・消化器がんに関するセミナーを5回開催し、コース生、医師、看護師等総計で194名を超える参加があった。セミナーでは岡山大学、水俣市立総合医療センター、大阪大学、済生会熊本病院、熊本総合病院、がん研有明病院から講師を招き、消化器がんに関する最新の治療法に関して学ぶ機会を得ることができた。
- ・インテンシブコースでは、ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コースの一環として特別講演を2回開催し、総計で64名の参加予定である。特別講演では、株式会社新日本科学一般社団法人メディポリス医学研究所、九州大学病院から講師を招く予定である。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

- ・本学のがんプロWebサイトを通して、「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」、「ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース」それぞれのコースの特色等についての紹介を行っている。
- ・セミナー情報やコース生の受賞情報について、Webサイトを通して計10回の更新を行い、がんプロコースの取り組みについて、地域へ広く情報発信を行った。



お知らせ		セミナー情報	
2025.12.2	2025年12月15日(月) 第15回第5Web研修...	2025.12.2	がん研有明病院から講師を招き、消化器がんに関する最新の治療法に関して学ぶ機会を得ることができた。
2025.7.18	2025年7月25日 第13回熊本Web研修(消化器外科)...	2025.7.18	がん研有明病院から講師を招き、消化器がんに関する最新の治療法に関して学ぶ機会を得ることができた。
2025.7.18	2025年7月25日 Webセミナー - Pancreas...	2025.7.18	がん研有明病院から講師を招き、消化器がんに関する最新の治療法に関して学ぶ機会を得ることができた。
2025.5.20	2025年5月25日 熊本県立がん研有明病院から講師を招き、消化器がんに関する最新の治療法に関して学ぶ機会を得ることができた。	2025.5.20	熊本県立がん研有明病院から講師を招き、消化器がんに関する最新の治療法に関して学ぶ機会を得ることができた。
2025.4.8	2025年4月25日 Gastric Cancer...	2025.4.8	消化器がんに関する最新の治療法に関して学ぶ機会を得ることができた。
2025.2.27	2025年2月27日 第18回熊本Web研修(消化器外科)...	2025.2.27	消化器がんに関する最新の治療法に関して学ぶ機会を得ることができた。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」ではコース生が初期臨床研修医として本学病院で診療やカンファレンスに参加し、がん治療と緩和ケア等の実際を学ぶ機会を得ることができた。
- ・消化器がんに関するセミナーでは本学病院の医師が講師として消化器がんの最新治療に関する講演を行い、コース生、医師、薬剤師等多職種の方へ情報発信を行った。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない
b:目標を達成できている
理由・分析等
<ul style="list-style-type: none">・「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」では8名の在籍者が英文雑誌への論文の投稿や国際学会及び国内学会で発表を行う等、がん治療に関する研究成果を広く発信するとともに、先進事例を積極的に収集することができた。・専門医資格取得に向けたサポートを強化し、コース生ががん治療認定医、消化器外科専門医等の資格を取得することができ、がん専門人材養成に寄与することができた。・平成30年度に計画した「ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース」について、計画通りに研修生を受け入れており、目標としていたコース受講者数を達成した。
自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等
<ul style="list-style-type: none">・「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」では今年度の新規加入者が目標を達成することができたため、来年度も引き続き達成できるよう大学院生の確保に努める。・「ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース」でも、コース受講者の確保に努めるため、あらゆるツールを活用して積極的に情報発信を行う。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	熊本大学
-----	------

○ 英文誌

No.	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	<u>Ofuchi T.</u> , Otsu H, Hosoda K, Ikehara T, Tsujimoto S, Higuchi S, Shibuta S, Ono Y, Hirose K, Tsuda Y, Yonemura Y, Masuda T, Hayashi H, Iwatsuki M, and Mimori K. VPS45 promotes the progression of hepatocellular carcinoma by recycling $\beta 1$ integrin to the cell membrane via the endocytic pathway. J Gastroenterol. 2025.
2	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	<u>Ofuchi T.</u> , Otsu H, Hosoda K, Ikehara T, Higuchi S, Tatsumi T, <u>Omachi K.</u> , Tsujimoto A, Hirose K, Tsuda Y, Yonemura Y, Hayashi H, Masuda T, Iwatsuki M, and Mimori K. Clinical and Biological Significance of Sodium Channel Modifier 1 as a Component of the Minor Spliceosome in Hepatocellular Carcinoma. Ann Surg Oncol. 2025. 32(6):4508-4519
3	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	<u>Ofuchi T.</u> , Otsu H, and Mimori K. ASO Author Reflections: SCNMI as a Novel Driver of Hepatocellular Carcinoma and a Potential Therapeutic Target. Ann Surg Oncol. 2025. 32(6):4522-4523.
4	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	<u>Ofuchi T.</u> , Kosumi K, and Iwatsuki M. Advancing surgical options in esophageal cancer: key findings from the ROMIO randomized clinical trial. J Thorac Dis. 2025. 17(1): p. 5-9.
5	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	<u>Ofuchi T.</u> , Hirose K, Hosoda K, Ikehara T, Higuchi S, Tsujimoto A, Wada A, Tamaoka Y, Tsuda Y, Otsu H, Yonemura Y, Iwatsuki M, and Mimori K. Identification of the Lynch Syndrome and Lynch-like Syndrome Specific Somatic Mutations in Microsatellite Instability-High Colorectal Cancer Cases. Surg Today. 2025. (accepted)
6	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	<u>Ofuchi T.</u> , Hu Q, <u>Omachi K.</u> , Kanemitsu K, Otsu H, Yonemura Y, Tobo T, Baba Y, Iwatsuki M, and Mimori K. Intratumoral Fusobacterium Nucleatum Drives Cancer-Associated Fibroblasts Enrichment and Immune Exclusion in Esophageal Squamous Cell Carcinoma. Ann Gastroenterol Surg. 2025. (accepted)
7	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	<u>Ofuchi T.</u> , Kosumi K, and Iwatsuki M. Advancing surgical options in esophageal cancer: key findings from the ROMIO randomized clinical trial. J Thorac Dis. 2025. 17(1): p. 5-9.
8	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	Tanaka C, <u>Ofuchi T.</u> , Ninomiya K, Inoue D, Sugimoto K, Murofushi K, Okuyama T, Watanuki S, Imamura C, Sakai D, Sakurai N, Watanabe K, Tamura K, Saeki T, and Ishiguro H. Surgery for Older Cancer Patients: Cross-Organ Review and Good Practice Statement by the Japanese Geriatric Oncology Guideline Committee. Ann Gastroenterol Surg. 2025. 2025; 0:1-9.
9	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	Hirose K, <u>Ofuchi T.</u> , and Mimori K. ASO Author Reflections: Synergistic Induction of PD-L1 in ESCC by Chemotherapy and Tumor-Associated Macrophages. Ann Surg Oncol. 2025.
10	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	Yonemura Y, <u>Ofuchi T.</u> , Nakano T, Higuchi S, Kawata K, Ikehara T, <u>Omachi K.</u> , Tsujimoto A, Hirose K, Shibuta S, Ando Y, Hu Q, Otsu H, Yoshizumi T, and Mimori K. Identification of a novel therapeutic target gene, SLC12A9 that determines the prognosis of patients with colorectal cancer. Surg Today. 2025. (accepted)
11	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	Nakano Y, Tanaka M, Sakamoto T, Hashimoto M, Saito H, Abe T, Ikehara T, <u>Ofuchi T.</u> , Kawata K, Tobo T, Masuda T, Ogino T, Uemura M, Eguchi H, Doki Y, and Mimori K. Epigenetic Regulation of G6PD Drives Metabolic Reprogramming in Intrahepatic Cholangiocarcinoma. Cancer Sci. 2025. (accepted)
12	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	Higuchi S, Otsu H, Masuda T, Hashimoto M, Nakano Y, Hosoda K, Hirose K, Ikehara T, <u>Ofuchi T.</u> , Tsuda Y, Yonemura Y, Uemura M, Eguchi H, Doki Y, and Mimori K. SEC61G promotes colorectal cancer progression by regulating cytosolic Ca ²⁺ concentration. J Gastroenterol. 2025.
13	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	Hiraki Y, Masuda T, Motomura Y, Tobo T, Saito H, Hirose K, <u>Ofuchi T.</u> , Tsuda Y, Otsu H, Yonemura Y, Kai S, Hirakawa M, Ishigami K, and Mimori K. Programmed Cell Death 10 (PDCD10) Is a Candidate Tumor-associated Gene in Esophageal Squamous Cell Carcinoma. Anticancer Res. 2025. 45(4): p. 1419-1433.
14	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	Hirose K, Masuda T, Otsu H, Tobo T, Hosoda K, Abe T, Nakano Y, Hashimoto M, Tatsumi T, Ikehara T, <u>Ofuchi T.</u> , Itoyama S, Ando Y, Tsuda Y, Yonemura Y, Sugimachi K, Oki E, Yoshizumi T, and Mimori K. Polarity Gene PARD6B Promotes Tumor Growth of Colorectal Cancer via Increasing MYC Expression. Cancer Sci. 2025.
15	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	Hirose K, Otsu H, Masuda T, Saeki H, Tobo T, Hosoda K, Matsumoto C, Tatsumi T, Ikehara T, <u>Ofuchi T.</u> , Higuchi S, Abe T, Nakano Y, Hashimoto M, Nakanoko T, Oki E, Yoshizumi T, and Mimori K. Cytotoxic Anti-tumor Drugs and Tumor-Associated Macrophages Synergistically Surge PD-L1 Expression in Esophageal Squamous Cell Carcinoma. Ann Surg Oncol. 2025.
16	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	Abe T, Masuda T, Tobo T, Hashimoto M, Nakano Y, Saito H, <u>Ofuchi T.</u> , Ikehara T, Tsujimoto A, Nakano T, Dairaku K, Takahashi J, Koike K, Ando Y, Hosoda K, Tatsumi T, Hirose K, Higuchi S, Otsu H, Yonemura Y, Eto Y, Ikegami T, and Mimori K. ZNF282 promotes colorectal cancer progression possibly via E2F1 activation. Cancer Sci. 2025. (accepted)
17	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	Ono Y, Otsu H, Masuda T, Kosai K, Shibuta S, Hirose K, <u>Ofuchi T.</u> , Ando Y, Kawata K, Tsuda Y, Yonemura Y, Tobo T, Takenaka T, Yoshizumi T, and Mimori K. PSM12 Overexpression Promotes Lung Adenocarcinoma Progression via Ubiquitin-Proteasome Pathway Dysregulation. Cancer Sci. 2025.
18	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	<u>Morito A.</u> , Eto K, Tsubakihara H, Ida S, Makuuchi R, Miyazaki N, Irino T, Hayami M, Nunobe S, Iwatsuki M. Impact of gastrectomy for gastric cancer on postoperative bone mineral density loss and fracture risk: A multicenter study. Clin Nutr. 2025
19	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	Ikeda J, Takeuchi M, Kawakubo H, Yura M, Kinoshita T, <u>Morito A.</u> , Nunobe S, Morimoto Y, Egawa T, Furube T, Maeda Y, Matsuda S, Kitagawa Y. Assessment of AI-driven anatomical recognition in robotic gastrectomy: A multicenter retrospective analysis. Surg Endosc. 2025
20	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	Adachi Y, Okabe H, Hayashi H, Tagayasu Y, <u>Tanizaki T.</u> , Yumoto S, Kanemitsu K, <u>Tajiri T.</u> , Ogawa D, Itoyama R, Kitano Y, Nakagawa S, Nitta H, Masuda T, Sugita H, Iwatsuki M. Round ligament coverage with polyglycol acid mesh and fibrin glue on pancreatic stump may decrease postoperative pancreatic fistula in distal pancreatectomy. Br J Surg. 2025 Apr 30;112(5):znaf101. doi: 10.1093/bjs/znaf101.
21	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	Suzuki Y, Okabe H, Hayashi H, Sako T, Hisano Y, <u>Tanizaki T.</u> , Tagayasu Y, Kanemitsu K, Adachi Y, <u>Tajiri T.</u> , Yumoto S, Ogawa D, Itoyama R, Kitano Y, Eto K, Nakagawa S, Iwatsuki M. A case of pancreatic cancer with high microsatellite instability exhibiting rare clinical features. Clin J Gastroenterol. 2025
22	研修医・大学院一体系がん専門博士養成コース	<u>Tajiri T.</u> , Mima K, Beppu T, Hayashi H, Horino T, Adachi Y, Imai K, Masuda T, Miyamoto Y, Iwatsuki M. RAS-Beppu Classification: A New Recurrence Risk Classification System Incorporating the Beppu Score and RAS Status for Colorectal Liver Metastases. Cancers (Basel). 2025 Feb 14;17(4):640.

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

23	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Hiyoshi Y, Yamasaki A, Miyamoto H, <u>Tajiri I</u> , Tokunaga R, Harada K, Eto K, Nagai Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Baba Y, Miyamoto Y, Yoshida N, Baba H. Needlescopic and Endoscopic Cooperative Surgery for Colonic Tumors. Dis Colon Rectum. 2021 Mar 1;64(3):e52-e53.
24	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Kitano Y, Hayashi H, <u>Tanizaki I</u> , Tagayasu Y, Matsumoto T, Itoyama R, Nakagawa S, Okabe H, Iwatsuki M. Prognostic Impact of Hepatectomy Versus Radiofrequency Ablation for Non-Small Hepatocellular Carcinoma (2-3 cm): A Case-Matched Study. Ann Gastroenterol Surg. 2025 May 31;9(6):1303-1311.
25	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Tagayasu Y, Yamada R, Kanemitsu K, Kondo Y, Fujiwara Y, <u>Tanizaki I</u> , Itoyama R, Kitano Y, Hayashi H, Komohara Y, Iwatsuki M. Increased Infiltration of Tissue-Resident Memory T Cells Predicts a Good Response to Anti-PD-L1 Immunotherapy in Extrahepatic Cholangiocarcinoma. Pathobiology. 2025 Jul 25:1-11.
26	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Nakashima R, Kitano Y, Okabe H, <u>Tanizaki I</u> , Yusa T, Itoyama R, Nakagawa S, Mima K, Hayashi H. Rising pseudocysts in the hepatoduodenal ligament caused by a ruptured intraductal papillary mucinous neoplasm with surgical treatment. J Gastroenterol Hepatol. 2024 Dec;39(12):2477-2478.
27	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Maeda Y, Kosumi K, <u>Tsubakihara H</u> , Hara Y, Eto K, Ida S, Miyamoto Y, Yoshida N, Iwatsuki M. Skeletal muscle volume by 3D imaging and long-term survival in esophageal squamous cell carcinoma with neoadjuvant chemotherapy. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2025 Sep 22.
28	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Matsumoto M, Eto K, Ida S, <u>Tsubakihara H</u> , Kosumi K, Harada K, Miyamoto Y, Uekawa K, Musaka A, Iwatsuki M. Postoperative Solitary Brain Metastasis from Residual Gastric Cancer: A Rare Case Report. Surg Case Rep. 2025;11(1):25-0306.
29	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Omura R, Ida S, <u>Tsubakihara H</u> , Kosumi K, Harada K, Eto K, Miyamoto Y, Iwatsuki M. Gastroduodenal Intussusception with Gastric Adenocarcinoma: A Case Report and Review of the Literature. Surg Case Rep. 2025;11(1):25-0184.

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>大淵 昂</u> , 肝細胞癌ドライバー遺伝子候補SCNM1の同定と臨床的意義, 第125回日本外科学会 (仙台) 2025年4月11日
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>大淵 昂</u> , Sodium Channel Modifier 1 (SCNM1) is a candidate driver gene for hepatocellular carcinoma, 第80回消化器外科学会 (神戸) 2025年7月18日
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>田尻 拓哉</u> , RAS-Bepu分類: 大腸癌肝転移におけるBepu scoreとRAS変異を考慮した新しい再発リスク分類, 第125回日本外科学会定期学術集会 (仙台) 2025年4月11日
4	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>森戸 淳</u> , 幕内梨恵, 李基成, 入野誠之, 速水克, 大橋学, 布部創也, 術後骨密度低下と骨折発生における幽門側胃切除と胃全摘の比較, 第125回日本外科学会定期学術集会 (仙台) 2025年4月10日
5	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>森戸 淳</u> , 江藤弘二郎, <u>樺原 拓樹</u> , 井田智, 幕内梨恵, 入野誠之, 速水克, 布部創也, 岩槻政晃, 胃癌術後の骨密度変化と骨折リスクに関する2施設研究, 第80回日本消化器外科学会総会 (神戸) 2025年7月18日
6	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>森戸 淳</u> , 入野誠之, 李基成, 速水克, 布部創也, 高齢者における胃切除後骨障害に対する幽門保存胃切除術の意義, 第55回胃外科・術後障害研究会 (山梨) 2025年11月14日
7	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>森戸 淳</u> , 幕内梨恵, 李基成, 速水克, 入野誠之, 布部創也, 胃癌に対するロボット支援下胃全摘術と腹腔鏡下胃全摘術の短期・中期成績の比較, 第38回日本内視鏡外科学会総会 (横浜) 2025年12月12日
8	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>森戸 淳</u> , 杉浦光太, 竹中俊介, 須田寛士, 工藤健介, 速水克, pT1b胃癌と食道胃接合部癌における噴門側胃切除後のリンパ節転移頻度の比較検討, 第22回日本消化管学会総会 (熊本) 2026年2月20日
9	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>大町一樹</u> , 増田隆明, 大津甫, 細田清孝, <u>大淵 昂</u> , 肝細胞癌における新規ドライバー遺伝子TMEM206の同定, 第125回日本外科学会定期学術集会 (仙台) 2025年4月11日
10	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>大町一樹</u> , 食道扁平上皮癌における術前DCF療法の投与回数と臨床病理学的因子の検討, 第79回日本食道学会学術集会 (京都) 2025年6月27日
11	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>大町一樹</u> , 肝細胞癌における新規ドライバー遺伝子TMEM206の同定と機能解明, 第80回日本消化器外科学会総会 (神戸) 2025年7月18日
12	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>大町一樹</u> , 食道扁平上皮癌微小環境におけるfusobacterium nucleatumによる免疫寛容の分子機構解明, 第36回日本消化器癌発生学会総会 (福岡) 2025年12月17日
13	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>樺原 拓樹</u> , オステオサルコペニアOsteosarcopeniaと胃癌術後短期・長期成績に与える影響の検討, 第125回日本外科学会定期学術集会 (仙台) 2025年4月10日
14	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>樺原 拓樹</u> , 胃癌根治術後におけるOsteosarcopenia・Osteopenia・Sarcopeniaと長期予後の関連, 第34回日本癌病態治療研究会 (福島) 2025年6月19日
15	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>樺原 拓樹</u> , 短期中期成績からみたロボット支援下胃切除手術の妥当性～腹腔鏡下胃切除と比較して～, 第80回日本消化器外科学会総会 (神戸) 2025年7月18日
16	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>樺原 拓樹</u> , プロベンシティブスコアマッチングを用いたオステオサルコペニアと胃癌根治術後長期成績との関連, 第22回日本消化管学会総会学術集会 (熊本) 2026年2月20日
17	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>樺原 拓樹</u> , 切除不能・再発進行胃癌における、RAM+PTXによる二次治療PFS期間がNivoiによる三次治療の長期予後に及ぼす影響, 第58回制癌剤適応研究会 (軽井沢) 2026年2月27日

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

18	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	橋原拓樹, 胃癌患者における大腰筋体積を用いた骨格筋指数によるCachexia index (CXI)の予後因子としての有用性の検討, 第98回胃癌学会総会(沖縄)2026年3月6日
19	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	谷崎卓実, 林洋光, 田尻拓哉, 肝硬変に伴う脾機能亢進症に対する腹腔鏡下脾臓摘出術(Lap-Spx)の肝機能改善効果~Child-Pugh score, Fib4-index に着目した比較検討~, 第125回日本外科学会定期学術集会(宮城)2025年4月10
20	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	谷崎卓実, 林洋光, 田尻拓哉, 肝機能, 肝線維化に対して腹腔鏡下脾臓摘出術が与える影響と肝機能改善効果, 第80回日本消化器外科学会総会(兵庫)2025年7月18日
21	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	谷崎卓実, 林洋光, 耕佳徹, CCL4誘発性肝線維化モデルマウスを用いた肝脾相関の解析, 第32回日本門脈圧亢進症学会総会(奈良)2025年9月12日
22	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	谷崎卓実, 林洋光, 耕佳徹, 膵神経内分泌腫瘍(P-NEN)に類似した画像所見を示した濾胞性膵炎の1例, 第79回日本消化器画像診断研究会(福岡)2025年9月20日
23	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	谷崎卓実, 巨脾に対する腹腔鏡下脾臓摘出術における術前脾動脈塞栓(PSAE: Preoperative Splenic Artery Embolization)の臨床的有効性, 第87回日本臨床外科学会学術集会(東京)2025年11月21日
24	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	久野祐樹, 中川茂樹, 酒匂照生, 谷崎卓実, 耕佳徹, 田尻拓哉, 肝門部領域胆管癌におけるConditional Borderline Resectable に関わる因子の検討, 第125回日本外科学会定期学術集会(仙台)2025年4月11日
25	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	久野祐樹, 膵頭十二指腸切除術後のPPHのリスク因子の検討, 第80回日本消化器外科学会総会(神戸)2025年7月18日
26	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	久野祐樹, 診療時間外に生じたPPHに対する情報共有アプリの有用性, 第17回Acute Care Surgery学会(佐賀)2025年9月20日
27	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	中村豊, 小腸癌切除症例患者における臨床病理学的検討, 第125回日本外科学会定期学術集会(仙台)2025年4月12日
28	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	中村豊, 当院における潰瘍性大腸炎に対する緊急手術症例の検討, 第126回日本消化器病学会九州支部例会(大分)2025年11月29日
29	ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース(インテンシブコース)	米丸興, 放射線抵抗性を獲得した口腔扁平上皮がん患者に対するCYLD発現に基づいた新規治療標的の探索, 第19回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム(京都)2025年9月6-7日
30	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	林洋光, 北野雄希, 伊東山瑠美, 足立優樹, 金光紘介, 田尻拓哉, 大淵昂, 小川大輔, 湯本信成, 耕佳徹, 谷崎卓実, 高難度肝切除におけるロボット支援下手術の有用性, 第125回日本外科学会定期学術集会,(仙台)2025年4月10日
31	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	井田智, 江藤弘二郎, 橋原拓樹, 胃癌患者における術前トランスフェリン飽和度の新規予後予測因子としての有用性, 第125回日本外科学会定期学術集会,(仙台)2025年4月10日
32	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	岡部弘尚, 林洋光, 久野祐樹, 切除境界膵癌における術前化学療法の有効性, 生存予後因子の検討, 第125回日本外科学会定期学術集会,(仙台)2025年4月11日
33	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	江藤弘二郎, 井田智, 橋原拓樹, 胃癌ロボット支援下幽門側胃切除におけるFusion surgeryの有用性, 第125回日本外科学会定期学術集会,(仙台)2025年4月10日
34	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	北野雄希, 林洋光, 小川大輔, 酒匂照生, 久野祐樹, 胆嚢癌疑診症例に対する根治性を担保した低侵襲手術のための治療戦略, 第125回日本外科学会定期学術集会,(仙台)2025年4月12日
35	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	小川克大, 宮本裕士, 中村豊, ステージIV 閉塞性大腸癌に対する治療戦略, 第125回日本外科学会定期学術集会,(仙台)2025年4月11日
36	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	小川大輔, 林洋光, 足立優樹, 大淵昂, 金光紘介, 田尻拓哉, 胆嚢癌と良性疾患の鑑別における栄養免疫学的指標の臨床的有用性, 第125回日本外科学会定期学術集会,(仙台)2025年4月10日
37	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	足立優樹, 林洋光, 金光紘介, 田尻拓哉, 大淵昂, 膵癌周術期成績における栄養指標の有用性, 第125回日本外科学会定期学術集会,(仙台)2025年4月11日
38	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	金光紘介, 林洋光, 足立優樹, 大淵昂, 田尻拓哉, RAS 遺伝子変異の有無が大腸癌肝転移術後再発パターンに与える影響, 第125回日本外科学会定期学術集会,(仙台)2025年4月12日
39	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	耕佳徹, 林洋光, 島本将希, 高田一登, 鈴木裕紀子, 高橋啓太, 式地優樹, 久野祐樹, PS-137-5肝内胆管癌切除症例の検討—Small duct type, Large duct type での比較—, 第125回日本外科学会定期学術集会,(仙台)2025年4月12日
40	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	成富未果, 小川克大, 中村豊, 切除可能膵癌における術前および術後化学療法の役割と長期予後への影響, 第125回日本外科学会定期学術集会,(仙台)2025年4月12日
41	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	伊東山瑠美, 林洋光, 高橋啓太, 島本将希, 鈴木裕紀子, 高田一登, 式地優樹, 久野祐樹, 切除可能膵癌における術前および術後化学療法の役割と長期予後への影響, 第125回日本外科学会定期学術集会,(仙台)2025年4月11日
42	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	島本将希, 岡部弘尚, 林洋光, 久野祐樹, 切除可能膵癌に対する術前化学療法施行例における治療効果予測因子, 生存予後因子の検討, 第125回日本外科学会定期学術集会,(仙台)2025年4月10日
43	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	高橋啓太, 伊東山瑠美, 林洋光, 島本将希, 鈴木裕紀子, 高田一登, 式地優樹, 久野祐樹, 切除不能膵癌に対するconversion surgeryの現状, 第125回日本外科学会定期学術集会,(仙台)2025年4月10日

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

44	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	酒匂照生, 林洋光, 久野祐樹, ロボット支援下膝頭十二指腸切除術における膝空腸吻合法に関する検討, 第125回日本外科学会定期学術集会, (仙台) 2025年4月10日
45	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	鈴木裕紀子, 北野雄希, 式地優樹, 島本将希, 高田一登, 高橋啓太, 酒匂照生, 久野祐樹, ロボット支援下膝頭十二指腸切除術後の食事形態と周期成績の検討, 第125回日本外科学会定期学術集会, (仙台) 2025年4月12日
46	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	湯本信成, 林洋光, 耕佳徹, 谷崎卓実, Minimally invasive pancreatoduodenectomy の周期成績および術後の栄養・免疫状態における有用性の検討, 第125回日本外科学会定期学術集会, (仙台) 2025年4月12日
47	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	大内蘭子, 宮本裕士, 中村豊, 85歳以上の超高齢者大腸癌に対する手術成績, 第125回日本外科学会定期学術集会, (仙台) 2025年4月11日
48	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	高津研翔, 大内蘭子, 中村豊, 直腸癌術後の縫合不全に関する因子の検討, 第125回日本外科学会定期学術集会, (仙台) 2025年4月12日
49	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松本将弥, 江藤弘二郎, 井田智, 榎原拓樹, 胃癌における免疫チェックポイント阻害剤後予測因子としてのリンパ球/CRP 比の有用性, 第125回日本外科学会定期学術集会, (仙台) 2025年4月10日
50	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	金光紘介, 林洋光, 足立優樹, 大淵昂, 田尻拓哉, 大腸癌肝転移術後再発に対するPFAの有用性, 第47回日本癌局所療法研究会, (千葉) 2025年5月9日
51	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	山下晃平, 榎原拓樹, 胃癌における免疫チェックポイント分子の空間的・経時的な腫瘍不均一性の包括的解析, 第46回癌免疫外科研究会, (岡山) 2025年5月15日
52	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	小川克大, 宮本裕士, 高津研翔, 久野祐樹, 消化器外科教室からAcute care surgeonを育成し大規模災害に備える, 第50回外科系連合学会 (福井) 2025年5月23
53	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Hirohisa Okabe, Hiromitsu Hayashi, Yuki Adachi, Teruki Sako, Yuki Hisano, Round ligament coverage with polyglycolic acid mesh and fibrin glue on pancreatic stump is effective for decreasing postoperative pancreatic fistula in distal pancreatectomy, 第37回日本肝胆膵外科学会学術集会 (長野) 2025年6月14日
54	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Yuki Adachi, Hiromitsu Hyashi, Kousuke Kanemitsu, Takuya Tajiri, Usefulness of Nutritional Index in Multidisciplinary Therapy of Pancreatic Cancer, 第37回日本肝胆膵外科学会学術集会 (長野) 2025年6月13日
55	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Teruki Sakoh, Hirohisa Okabe, Hiromitsu Hayashi, Yuki Hisano, Clinical factors associated with postoperative malnutrition after total pancreatectomy, 第37回日本肝胆膵外科学会学術集会 (長野) 2025年6月13日
56	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Masaya Matsumoto, Hiromitsu Hayashi, Yuki Adachi, Kosuke Kanemitsu, Takuya Tajiri, The utility of preoperative Advanced Lung Cancer Inflammation Index (ALI) as a prognostic factor in HCC patients, 第37回日本肝胆膵外科学会学術集会 (長野) 2025年6月13日
57	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	原田和人, 榎原拓樹, 免疫チェックポイント阻害薬治療によるDysphagia Score 変化の検討, 第79回日本食道学会学術集会 (京都) 2025年6月27日
58	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	足立優樹, 岡部弘尚, 林洋光, 田尻拓哉, 膵体尾部切除における肝門索パッチを用いた術後膵液漏予防のための工夫, 第80回日本消化器外科学会総会 (神戸) 2025年7月17日
59	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	金光紘介, 林洋光, 足立優樹, 大淵昂, 田尻拓哉, KRAS 遺伝子変異の有無が大腸癌肝転移術後再発後の予後に与える影響, 第80回日本消化器外科学会総会 (神戸) 2025年7月17日
60	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	谷崎卓実, 林洋光, 田尻拓哉, 肝機能, 肝線維化に対して腹腔鏡下脾臓摘出術が与える影響と肝機能改善効果, 第80回日本消化器外科学会総会 (神戸) 2025年7月18日
61	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	小澄敬祐, 大町一樹, 原淑大, 榎原拓樹, 食道癌切除胃管再建における定量的 ICG 血流評価の検討, 第80回日本消化器外科学会総会 (神戸) 2025年7月16日
62	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	耕佳徹, 林洋光, 菟原義弘, 谷崎卓実, 切除不能胆管癌における免疫チェックポイント阻害剤治療奏功予測バイオマーカーの検討, 第80回日本消化器外科学会総会 (神戸) 2025年7月17日
63	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	井田智, 江藤弘二郎, 榎原拓樹, 食道胃接合部癌に対する噴門側胃切除術時の術野展開の工夫と術後成績, 第80回日本消化器外科学会総会 (神戸) 2025年7月17日
64	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	江藤弘二郎, 榎原拓樹, 高齢者胃癌根治切除後患者におけるGeriatric-8評価の有用性, 第80回日本消化器外科学会総会 (神戸) 2025年7月16日
65	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	原田和人, 榎原拓樹, 胸部食道癌における鎖骨上リンパ節の転移・再発の検討, 第80回日本消化器外科学会総会 (神戸) 2025年7月18日
66	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	岡部弘尚, 林洋光, 伊東山瑠美, 久野祐樹, 進行胆道癌に対する Durvalumab+Gemcitabine+Cisplatin による抗癌剤治療における効果予測因子の探索, 第80回日本消化器外科学会総会 (神戸) 2025年7月18日
67	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	北野雄希, 林洋光, 久野祐樹, 肝細胞癌の切除可能性分類に基づく治療戦略~BR1 肝細胞癌に対する術前 LEN+TACE 療法~, 第80回日本消化器外科学会総会 (神戸) 2025年7月17日
68	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	酒匂照生, 岡部弘尚, 林洋光, 久野祐樹, 肝細胞癌の進展におけ ADC 値の臨床的意義 ~抗腫瘍免疫との関連性の検討~, 第80回日本消化器外科学会総会 (神戸) 2025年7月18日
69	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	吉田実奈, 岡部弘尚, 林洋光, 酒匂照生, 久野祐樹, 栄養障害を伴う BR-PV 膵頭部癌に対して, 根治切除後栄養介入が奏効した一例, 第80回日本消化器外科学会総会 (神戸) 2025年7月18日

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

70	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	伊東山瑠美, 林洋光, 酒匂照生, 久野祐樹, Borderline Resectable 膵癌に対する術前治療の意義を考える, 第80回日本消化器外科学会総会（神戸）2025年7月16日
71	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	高田一登, 小川克大, 久野祐樹, 食道癌手術における Surgical rescue のリスクの検討, 第80回日本消化器外科学会総会（神戸）2025年7月16日
72	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	式地優樹, 小澄敬祐, 榑原拓樹, 切除不能進行再発食道癌における体組成と免疫チェックポイント阻害薬による治療効果の検討, 第80回日本消化器外科学会総会（神戸）2025年7月18日
73	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	前田裕斗, 宮本裕士, 中村壘, 消化管癌患者における術前後の骨格筋量変化と長期予後の関連, 第80回日本消化器外科学会総会（神戸）2025年7月17日
74	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	福司山裕貴, 原田和人, 小澄敬祐, 榑原拓樹, 胸部食道癌術後28年後に生じた頸部での胃管屈曲による狭窄の1例, 第58回日本胸部外科学会九州地方会総会（福岡）2025年7月24日
75	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松本千尋, 江藤弘二郎, 井田智, 山下晃平, 榑原拓樹, ロボット支援下幽門側胃切除におけるFusion surgeryの有用性～教育とコストカット～, 第35回九州内視鏡・ロボット外科手術研究会（福岡）2025年8月30日
76	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	福司山裕貴, 江藤弘二郎, 山下晃平, 井田智, 榑原拓樹, 術前化学療法を行ったGastric Adenocarcinoma and Proximal Polyposis of the Stomach (GAPPS)の一例, 第200回熊本外科集談会（熊本）2025年8月31日
77	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	成富未果, 小川克大, 久野祐樹, 遅発性に発症した外傷性十二指腸憩室穿孔の一例, 第200回熊本外科集談会（熊本）2025年8月31日
78	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	金光紘介, 林洋光, 谷崎卓実, 膵癌肺転移に対してラジオ波凝固療法(RFA)を行った11例, 第44回Microwave Surgery研究会（東京）2025年9月13日
79	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	小川克大, 宮本裕士, 山口将也, 成富未果, 高津研翔, 久野祐樹, 消化器外科学教室からAcute care surgeonを育成する地方大学の取り組み, 第17回Acute Care Surgery学会（佐賀）2025年9月19日
80	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	原田和人, 小澄敬祐, 榑原拓樹, 食道扁平上皮癌に対する免疫チェックポイント阻害薬治療の転移臓器別治療成績, 第84回日本癌学会学術総会（金沢）2025年9月25日
81	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	山下晃平, 武キイク, 張衛麗雲, 榑原拓樹, GISTにおけるc-JUN発現の予後的意義とFBXW7による分子制御機構の解明, 第84回日本癌学会学術総会（金沢）2025年9月25日
82	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	原田和人, 小澄敬祐, 榑原拓樹, 食道扁平上皮癌に対する術前化学放射線療法の治療成績, 第78回日本胸部外科学会定期学術集会（大阪）2025年10月23-25日
83	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	小川克大, 辛島龍一, 高津研翔, 久野祐樹, 熊本地震 その時消化器外科医はどう動いたか, 第78回日本胸部外科学会定期学術集会（大阪）2025年10月24日
84	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	江藤弘二郎, 井田智, 榑原拓樹, ロボット支援下幽門側胃切除におけるFusion surgeryの有用性と若手教育, 2025年度日本消化器関連学会（JDDW 2025）（神戸）2025年11月1日
85	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	原田和人, 榑原拓樹, 食道扁平上皮癌における術前化学療法後の再発因子の検討, 第76回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会（福岡）2025年11月6日
86	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	宮本裕士, 日吉幸晴, 有馬浩太, 秋山貴彦, 河田彩音, 中村壘, 潰瘍性大腸炎に対する内科的治療の進歩とそれに伴う外科治療の変化, 第80回日本大腸肛門病学会学術集会（東京）2025年11月15日
87	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	福司山裕貴, 中村壘, 肛門部悪性黒色腫の外科的治療経験 -3例の報告-, 第126回日本消化器病学会九州支部例会（大分）2025年11月28日
88	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	江藤弘二郎, 井田智, 山下晃平, 榑原拓樹, 熊本大学消化器外科における人材確保とその成果, 第38回日本内視鏡外科学会総会（横浜）2025年12月13日
89	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	原田和人, 小澄敬祐, 榑原拓樹, 胸腔鏡下食道垂全摘における胃管再建の腹腔鏡と開腹アプローチの短期成績比較, 第38回日本内視鏡外科学会総会（横浜）2025年12月12日
90	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	耕佳徹, 林洋光, 山田倫, 久野祐樹, 肝内胆管癌における2019年WHO分類の臨床病理学的特徴に関する検討, 第36回日本消化器癌発生学会総会（福岡）2025年12月16日

○ その他(受賞等)

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース（インテンシブコース）	米丸興: 第19回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム 優秀発表賞, 2025年9月6-7日

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	大分大学
コーディネーター	医学部 放射線医学講座 教授 浅山 良樹
事務担当者	医学・病院事務部学務課教務グループ 村上 有紀

1. 概要

テーマ
<p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p>

各テーマに対する今年度の実績

1. 包括的がん治療専門医療人養成コースに医師10名、薬剤師1名、が入学した。看護学専攻専門看護師コース（がん看護）に2名の学生を受け入れた（テーマ①②）。インテンシブコースに19名が入学した（テーマ①②③）。
2. 消化器外科専門医3名を輩出した（テーマ③）
3. インテンシブコースの学生2名が放射線治療専門医を取得した（テーマ①）。
4. 大分大学の講座等と共催セミナーを4回開催した。
5. 事例検討会を6回、公開講座を2回、市民公開講座を1回開催（開催予定を含む）した（テーマ①②）。
 - 【事例検討会】対象：看護師（がん看護専門看護師、がん看護関連の認定看護師を含む）、医師、薬剤師など多職種
 - 第1回目（5/24）：患者の価値観により、重要な意思決定が難しかったケースに対するジレンマと対応
 - 第2回目（7/26）：父親を看取るこどもへの支援
 - 第3回目（9/13）：精神症状が強い患者の家族への対応
 - 第4回目（11/8）：レジメンを変更しても奏功せず何をもって治療に向き合えばいいのか悩んでいた患者への関わり
 - 第5回・6回目は2026年1月24日・3月7日実施予定
 - 【公開講座】（予定）
 - 第1回目（11/30）：終末期がん患者の退院支援と訪問看護～在宅支援での看取りの一事例～
 - 第2回目（12/23）：スピリチュアルケアについて（仮）
 - 【市民公開講座】
 - 2026年3月14日or15日開催予定：アピアランスケアについて（仮）

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

- テーマ①③
- ・大学院セミナーでは①胃腫瘍や大腸癌の低侵襲治療とその安全性について、②肺癌の遺伝子異常に基づく治療法、③ヘリコバクターピロリ感染から胃癌発生に至るまでの機序、④前がんモデルとしての患者由来のオルガノイド作成、⑤唾液腺腫瘍の病理などについて理解を深めることができた。
 - ・様々な施設で活動するがん看護専門看護師や多職種からの講義を受ける機会や、インテンシブコースで開催している事例検討会への参加の機会を提供し、学生のがん看護専門看護師としての6つ（実践、教育、相談、研究、調整、倫理調整）の能力開発に繋げている。
- テーマ①②
- ・事例検討会は、インテンシブコース生（看護）の他、がん看護に関心のある看護師（がんに関連した認定・専門看護師も含む）、多職種（医師、薬剤師等）にも参加を呼び掛け、参加を得た。インテンシブコース生や参加者からの事例提供を通してそれぞれの施設で顕在化した課題解決に向けたディスカッションを実施できた。看護師以外の参加者からも、看護師との連携を強化する旨の感想が得られた。多職種や専門・認定看護師、ジェネラリストの看護師間での意見交換を、インテンシブコース生や参加者の臨床判断能力やがん看護の質の向上に繋がり、各参加者が所属する組織でのがん患者を取り巻く課題の予防や解決に向けた活動に繋がることが期待できる。
 - ・第1・2回目公開講座では、大学院修士課程で講義担当の2名の講師が、がん患者への支援の実際の活動内容を講演予定である。3月開催の市民公開講座では、アピアランスケアをテーマに企画中である。これらの公開講座を通して、がん患者やその家族の支援に向けた知識や技術の獲得に繋がったり、がんサバイバーやその家族、医療者の交流を通して、がんサバイバーとともによりよく生きることに向けた支援に繋がることが期待する。
- 今年度の活動を通して、令和8年度大学院生（がん看護専門看護師コース）2名の確保につながった。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）
大学院コース関連 1) 学生に対し論文作成、学会発表を積極的に行うよう指導している。筆頭著者・共著者となった原著論文は英文9編、和文2編、国際学会発表2編、国内学会発表は29編であった。また学会賞1名、Travel grand 獲得1名（2件）、招待講演1名（2件）であった。 2) 【がん看護専門看護師】令和8年度の学生確保に向けて公開講座の開催、および事例検討会を開催し、大学院生の確保に繋がった。 令和7年度入学の専門看護師コース（がん看護）の学生1名が、進学をきっかけとして、「最期まで積極的治療をしてほしいと思うA氏に医療者はどう向き合うか」というテーマで、日本死の臨床研究会九州支部2025支部大会 第51回研究集会にて一般演題発表を実施した。
インテンシブコース関連 1) 筆頭著者・共著者となった原著論文は英文35編、和文1編、国際学会発表は12編、国内学会発表は38編であった。また学会賞1名、Travel grand 獲得1名（2件）であった。 2) インテンシブコース生が提示した事例に関しては、成果報告書として、本学インテンシブコースに提出することとしている。また、がんプロインテンシブコース生の看護師6名が、事例検討会の事例を発表した。
②シンポジウム、セミナー、講習会等
・大学院セミナー 各自の専門分野以外のセミナーを受講することにより、幅広い知識や手法の一端を知ることができた。他分野の知識を得ることで、より広い視野をもつことが期待される。 ・公開講座・事例検討会 大分大学がんプロ・看護学専攻ホームページ上にチラシを掲載、インテンシブコース登録者・大分県内のがん看護専門看護師コース修了生・令和6年度事例検討会の参加者に案内を送付した。また、大分県内のがん関連の専門看護師や認定看護師に案内のメールやチラシの送付とともにがん看護に関心のある看護師へ参加の呼びかけを依頼した。 ・がんプロ公開講座に参加者2名が令和8年度の大学院に入学予定である。
③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）
大分大学がんプロ・看護学専攻ホームページ上にチラシを掲載、インテンシブコース登録者・大分県内のがん看護専門看護師コース修了生・令和6年度事例検討会の参加者に案内を送付した。また、大分県内のがん関連の専門看護師や認定看護師に案内のメールやチラシの送付とともにがん看護に関心のある看護師へ参加の呼びかけを依頼した。医学部附属病院を含む、大分県内のがん診療連携拠点病院に所属するがん看護専門看護師（がんプロ修了生・インテンシブコース生）やがん関連の認定看護師（インテンシブコース生を含む）と協働した事例検討会を協働して行うことで、修了生自身のキャリアアップや現状の理解の深まり、次世代のがん看護を実践する看護職者の育成に向けた教育力の向上に繋がると考える。
④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）
がんプロインテンシブコース生（看護師）は、がん診療連携拠点病院に所属している。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない
b:目標を達成できている
理由・分析等
・博士課程3名が消化器外科専門医を取得した。 ・インテンシブコース2名が放射線治療専門医を取得した。 ・大学院コース、インテンシブコース合計で47編の原著論文（英文44編、和文3編）を発表できた。 ・事例検討会を6回、公開講座を2回、市民公開講座を1回行った（予定含む）。 ・がん予防の推進を行う人材の育成が不十分であった。
自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等
・引き続き大学院セミナー等で包括的ながん診療が可能な専門医医療人を養成する。 ・がん予防やがんサバイバーに対応する医療人を養成すべく、各種セミナーや講習会を開催する。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	大分大学
-----	------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	包括的がん治療専門医療人養成コース	Nishiyori R, Goto-Umeki M, Fujinaga-Tada M, et al. A Rare Case of Male Breast Cancer Presenting as a Superficial Pigmented Nipple Tumor: The Importance of a Deep Excisional Biopsy and Immunohistochemical Analysis in Diagnosis. <i>Cureus</i> . 2025;17(5):e83353.
2	包括的がん治療専門医療人養成コース	Kawamoto M, Sakai T, <u>Nishiyori R</u> , Hatano Y. Evaluation of Venous Thromboembolism (VTE) in Patients With Autoimmune Bullous Diseases: Insights From Recent VTE Guidelines. <i>J Dermatol</i> . 2025;52(9):1475-1477.
3	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>Nagasawa Y</u> , Hirashita T, Iwashita Y, et al. Intraoperative Narrow-Band Imaging Predicts Invasion Depth in Gallbladder Cancer. <i>J Hepatobiliary Pancreat Sci</i> , 2025
4	包括的がん治療専門医療人養成コース	Masuda T, Endo Y, Nakamura S, Miyoshino W, <u>Nagasawa Y</u> , et al. Short-term outcomes of laparoscopic central hepatectomy: a comparison with open surgery. <i>Langenbecks Arch Surg</i> . 410(1):78, 2025
5	包括的がん治療専門医療人養成コース	Shigeo Ninomiya, Yusuke Matsunobu, <u>Tabito Oyama</u> , Hiroomi Takayama, Takashi Masuda, Teijiro Hirashita, Yuichi Endo, Tatsushi Tokuyasu, Masafumi Inomata, Educational Impact of Artificial Intelligence-Navigation Surgery on Anatomical Landmark Recognition in Medical Students. <i>Ann Gastroenterol Surg</i> . (投稿中)
6	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>Otsuka K</u> , Otsuka M, Iwanaga M, Moroga Y, Ogata M, Daa T, Asayama Y. Diffuse FDG uptake of bilateral renal cortex in intravascular large B-cell lymphoma. <i>Radiol Case Rep</i> . 2025 Oct 6;21(1):128-132.
7	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>Wataru Miyoshino</u> , Takahiro Hiratsuka, Masafumi Inomata et al. Efficacy of the caudal view technique in mesh placement during laparoscopic inguinal hernia repair, with propensity score matching. <i>Surgical endoscopy</i> 39(7) 4392-4401
8	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>Shun Nakamura</u> , Yuki Murakami, Yusuke Oshima, et al. Association of HAMP expression and CD8+ T-cell infiltration with atezolizumab-bevacizumab response in hepatocellular carcinoma. <i>Annals of Gastroenterological Surgery</i> .
9	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>Nakamura S</u> , Masuda T, et al. Delayed diagnosis of acquired hemophilia A complicating hepatocellular carcinoma: a rare case of hepatectomy following atezolizumab and bevacizumab therapy. <i>Clinical Journal of Gastroenterology</i> . (リバイス対応中)
10	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Sasaki T., Jin K., Takimoto A., Taga Y., Ishikawa Y., Bächinger H.P, Sakai T., <u>Terabayashi T.</u> , Hanada K., Schlötzer-Schrehardt U., Shukunami C., Hiraki Y., Nakamura T., and Yamamoto E. Fibulin-4 is required for the mechanical stability of tendons. <i>Cell Tissue Res</i> (2025) in press doi: 10.1007/s00441-025-04028-3
11	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Rodrigues-Junior D. M., Saez-Ibanez A. R., <u>Terabayashi T.</u> , Daubel N., Makinen T., Idevall-Hagren O., Moustakas A., and Ferby I. Loss of ErbB3 redirects Integrin $\alpha 21$ from early endosomal recycling to secretion in extracellular vesicles. <i>J. Cell Bio</i> . In press doi: 10.1083/jcb.202501255
12	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Fukuyo M., Takahashi N., Hanada K., Ishikawa K., Venclovas C., Yahara K., Yonezawa H., <u>Terabayashi T.</u> , Katsura Y., Osada N., Kaneda A., Camargo M. C., Rabkin C. S., Uchiyama I., Osaki T., and Kobayashi I. Helicobacter pylori base-excision restriction enzyme in stomach carcinogenesis. <i>PNAS Nexus</i> 4(8), 244 (2025) doi:10.1093/pnasnexus/pgaf244
13	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Sakai T., Yamanishi Y., Ichinose O., Sawada R., <u>Terabayashi T.</u> , Hatano Y., and Ishizaki T. Big data-driven target identification by machine learning: DRD2 as a therapeutic target for psoriasis. <i>J. Dermatol. Sci.</i> 119(1), 9-17 (2025) doi: 10.1016/j.jdermsci.2025.04.012
14	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	<u>Terabayashi T.</u> , Sasaki T., Ishizaki T., Tomo T., Nishida Y., and Hanada K. Analysis of accumulations of DNA double-strand breaks in mouse tissues by pulsed-field gel electrophoresis. <i>Toxicol Appl Pharmacol</i> . 497:117278. (2025) doi: 10.1016/j.taap.2025.117278
15	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Kodama M., Oda M., <u>Mizukami K.</u> , Ogawa R., Hirashita Y., Fukuda M., Okamoto K., Fukuda K., Fuchino T., Ozaka S., Okimoto T., Abe H., Inaba K., Tokoro M., Arita K., Nishikiori H., Abe T., Nagai T., Yamashita S., Murakami K. Comparison of Genetic Mutations of Gastric Cancer Diagnosed before or after Helicobacter pylori Eradication and between Differentiated and Undifferentiated Types Using Next-Generation Sequencing. <i>Dig Dis</i> . 43 : 158-169, 2025.
16	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	<u>Mizukami K.</u> , *Kodama M., Hirashita Y., Fukuda M., Ozaka S., Tsutsumi K., Sagami R., Fukuda K., Ogawa R., Murakami K. Predictors of the Development of Gastric Cancer in Post-Helicobacter pylori-Eradication Patients Followed Up for More than 10 Years: A Histological, Serological, and Endoscopic Study. <i>Cancers (Basel)</i> . 17 : 552, 2025.
17	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Yamada H., Abe S., Charvat H., Ando T., Maeda M., Murakami K., Oka S., Maekita T., Sugimoto M., Furuta T., Kaise M., Yamamichi N., Takamaru H., Sasaki A., Oda I., Nanjo S., Suzuki N., Sugiyama T., Kodama M., <u>Mizukami K.</u> , Ito M., Kotachi T., Shimazu T., Yamamoto S., Ushijima T. Precision risk stratification of primary gastric cancer after eradication of H. pylori by a DNA methylation marker: a multicentre prospective study. <i>Gut. gutjnl-2025-335039</i> , 2025.
18	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Sasaki F., <u>Mizukami K.</u> , Akashi T., Yamaguchi N., Gushima R., Miyamoto H., Uehara S., Ono Y., Hisabe T., Kinjo Y., Nasu Y., Fukuda K., Inada T., Sumida Y., Akutagawa T., Miike T., Suzuki S., Fukuya H., Mukasa M., Esaki M., Kumei S., Minoda Y., Kinjo T., Yamaguchi D., Fukuda Y., Hashiguchi K., Yano H., Fujita H., Shimoda R.; GI-Kyushu study group. Clinical backgrounds and outcomes of patients with Barrett's esophageal adenocarcinoma treated via endoscopic submucosal dissection in Kyushu, Japan: A retrospective multicenter cohort study. <i>DEN Open</i> . 6 : e70102, 2025.
19	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Minezaki D, Masunaga T, Sasaki M, Murata S, Imura Y, Tojo A, Sakurai H, Iwata K, Miyazaki K, Mizutani M, Nishikawa M, Akimoto T, Takatori Y, Kawasaki S, Matsuura N, Tomida H, Nakayama A, Sujino T, Takabayashi K, <u>Mizukami K</u> , Kato M, Yahagi N. A Novel Therapeutic Thin Endoscope Facilitates Gastric Endoscopic Submucosal Dissection in the Cardia and Pylorus: A Case Series Study (With Video). <i>Dig Endosc</i> . 2025 Aug 19. doi: 10.1111/den.70017.
20	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Shimoda R, Yamaguchi D, Hashiguchi K, <u>Mizukami K</u> , Aso A, Akutagawa T, Miyahara K, Honda T, Hashiguchi K, Ohira T, Fukuda K, Kabayama M, Miyamoto H, Gushima R, Sumida Y, Suzuki S, Sasaki F, Yamaguchi N, Kinjo T, Miike T, Ohnita K, Moriyama T, Fujioka S, Shono T, Shirai S, Ohtsu K, Kiyomi F. Linked color imaging improves polyp miss rates in total colonoscopy in a multicenter randomized back to back trial. <i>Sci Rep</i> . 2025 Oct 21;15(1):36788.
21	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Fujita S, Shibata T, Nishida H, Matsumoto S, Kurogi S, Yano S, Fumoto S, Itai Y, Shitomi Y, Akagi T, Ninomiya S, Etoh T, Nakada C, Fuchino T, Hirashita Y, <u>Mizukami K</u> , Daa T, Inomata M, Moriyama M, Hijiya N, Tsukamoto Y. Establishment of a novel organoid line from esophageal squamous cell carcinoma with cytoplasmic vacuoles: Association of autolysosome swelling with vacuole formation. <i>Pathobiology</i> . 2025 Nov 7:1-18. doi: 10.1159/000548788. Epub ahead of print. PMID: 41201982.

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

22	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Takahashi K, Sato H, Shimamura Y, Abe H, Shiwaku H, Shiota J, Sato C, Satomi T, Ominami M, Hata Y, Fukuda H, Ogawa R , Nakamura J, Tatsuta T, Ikebuchi Y, Terai S, Inoue H. Persistent body-weight change on achalasia and peroral endoscopic myotomy: a multicenter cohort study. <i>J Gastroenterol</i> . 2025 May;60(5):535-545. doi: 10.1007/s00535-024-02205-9.
23	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Shimamura Y, Sato H, Yagi R, Abe H, Shiwaku H, Shiota J, Sato C, Hamada K, Ominami M, Hata Y, Fukuda H, Ogawa R , Nakamura J, Tatsuta T, Ikebuchi Y, Inoue H. Clinical Characteristics and Long-Term Efficacy of Peroral Endoscopic Myotomy in Pediatric Achalasia. <i>J Gastroenterol Hepatol</i> . 2025 Jun;40(6):1446-1453. doi: 10.1111/jgh.16945.
24	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Nomura K, Watanabe T, Takamori S, Hamada A, Suda K, Ito M, Ohara S, Oiki H, Fukami T, Muto S, Katsumata S, Konno H, Hayasaka K, Toyoda T, Endo M, Takamori S, Nakatsuka M, Tenpaku H, Takegahara K, Matsubara T, Kinoshita F, Akamine T, Nakamura R, Mizuno K, Nakagawa K, Kaneda S, Okada S, Kosai K, Notsuda H, Sakane T, Shinohara S, Abe M , Haratake N, Tane S, Hanawa R, Tarukawa T, Namba K, Toda M, Kawaguchi T, Takada K, Minegishi K, Kurihara N, Iguchi T, Aokage K, Tsutani Y, Tsuboi M, Soh J, Shimokawa M, Ohde Y. Safety Profile of Neoadjuvant Chemotherapy with Nivolumab for Patients with Resectable NSCLC in the Real-world (CReGYT-04 Neo-Venus). <i>Ann Thorac Surg</i> . 2025 Oct 29:S0003-4975(25)01059-8. doi: 10.1016/j.athoracsur.2025.09.054.
25	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Hashinokuchi A, Takamori S, Zhu J, Abe M , Ozono K, Takenaka T, Osoegawa A, Yoshizumi T, Komiya T. Prognostic Impact of Primary Tumor Size in Thymic Epithelial Tumor: An NCDB-Based Study. <i>Ann Surg Oncol</i> . 32(3):1662-1669. 2025
26	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Karashima T, Takamori S, Abe M , Takumi Y, Osoegawa A, Sugio K. Safety and efficacy of neoadjuvant cisplatin + S-1 combined with radiation therapy for locally advanced non-small cell lung cancer. <i>Surg Today</i> . 2025 Feb 27. doi: 10.1007/s00595-025-03019-9.
27	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Comparative Evaluation of Percutaneous Transhepatic Biliary Drainage and Endoscopic Ultrasound-Guided Biliary Drainage for Preoperative Management of Malignant Distal Bile Duct Obstruction After Failed ERCP: A Multicenter Retrospective Analysis. Itonaga M, Takenaka M, Shiomi H, Kitagawa K, Shintani S, Maruyama H, Sagami R , Ikeura T, Ogura T, Ishida Y, Mandai K, Sugimori S, Imamura Y, Masuda A, Ikezawa K, Shimizu A, Nakai A, Nagai M, Nakano R, Wan K, Shimokawa T, Kitano M. <i>Dig Endosc</i> . 2025 Oct 22.
28	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Balloon Enteroscopy-Assisted ERCP Versus Endoscopic Ultrasound-Guided Biliary Drainage for Unresectable Malignant Biliary Obstruction in Patients With Surgically Altered Anatomy: A Multicenter Prospective Registration Study. Itonaga M, Takenaka M, Ikezawa K, Ikeura T, Shimatani M, Asada M, Fujimori N, Sagami R , Ogura T, Imai H, Matsumoto K, Shintani S, Shiomi H, Hatamaru K, Minaga K, Takada R, Wan K, Shimokawa T, Kitano M. <i>Dig Endosc</i> . 2025.
29	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Perilesional branch duct dilation as a hallmark MRCP feature for differentiating high-grade PanIN from low-grade PanIN. Yamao K, Takehara Y, Ogawa H, Nakahodo J, Minami R, Sagami R , Nishikiiori H, Okita M, Takahashi H, Takada Y, Uetsuki K, Iida T, Mizutani Y, Ishikawa T, Kawashima H. <i>Pancreatology</i> . 2025 Jun 4:S1424-3903(25)00116-4.
30	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Predictors of the Development of Gastric Cancer in Post-Helicobacter pylori-Eradication Patients Followed Up for More than 10 Years: A Histological, Serological, and Endoscopic Study. Mizukami K, Kodama M, Hirashita Y, Fukuda M, Ozaka S, Tsutsumi K, Sagami R , Fukuda K, Ogawa R, Murakami K. <i>Cancers (Basel)</i> . 2025;17:552.
31	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Feasibility and safety of EUS-guided biliary drainage in inexperienced centers: a multicenter study in southwest Japan. Koga T, Ishida Y, Hashigo S, Shimokawa Y, Harima H, Okamoto K, Ohno A, Miyagahara T, Fujita T, Fukuchi S, Takahashi K, Taguchi H, Araki N, Ohtsuka Y, Uekitani T, Tsuneyoshi K, Akiyama T, Ishigaki N, Maruo T, Saito H, Ihara R, Yamasuji A, Oe S, Yoshinari M, Sagami R , Fujimori N, Fukuda Y, Ozawa E, Jikuya K, Shinohara H, Sen-Yo M, Ueki T, Tsuchiya N, Kitaguchi T, Matsumoto K, Fukuyama M, Hirai F. <i>Gastrointest Endosc</i> . 2025 Apr;101(4):843-852.e2. doi: 10.1016/j.gie.2024.09.014.
32	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Calculus-targeted puncture technique to overcome access difficulty during endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy. Hiroshima Y, Sagami R , Azuma Y, Tsuji H, Nishikiiori H, Mizukami K, Murakami K. <i>Endoscopy</i> . 2025;57:E1109-E1110. doi: 10.1055/a-2688-6469.
33	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Pancreatic juice cytology via a nasopancreatic drainage tube placed using the rendezvous technique through the accessory pancreatic duct. Azuma Y, Sagami R , Tsuji H, Sato T, Nishikiiori H, Mizukami K, Murakami K. <i>Endoscopy</i> . 2025;57:E1107-E1108.
34	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Successful removal of B3 bile duct stones from B2 bile duct endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy route using wire-loop and bridge technique. Tsuji H, Sagami R , Sato T, Nishikiiori H, Hiroshima Y, Mizukami K, Murakami K. <i>Endoscopy</i> . 2025 Dec;57(S 01):E756-E757.
35	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Kagoshima Y, Sachi N, Kasahara Y, Yamamoto R, Arika S, Soga Y, Ekronarongchai S, Umeki T, Khunsri T, Okamoto M, Kamiyama N, Murakami K, Mizukami K, Palaga T, Ozaka S , Kobayashi T. CCL9/CCR1 chemokine signaling plays a protective role in limiting intestinal inflammation by maintaining an anti-inflammatory M2 macrophage pool in the intestinal lamina propria. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> . 2025
36	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Hidano S, Mizukami K, Shirakami K, Ito H, Matsumura K, Dewayani A, Ozaka S , Saechue B, Arika S, Ozaki T, Noguchi K, Kagoshima Y, Ekronarongchai S, Okamoto M, Kamiyama N, Sachi N, Sekiya T, Takaki S, Murakami K, Kobayashi T. Anisakis infection induces IgE responses resulting from ILC2 and Th2 cell activation via IL-33 in the murine stomach. <i>Parasitol Int</i> . 2025
37	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Terashi S, Ozaka S , Kagoshima Y, Shimomori Y, Takahashi H, Minezaki D, Tsutsumi K, Fukuda M, Hirashita Y, Fukuda K, Ogawa R, Kodama M, Murakami K, Mizukami K. Bowel preparation for small bowel capsule endoscopy in patients with suspected or established Crohn's disease. <i>World J Gastrointest Endosc</i> . 2025. (in press)
38	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Tokuyama K , Itaya T, Hara A, et al. Radiotherapy for human T-cell leukemia virus type 1-associated adult T-cell leukemia/lymphoma. <i>J Radiat Res</i> . 2025;66(4):423-428. doi:10.1093/jrr/rraf036
39	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Hatanaka A, Kono Y, Ueno H, Kariu M, Yawata M, Murata M , Fujiwara M, Okame K, Arakane I, Tomimatsu C, Hiratsuka T, Otsu S, Kawano Y, Ogata M, Hatano Y, Tominaga S, Inomata M. Effects of cosmetic therapy on cosmetic side effects of chemotherapy to improve the quality or life of cancer patients. <i>Journal of Cancer Therapy</i> . 2025
40	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Hiroshima Y , Sagami R, Azuma Y, Tsuji H, Nishikiiori H, Mizukami K, Murakami K. Calculus-targeted puncture technique to overcome access difficulty during endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy. <i>Endoscopy</i> , 57(S01), E1109-E1110, 2025

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

41	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Tsuji H, Sagami R, Sato T, Nishikiori H, Hiroshima Y , Mizukami K, Murakami K, Successful removal of B3 bile duct stones from B2 bile duct endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy route using wire-loop and bridge technique, <i>Endoscopy</i> , 57(S01), E756-E757, 2025
42	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Kinoshita K, Okamoto K, Noguchi H, Fukuchi S, Akiyama H, Motomura M, Azuma Y, Hiroshima Y , Fuchino T, Ozaka S, Sagami R, Uchida T, Hirashita Y, Fukuda K, Ogawa R, Mizukami K, Kodama M, Murakami K, Efficacy of Endoscopic Ultrasound-guided Transluminal Drainage Using Lumen-apposing Metal Stents for the Treatment of Pancreatic Fluid Collections, <i>DEN Open</i> , 6(1), e70249, 2025
43	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Terabayashi T, Sasaki T, Ishizaki T, Tomo T, Nishida Y, Hanada K , Analysis of accumulation of DNA double-strand breaks in mouse tissues by pulsed-field gel electrophoresis. <i>Toxicol Appl Pharmacol</i> . 2025 Apr;497:117278. doi: 10.1016/j.taap.2025.117278.
44	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Fukuyo M, Takahashi N, Hanada K , Ishikawa K, Venclovas Č, Yahara K, Yonezawa H, Terabayashi T, Katsura Y, Osada N, Kaneda A, Camargo MC, Rabkin CS, Uchiyama I, Osaki T, Kobayashi I. Helicobacter pylori base-excision restriction enzyme in stomach carcinogenesis. <i>PNAS Nexus</i> . 2025 Aug 5;4(8):pgaf244.

○ 和文誌

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 包括的がん治療専門医療人養成コース	西依諒 , 三浦真理子, 東保太郎, 中園裕一, 甲斐宜貴, 特異な外観を呈した拇指の巨大エクリン汗孔腫, <i>西日本皮膚科</i> 87, 2, 99-100, 2025.
2 包括的がん治療専門医療人養成コース	三浦真理子, 山本祐実, 西依諒 , 中園裕一, 橋本馨, 安倍伸幸, 甲斐宜貴, アモキシシリン内服および扁桃摘出術が著効した難治性 IgA 血管炎の 1 例, <i>西日本皮膚科</i> 87, 5, 415-419, 2025.
3 がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	太森翔太 , 二宮貴一郎, 高橋利明, 肺癌診療ガイドライン改訂のポイント—薬物療法の領域を中心に—, <i>肺癌</i> . 2025;65:847-851 DOI:https://doi.org/10.2482/haigan.65.847

○ 国際学会

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 包括的がん治療専門医療人養成コース	Nagasawa Y , et al.Potential Efficacy of α -Lipoic Acid Derivative for the Treatment of Chemotherapy-Induced Skin Disorders.13th Federation of Asian Clinical Oncology (Shanghai, China) 2025.10.25
2 包括的がん治療専門医療人養成コース	Nagasawa Y , et al.Intraoperative Narrow-Band Imaging Predicts Invasion Depth in Gallbladder Cancer.21th World Congress of Endoscopic Surgery(Singapore)2025.11.7
3 がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Hanada K , Terabayashi T , and Nishida Y . Investigation of the accumulation of double-strand DNA breaks in mouse organs by DNA damaging agents using pulsed-field gel electrophoresis. 59th Eurotox (Athens, Greece) 2025.09.14
4 がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Nishida Y , Hanada K , Terabayashi T , and Kitajima S . A new approach to assessing reproductive toxicity using placental organoids. 59th Eurotox (Athens, Greece) 2025.09.14
5 がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Atsushi Osoegawa; Yohei Takumi; Kento Inoue; Eika Kudo; Kazuki Ota; Yuta Abe; Takahiro Sato; Daiki Noda; Miyuki Abe ; Naoki Haratake; Kenji Sugio. Abstract 7204: Stimulator of interferon genes (STING) protein expression in resected non-small cell lung cancer with EGFR mutation. <i>Cancer Res</i> (2025) 85 (8_Supplement_1): 7204. https://doi.org/10.1158/1538-7445.AM2025-7204
6 がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Asian Pacific Digestive Disease Week (APDW) 2025 Accurate imaging diagnosis of small pancreatic carcinoma/high-grade pancreatic intraepithelial neoplasia using combined indirect imaging findings Ryota Sagami , Kazuhiro Mizukami, Hidefumi Nishikiori, Hiroaki Tsuji, Takao Sato, Yoshifumi Azuma, Yasuhisa Hiroshima, Koshiro Tsutsumi, Masahide Fukuda, Sotaro Ozaka, Kensuke Fukuda, Mie Arakawa, Masao Iwao, Ryo Ogawa, Yuka Hirashita, Takuro Uchida, Mizuki Endo, Masaaki Kodama, Kazunari Murakami
7 がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	33th United European Gastroenterology Week (UEGW) A JAPANESE NATIONWIDE PROSPECTIVE OBSERVATIONAL STUDY ON EARLY PANCREATIC CANCER SCREENING IN HOSPITAL OUTPATIENTS USING A COMPREHENSIVE SCORING SYSTEM COMPARED WITH WESTERN SCREENING METHODS (EPSS-1) Ryota Sagami 発表形式: Oral (Abstract Session)
8 がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	2025.9 Taiwan Digestive Disease Week (TDDW) The 9th joint session between TDDW - JDDW - KDDW Guest speaker (Rising Star Award) Patient Selection Method, Characteristic Imaging, and Cytopathological Diagnosis in the Detection of Early Pancreatic Cancer: Making the Invisible Visible Ryota Sagami 発表形式: シンポジウム
9 がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	2025.9 1st JGES International Endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration/biopsy: factors influencing accurate diagnosis of pancreatic tumors 10 mm or less in diameter Ryota Sagami , Kazunari Murakami, Kazuhiro Mizukami 発表形式: 口演
10 がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Pancreatic juice cytology via nasopancreatic tube using the rendezvous technique through the accessory pancreatic duct Yoshifumi Azuma, Ryota Sagami , Hiroaki Tsuji, Takao Sato, Hidefumi Nishikiori, Kazuhiro Mizukami, Kazunari Murakami
11 がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Takaaki Mori, Kohei Tokuyama , Ryuichi Shimada, Yoshiki Asayama Carotid blowout syndrome following radiotherapy in head and neck cancer: a single center experience, The 84th Annual Meeting of the Japan Radiological Society

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

12	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Y Nishida, <u>K Hanada</u> , T Terabayashi, S Kitajima. A new approach to assessing reproductive toxicity using placental organoids. Y Nishida, K Hanada, T Terabayashi, S Kitajima Toxicology Letters 411(Supplement) S347-S348. Eurotox 2025. Sep 2025, Athens, Greece.
13	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	<u>Katsuhiko Hanada</u> , Takeshi Terabayashi, Yoshihiro Nishida. Investigation of the accumulation of double-strand DNA breaks in mouse organs by DNA damaging agents using pulsed-field gel electrophoresis Toxicology Letters 441(Supplement) S157-S157. Eurotox 2025. Sep. 2025 Athens, Greece.
14	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	<u>Haratake N.</u> Comparison of Segmentectomy versus Wedge Resection for Clinical Stage IA Small Non-Small Cell Lung Cancer with CT Ratio > 0.5: CReGYT-02 study, ESMO AESMO Asia Congress 2025(Singapore)2025/12/5

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>高尾 薫平</u> , 中枢神経原発悪性リンパ腫に対するR-MPV療法導入による治療成績の変遷とTirabrutinibの恩恵, 日本脳神経外科学会第84回学術総会(横浜) 2025年10月31日
2	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>高尾 薫平</u> , PCNSL治療の変遷と再発難治例に対するTirabrutinibの臨床的価値の検証, 第43回日本脳腫瘍学会学術総会(山形) 2025年12月8日
3	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>西依諒</u> , <u>梅木真由子</u> , <u>多田瑞穂</u> , <u>内匠陽平</u> , <u>小副川敦</u> , <u>古川理子</u> , <u>小山雄三</u> , <u>酒井貴史</u> , <u>波多野豊</u> , 表在性色素性腫瘍として出現した男性乳癌の1例: 乳頭部腫瘍診断における深部評価および免疫組織学的評価の重要性, 第77回日本皮膚科学会西部支部学術大会(岡山) 2025年10月19日
4	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>Ryo Nishiyori</u> , <u>Takashi Sakai</u> , <u>Mizuho Fujinaga-Tada</u> , <u>Mayuko Goto-Umeki</u> , <u>Yutaka Hatano</u> , Prediction of lymphedema complications based on postoperative drainage volume following inguinal lymph node dissection, 日本研究皮膚科学会第50年次学術大会・総会(山梨) 2025年12月6日
5	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>長澤由依子</u> , Narrow band imaging (NBI) を用いた胆嚢漿膜面観察による胆嚢癌術中深達度診断の有用性, 第125回日本外科学会総会(仙台) ワークショップ-03 胆嚢癌に対する腹腔鏡手術の適応と実際. 2025年4月10日
6	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>長澤由依子</u> , 胆嚢癌疑診例に対する術中Narrow band imaging(NBI)の有用性, 第80回日本消化器外科学会総会(神戸) 2025年7月16日
7	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>長澤由依子</u> , Potential Efficacy of α -Lipoic Acid Derivative for the Treatment of Chemotherapy-Induced Skin Disorders, 第63回日本癌治療学会総会(横浜), 2025年10月16日
8	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>長澤由依子</u> , スリーブ状胃切除術が精神・行動に及ぼす影響-高脂肪食誘導肥満ラットモデルを用いた検討-, 第46回日本肥満学会・第43回日本肥満症治療学会学術集会(岡山) JASSOシンポジウム4 肥満症における脳科学研究の進歩2025年10月4日.
9	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>藤島恰史</u> , 生成AIを統合した腹腔鏡下胃切除術における術中ランドマーク提示AIの開発, 第38回日本内視鏡外科学会総会(横浜) 2025年12月11日
10	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>岳藤良真</u> , 他, 縦隔鏡によるサルベージ手術で根治切除し得たcT4(気管)食道癌の1例, 第58回日本胸部外科学会九州地方会総会(福岡) 2025年7月24・25日
11	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>岳藤良真</u> , 他, 出血性ショックを伴う外傷性脾損傷Ⅲbに対しDamage Control Surgeryを経て救命し得た1例, 第17回日本Acute Care Surgery学会学術集会(佐賀) 2025年9月19・20日
12	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>岳藤良真</u> , 他, 化学放射線治療後の頸部食道癌術後に気管壊死を来した2症例の検討, 第76回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会(久留米) 2025年11月6・7日
13	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>岳藤良真</u> , 他, 酸素飽和度イメージングを用いた再建胃管の新規血流評価法, 第79回 手術手技研究会(大阪) 2025年11月7・8日
14	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>岳藤良真</u> , 他, 当科における食道癌PDTの治療成績, 第126回日本消化器病学会九州支部例会/第120回日本消化器内視鏡学会九州支部例会(大分) 2025年11月28・29日
15	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>皆尺寺 悠史</u> , 完全型直腸脱に対して腹腔鏡下直腸固定術を施行した学童の2症例, 第62回 日本小外科学会(東京) 2025年06月06日
16	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>皆尺寺 悠史</u> , ArtiSentialを両手使用した単孔式腹腔鏡下虫垂切除術の2例, 第44回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会(大阪) 2025年10月31日
17	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>小山旅人</u> , NCD研究からわかる、85歳以上超高齢者に対する大腸癌手術の術後合併症リスク因子【2021年度NCD研究報告】, 第103回大腸癌研究会学術集会(福井) 2025年7月3日
18	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>中村駿</u> , 切除を目指したBR-HCCに対する術前薬物療法の効果, 第126回日本消化器病学会九州支部例会・第120回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
19	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>大塚健一朗</u> , USUKI STUDYにおけるcerebral microbleedsと脳アミロイド沈着などとの関連の検討, 第65回日本核医学会学術総会(京都) 2025年11月
20	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>徳光 隆一</u> : 当施設でのda Vinci Xiとhinotoriの周術期合併症の比較, 第20回九州産婦人科内視鏡手術研究会(福岡) 2025年4月5日
21	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>徳光 隆一</u> : ロボット機種の違いが手術時間に与える影響, 第13回日本婦人科ロボット手術学会(鳥取) 2025年6月14日
22	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>徳光 隆一</u> : 低侵襲婦人科手術の最前線~vNOTESで叶える質の高い医療~, 第65回日本婦人科内視鏡学会学術講演会(鹿児島) 2025年9月18日

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

23	包括的がん治療専門医療人養成コース	徳光 隆一：婦人科内視鏡手術における情報支援内視鏡手術システムの開発. 第38回 日本内視鏡外科学会総会（横浜）2025年12月13日
24	包括的がん治療専門医療人養成コース	工藤 栄華, COVID-19が大分県の乳癌診療に及ぼした影響に関する観察研究, 第33回日本乳癌学会学術総会（）05/07/102
25	包括的がん治療専門医療人養成コース	鎌田 紘輔, 当科における国産手術支援ロボット「hinotori」によるRATS導入経験, 第58回日本胸部外科学会九州地方会総会（）2025/0724
26	包括的がん治療専門医療人養成コース	野田 大樹, 「育休外科医」の挑戦ー現場と家庭の間で見えたものー
27	包括的がん治療専門医療人養成コース	鎌田 紘輔, Birt-Hogg-Dubé 症候群が疑われた多発嚢胞性肺疾患の一切除例, 第29回 日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会（福岡市）2025/09/06
28	包括的がん治療専門医療人養成コース	工藤 栄華, 診断に苦慮した腋窩原発アポクリン癌の1例, 第23回日本乳癌学会九州地方会に参加（久留米市）2025/09/07
29	包括的がん治療専門医療人養成コース	鎌田 紘輔, 原発性肺癌に対する胸腔鏡下肺区域切除術後エアリークの検討, 第78回日本胸部外科学会定期学術集会（大阪市）2025/10/23
30	地域医療の様々なニーズに対応する医療人養成コース	石川真代, 大野夏稀, 脇幸子, 最期まで積極的治療をしてほしいと思うA氏に看護師はどう向き合うか, 日本死の臨床研究会九州支部2025年度研究集会（大分）2025年8月2日
31	地域医療の様々なニーズに対応する医療人養成コース	小川彩香, 中瀬あゆみ, 石川真代, 門永太一, フェスゴ療法を受けた患者の体験と今後の課題, 第40回日本がん看護学会学術集会（大阪）2026年2月21日・22日
32	地域医療の様々なニーズに対応する医療人養成コース	水田長兵, 岐部千鶴, 橋本理恵子 終末期療養患者の在宅移行支援において病棟看護師が訪問看護師に期待する支援 第48回大分県看護研究学会 2025年11月21日
33	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	寺林 健、西澤 俊哉、佐々木 隆子、石崎 敏理、急性腎障害に対するDRD2作動薬の腎保護作用-臨床ビッグデータとAI を活用した新たな治療薬探索 第78回日本薬理学会西南部会（宮崎）2025年11月8日
34	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	藤野 杏里桜、寺林 健、花田 克浩、Illudin Sによる転写共役型ヌクレオチド除去修復欠損細胞特異的殺傷機構の解析 第78回日本薬理学会西南部会（宮崎）2025年11月8日
35	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	寺林 健、西澤 俊哉、佐々木 隆子、山西 芳裕、石崎 敏理、DRD2シグナルはシスプラチン誘導性急性腎障害を緩和する 第48回日本分子生物学会年会（横浜）2025年12月3日
36	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Terabayashi T., Nishizawa T., Sasaki T., Hanada K., Yamanishi Y., and Ishizaki T. DRD2 agonist ameliorates cisplatin-induced kidney injury. 第99回日本薬理学会年会（仙台）2026年3月
37	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Hanada K., Terabayashi T., Nishida Y. Investigation of the cytotoxic action of an indole alkaloid evodiamine. 第99回日本薬理学会年会（仙台）2026年3月
38	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	佐上亮太, 広島康久, 水上一弘 微小腫瘍診断を見逃さないために注目すべき画像所見. 第125回日本消化器病学会九州支部例会／第119回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 2025. 5. 福岡県久留米市（シンポジウム）
39	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	大森翔太, 放射線肺炎に対するステロイドパルス療法の意義（DPCデータを用いた後方視的研究）, 第66回日本肺癌学会学術集会（東京）2025年11月8日
40	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	安部美幸、阿部祐太、太田和貴、佐藤貴大、野田大樹、内匠陽平、原武直紀、杉尾賢二、小副川敦。胸腺癌切除症例の検討、第125回 日本外科学会定期学術集会、2025年4月10-12日、仙台国際センター
41	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	安部美幸、阿部祐太、太田和貴、佐藤貴大、野田大樹、内匠陽平、原武直紀、杉尾賢二、小副川敦。Ciliated muconodular papillary tumorの臨床的特徴第42回 日本呼吸器外科学会学術集会、2025年5月15日（木）・16日（金）、グランドニッコー東京 台場
42	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	安部美幸、佐藤貴大、阿部祐太、太田和貴、工藤栄華、野田大樹、内匠陽平、原武直紀、杉尾賢二、小副川敦、咯血に対する姑息的処置としてのEWS留置、第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会、2025年6月12日（木）～13日（金）、仙台国際センター
43	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	安部美幸、ためになる「オペレコ」のすゝめ、第34回 日本癌病態治療研究会、2025年6月19日（木）20日（金）、会津若松ワシントンホテル、教育セッション（依頼）
44	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	安部美幸、工藤 栄華、鎌田 紘輔、内匠 陽平、原武 直紀、杉尾 賢二、小副川 敦、非小細胞肺癌所属リンパ節内血管新生の検討、第66回 日本肺癌学会学術集会、2025年11月6日（木）～8日（土）、東京国際フォーラム
45	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	安部美幸、工藤栄華、佐藤貴大、鎌田紘輔、内匠陽平、原武直紀、杉尾賢二、小副川敦、デジタル手術記録のKnack & Pitfallーデジタルツールを知り尽くし使い倒すー、第87回 日本臨床外科学会学術集会、11月20日（木）-22日（土）、京王プラザホテル
46	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	安部美幸、鎌田紘輔、佐藤貴大、工藤栄華、内匠陽平、原武直紀、杉尾賢二、小副川敦、国産手術支援ロボットhinotoriによるRATS導入と発展、第38回日本内視鏡外科学会総会、2025年12月11日（木）- 13日（日）、パシフィコ横浜
47	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	第61回 日本胆道学会学術集会 LS-14 ステンント交換を見据えた悪性胆道ドレナージの最適解を探る、佐上亮太 発表形式：ランチョンセミナー

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

48	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	2025年7月 第56回日本膵臓学会大会、8-wireバスケットカテーテルを用いた主膵管微小残石の完全除去 佐上亮太, 錦織英史, 水上一弘, 発表形式: ミニワークショップ
49	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	LS-14 内視鏡が照らす膵がん完治への道 早期発見のために今できること、佐上亮太 発表形式: ランチョンセミナー
50	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	2025年5月 第125回日本消化器病学会九州支部例会、微小膵癌診断を見逃さないために注目すべき画像所見 佐上亮太, 広島康久, 水上一弘, 発表形式: シンポジウム
51	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	2025年5月 第109回日本消化器内視鏡学会総会、膵癌早期発見における超音波内視鏡画像診断の有用性 佐上亮太, 山雄健太郎, 南竜城, 発表形式: シンポジウム
52	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	10mm以下早期膵浸潤癌におけるEUS-FNAB診断の実際と膵液細胞診による追加正診 佐上亮太, 仲程純, 南竜城, 発表形式: ワークショップ
53	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	LS-3 良性疾患で輝く! プラスチックステントの使いどころ 佐上亮太, 発表形式: ランチョンセミナー
54	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	徳山耕平, 馬場博, 小宅桃子, 後藤洋徳, 井原健二, 浅山良樹 内臓播種性水痘帯状疱疹ウイルス感染症の1例 第61回日本医学放射線学会秋季臨床大会
55	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	米増諒介 徳山耕平 浅山良樹 瀬山山伸也 秦聡孝 前立腺癌肺腺癌の一例 第61回日本医学放射線学会秋季臨床大会
56	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	花田克浩, 寺林健, マウス組織内に蓄積する二重鎖切断の解析. 第54回日本環境変異限ゲノム学会大会(静岡) 2025年11月22日
57	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Karashima T, Takamori S, Abe M, Takumi Y, Osoegawa A, Sugio K. Safety and efficacy of neoadjuvant cisplatin + S-1 combined with radiation therapy for locally advanced non-small cell lung cancer, Surg Today, 55(7):886-899, 2025
58	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Haratake N, Takamori S, Isozaki H, Shigeta K, Kikutake C, Ozawa H, Bhattacharya A, Nakashoji A, Suyama M, Takenaka T, Yoshizumi T, Osoegawa A, Aaron N Hata. Activation of APOBEC3 cytidine deaminases and endogenous retroviruses is integrated by MUC1-C in NSCLC cells. Cell Death Discov. Aug 8;11(1):372. 2025
59	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Haratake N. Comparison of Segmentectomy versus Wedge Resection for Clinical Stage IA Small Non-Small Cell Lung Cancer with CT Ratio > 0.5: CReGYT-02 study, ESMO AESMO Asia Congress 2025(Singapore) 2025/12/5
60	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	原武直紀, EGFR遺伝子陽性進行非小細胞肺癌の治療, 第66回日本肺癌学会学術集会(東京) 2025/11/06
61	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	原武直紀, EGFR-TKI耐性NSCLCに対するMUC1-C標的ADCによる新たな治療戦略, 第66回日本肺癌学会学術集会(東京) 2025/11/07
62	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	原武直紀, 非小細胞肺癌細胞における分子標的薬耐性の記憶—MUC1-Cを標的とした術後補助療法再燃例への新規治療の検討と開発—
63	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	内匠陽平, 非小細胞肺癌患者における血漿中可溶性免疫チェックポイント分子の術後推移,
64	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	野田大樹, 当科における肺大細胞神経内分泌癌切除例に関する検討,
65	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	原武直紀, EGFR Exon 20 insertion 変異を有する肺腺癌切除例の臨床病理学的背景と予後の解析, 2025/05/15
66	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	辛島高志, ロボット支援下肺手術における解剖学的ランドマークの術中教示AIシステムの開発, 2025/05/16
67	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	鹿子嶋洋明, 小坂聡太郎, 水上一弘, 小林隆志, ケモカインCCL9およびその受容体CCR1の欠損マウスを用いた炎症性腸疾患モデルの解析, 第16回日本炎症性腸疾患学会学術集会(札幌) 2025年8月22-23日
68	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	寺師尚平, 小坂聡太郎, 郷田悠, 鹿子嶋洋明, 福田昌英, 堤康志郎, 平下有香, 福田健介, 小川竜, 水上一弘, 8番染色体異常を有する急性骨髄性白血病と腸管ペーチェット病様消化管病変を併発した潰瘍性大腸炎の1例, 第16回日本炎症性腸疾患学会学術集会(札幌) 2025年8月22-23日
69	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	小坂聡太郎, 寺師尚平, 永田かほり, 安部絵里沙, 川野美穂, 園田雄斗, 田村尚輝, 朝日奈文彦, 淀優花, 上尾豪志, 峯崎大輔, 貞本洋子, 木下慶亮, 堤康志郎, 福田昌英, 平下有香, 福田健介, 小川竜, 村上和成, 水上一弘, TCS前処置における経口硫酸マグネシウム水和物(サルプレップ®)の有効性と安全性に関する検討, 第32回日本大腸検査学会九州支部会(大分) 2025年8月30日
70	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	小坂聡太郎, 寺師尚平, 濱野朋恵, 因幡和美, 高橋晴彦, 仲谷朋久, 水上一弘, 難治性潰瘍性大腸炎に対するミリキズマブの短期使用成績, 第120回日本消化器内視鏡学会九州支部例会(大分), 2025年11月28-29日

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ その他(受賞等)

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>Nagasawa Y</u> : 13th Federation of Asian Clinical Oncology, International Travel Grant 2025.9.10
2	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>Nagasawa Y</u> : 21th World Congress of Endoscopic Surgery, Young Travel Grant. 2025.10.6
3	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>皆尺寺 悠史</u> 現状と今後の可能性～イディアルボタンZEROの使用経験～, 九州PEGセミナーオリンパス主催 招待講演(福岡) 2025年11月15日
4	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>皆尺寺 悠史</u> ArtiSential両手使用の小児外科領域における可能性, 第38回日本内視鏡外科学会総会 Educational Symposium2 招待講演(横浜)2025年12月11日
5	包括的がん治療専門医療人養成コース	<u>大塚健一郎</u> : 第26回日本脳神経核医学研究会 学術奨励賞(優秀賞), 2025年11月13日
6	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	<u>Ryota Sagami</u> : 2025.10 33th United European Gastroenterology Week (UEGW) Travel Grant A JAPANESE NATIONWIDE PROSPECTIVE OBSERVATIONAL STUDY ON EARLY PANCREATIC CANCER SCREENING IN HOSPITAL OUTPATIENTS USING A COMPREHENSIVE SCORING SYSTEM COMPARED WITH WESTERN SCREENING METHODS (EPSS-1)
7	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	<u>佐上亮太</u> : 2025.10 2025年度 日本消化器病学会 若手研究者のための国際学会参加費用の一部助成
8	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	<u>Ryota Sagami</u> : 2025.9 Taiwan Digestive Disease Week (TDDW) The 9th joint session between TDDW - JDDW - KDDW Guest speaker (Rising Star Award) Patient Selection Method, Characteristic Imaging, and Cytopathological Diagnosis in the Detection of Early Pancreatic Cancer: Making the Invisible Visible

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	宮崎大学
コーディネーター	医学部附属病院 臨床腫瘍科・がんセンター 教授 細川 歩
事務担当者	医学部医療人育成課医学教育1係 係長 間野 泰孝

1. 概要

テーマ
<p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p>

各テーマに対する今年度の実績

○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成

1. 包括的がん専門医療人養成コース

【がん薬物療法】

分子レベルでがん薬物療法に精通した薬剤師の育成を目的として、令和6年度および令和7年度に各1名、計2名の薬剤師が大学院に進学し、基礎研究に従事している。また、令和8年度には薬剤師1名が大学院へ進学予定である。あわせて、がん専門薬剤師資格の取得を視野に入れた実践的教育を行い、薬剤師における高度専門人材の育成を進めている。

【病理】

病理専攻医・病理専門医・病理部技師・学部学生を対象に、病理診断・細胞診診断・分子病理診断に関するカンファレンスを開催し、多職種が参加可能な教育機会を整備している。また、病理専門医資格取得者に対し、分子病理専門医資格の取得を促進し、受験準備を進めている。さらに、2025年10月18日に開催された病理学会九州沖縄支部主催「秋の病理学校」への参加を募り、研修医・学生10名が参加するなど、若手育成にも取り組んでいる。

【放射線】

大学院進学に向けた講義や実習を積極的に実施し、放射線分野に興味を持つ人材の確保と育成を進めている。また、放射線治療専門医の資格取得を目指す専攻医に対して講義を行いながら診療経験を積む環境を整備するとともに、将来的に医学物理士など関連領域の専門職を含む多職種育成にもつながる教育体制を構築している。

【小児がん医療】

九州各県、山口県、愛媛県合同で毎月小児がん拠点病院TV会議を開催しており、症例検討会を行っている。学生受け入れ時には参加できる体制を整え、小児がんの現場や、最新治療についての情報を伝える場を設けている。

2. がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース

【がん看護】

本コースでは、「がん患者および家族のQOL向上」を中核目標に、臨床現場の多様な課題に対応できる高度な実践力と研究能力を併せ持つがん看護専門看護師の養成を行っている。令和5年度および6年度に各1名、計2名の大学院生を受け入れ、現在も2名が在籍している。今年度は、臨床ニーズに直結した教育内容の充実を図り、「学生を対象としたがん予防教育」や、「高齢がん患者を対象とした高齢者機能評価およびQOL評価に基づく意思決定支援」などを中心とした教育を実施した。あわせて、ゲノム医療、希少がん、小児がんなど、がん医療の高度化・多様化に対応する最新医療に関する講義を行った。さらに、長崎医療センターのがん看護専門看護師による意思決定支援に関する講演、福岡看護大学教授による口腔ケアに関する講演を開催し、臨床実践に根ざした学習機会の強化を図った。

研究面では、国内で研究蓄積が十分とは言えない「がん予防・がん教育」を重点テーマとし、大学生・看護専門学校生を対象とした教育介入研究や、「高齢者機能評価を用いたがん患者支援およびQOL評価」に関する研究など、予防から高齢者がん看護までを網羅する多様な研究活動を推進した。特に、本コース大学院生が研究課題「若年成人を対象としたがん教育プログラムの開発および、がんに関する知識・リテラシー・スティグマへの影響を検証するランダム化比較試験」により、公益財団法人安田記念医学財団 令和7年度癌看護研究助成に採択され、授賞式において代表者として挨拶を行ったことは、本研究テーマの社会的意義と教育・研究成果が高く評価された結果である。今後も、臨床・予防・研究を有機的に統合した教育体制のもと、地域のがん医療を担う高度専門職人材の育成を継続していく。

3. がん専門医療人養成プログラム(インテンシブ)

地域でのがん専門医療人の充足や、がんの標準治療から終末期の緩和ケアに関わる医療人の育成を目的として、令和7年9月から11月にかけて宮崎大学がんセミナーを開催した。がん薬物療法、放射線療法、病理学、緩和医療などの総論から、肺がん、乳がん、胃がん、大腸がん、小児がん、皮膚がんなどの各論まで、全13回(26コマ)の講義を開催した。本年度、周知活動に力を入れた結果、昨年度182名から大きく増加し、院内外から医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など延べ261名の多職種の医療人が参加した。このセミナーを通じて、多様な専門職が最新の知識と実践的な視点を共有し、地域のがん医療水準の向上に貢献することが期待される。

4. 放射線治療専門医養成コース(インテンシブ)

放射線治療医に必要な基礎科目20コマ(放射線生物学、放射線防護、安全管理)および臨床科目20コマ(放射線治療総論、放射線腫瘍学、治療計画)を計画的に実施した。試験前には集中講義を行い、放射線治療専門医資格取得を視野に入れた実践的教育支援を行っている。また、医学物理士や診療放射線技師など関連職種との連携も視野に、放射線治療に関わる多職種育成に資する基盤整備を行っている。

○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成

テーマ①に位置づけられるがん看護専門看護師養成コースでは、現在受け入れている2名の学生が「がん予防・がん教育」に焦点を当てた研究を進めており、大学生や専門学校生を対象としたデータ収集および教育活動を実施している。これらの取り組みは、がん看護領域における新たな研究分野の開拓につながるとともに、地域におけるがん予防活動を担う人材育成にも寄与している。さらに、令和7年度 安田医学財団研究助成金に採択されたがん教育プログラムを発展させることで、がん予防教育への貢献が一層期待される。

実績を踏まえた成果(学生教育の観点での成果について記載すること)

○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成

1. 包括的がん専門医療人養成コース

【がん薬物療法】

がん薬物療法の分野では、令和6年度と令和7年度に薬剤師が各1名ずつ、合計2名が大学院に入学し、がん分子標的薬の耐性化機構の解明と耐性克服法の開発を目的とした研究に取り組んでいる。

【病理】

2025年度に病理専門医・分子病理専門医試験の受験者はなかったものの、病理専門医や大学院生の受験意欲は増加傾向にあり、講義、研究室配属、カンファレンスを通じて、学生の病理医・研究医・大学院進学への動機付けが行われた。

【小児がん医療】

リサーチカンファレンスを定期的で開催することで、研究の重要性理解と若手医師の研究意欲向上にも寄与している。

2. がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース

【がん看護】

がん患者および家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コースでは、宮崎県における医療資源の偏在を踏まえ、地域でのがん医療に対応できる実践力を育成するため、実習施設の新規開拓とカリキュラムの再編成を進めた。その結果、令和3年1月25日付で38単位の専門看護師教育課程として正式に認定され、教育体制の充実が図られた。

学生教育の面では、大学院生2名が「がん予防・がん教育」をテーマに研究を推進し、学部生と大学院生が共に学ぶ講義・演習を新設したことで、学生が早期からがん看護専門看護師の役割や高度実践への理解を深める機会が増加した。これにより、がん看護領域への関心が高まり、将来のキャリア選択に具体的な展望を持つ学生が増えたことは大きな成果である。

さらに、ゲノム医療、小児・希少がんなど近年求められる専門領域への対応力を高めるため、教員や多彩な外部講師による専門講義の開催や学会参加を推進し、学部生・大学院生・臨床看護職が最新知見を共有できる教育基盤を整備した。これらの取り組みにより、学生は高度な専門性に触れつつキャリア形成を具体化できる環境が整い、地域で活躍できるがん看護人材の育成に着実な成果を上げている。

3. がん専門医療人養成プログラム(インテンシブ)

がん専門医療人養成プログラム(インテンシブ)では、令和7年度に宮崎大学がんセミナーを開催し、がん診療の基本、標準治療、最新のエビデンスに基づく内容について講義を行った。院内外からは医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など延べ261名が参加した。アンケートに回答した209名のうち、「非常に良かった」が70%、「良かった」が24%を占め、全体として高い評価を得た。修了者は医師1名、薬剤師1名、放射線技師1名、遺伝カウンセラー1名であった。

4. 放射線治療専門医養成コース(インテンシブ)

放射線治療専門医養成コース(インテンシブ)では、放射線治療医に必要な基礎および臨床知識を講義で習得し、専門医試験前には集中講義による知識整理も行っている。令和7年度は新しく1名の医師がコースでの研修を開始した。

宮崎大学では、医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など多職種を対象とした教育プログラムを実施し、専門性の向上のみならず、研究への動機付けや地域医療への対応力の強化に取り組んでいる。

○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成

がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コースにおいて、令和5・6年度に受け入れた大学院生2名が、大学生や専門学校生を対象に「がん予防・がん教育」をテーマとした看護研究を実施。これにより、がん予防の啓発や教育推進に資する人材養成が行われている。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

1. 包括的がん専門医療人養成コース（大学院コース）

令和6年度および7年度に薬剤師が各1名（合計2名）大学院へ入学し、がん分子標的薬の耐性化機構の解明に関する研究に取り組んでいる。また、令和8年度に1名の薬剤師が大学院へ進学予定である。今後も学生の受け入れを推進し、がん医療の現場で顕在化する課題に対応できる専門人材の育成を図る予定である。

2. がん看護専門看護師養成コース（大学院コース）

令和5・6年度に受け入れた大学院生2名は、文部科学省「がんプロ」経費により、がん看護学会への参加や研究に必要な経費の支援を受けることが可能となり、研究活動の質向上に大きく寄与した。これにより、学生は「がん予防・がん教育」に関する研究を着実に推進でき、学会発表や論文執筆などの学術成果へ結びつけることができた。また、これらの成果は、がん医療現場の課題に対応する人材育成（テーマ①）と、がん予防の推進を行う人材育成（テーマ②）の双方において、有意義な実績として評価できる。

3. がん専門医療人養成プログラム（インテンシブコース）

院内外から医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など延べ261名の多職種医療人が参加し、修了者は4名であった。これまでの修了者の医師の中から、日本がん治療認定医機構のがん治療認定医や日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医を目指す医師がみられており、今後もがん治療の専門医の育成を推進する予定である。

4. 放射線治療専門医育成コース（インテンシブコース）

放射線治療医を目指す医師を対象に、放射線腫瘍学を中心とした臨床腫瘍学全般および生物学・物理学の広い知識を習得できる教育を実施している。さらに、他科・他職種とのカンファレンスや研究会、学会参加を積極的に行うことで、学生の専門知識と視野の拡大を支援している。その結果、令和6年度には1名が放射線治療専門医資格を取得した。現在、放射線科専門医取得前の6名を対象に毎週講義を実施しており、今後も大学院生の確保・専門医資格取得支援を進める予定である。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

【宮崎大学がんセミナー】

宮崎大学では、がん専門医療人養成の一環として「宮崎大学がんセミナー」を実施した。本セミナーは、がん診療の総論から各論まで幅広く学ぶことを目的としており、がん薬物療法、放射線療法、がん病理学などの総論に加え、主要ながんから希少がんまで幅広い各論について講義を行った。全13回（26コマ）の講義に、医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など延べ261名の多職種の医療人が参加した。各領域の第一線で活躍する医師等を講師に迎え、ガイドラインや最新のエビデンスに基づく内容で講義を実施したことで、参加者はがん診療の基本や標準治療について理解を深めるとともに、総論から各論にわたる最新知識を習得することができた。本セミナーにより、多職種の医療人が包括的に学ぶ機会を得ることで、専門性の向上や多職種連携による医療の理解が促進され、現場で顕在化するがん医療の課題に対応できる人材の育成に寄与することが期待される。

【がん看護】

宮崎大学では、がんプロプロフェッショナル講演会として、2回の講演会を実施した。

講演会1：「意思決定支援-最期まで生き抜くことを支えた一例-」として、独立行政法人国立病院機構長崎医療センターがん専門看護師 田中圭先生 を講師として招き、高度実践看護師の実際の介入プロセスを学ぶことで、看護専門職としての意思決定支援のあり方を深く考える機会となった。

講演会2：「がん患者の口腔ケア」福岡看護大学 地域・在宅看護部門 教授の宮園真美先生を招き、がん患者における口腔ケアの最新知見と、エビデンスに基づく評価・ケアの実際が紹介された。

2回の講演会はいずれも、がん看護の実践に不可欠な専門的知識と臨床判断を学ぶ機会として大変有意義であった。学生にとっては、教科書では得られない“実践知”に触れ、がん看護の専門性や看護職としての役割を具体的に理解する機会となった。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

がん看護専門看護師養成を機に設立した「宮崎大学がん看護研究会」のホームページ上で、がんプロ講演会の案内を掲載した。また、本学医学部ポータルサイトへの研修案内を掲示し、学部の学生をはじめ大学病院スタッフへも参加を呼び掛けた。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

今年度は、学生が不在であるため学生が直接大学関連病院と関わることはなかったが、附属病院で開催される緩和ケア症例検討会ならびに附属病院遺伝カウンセリング部主催の症例検討会にがんプロ担当教員が継続して参加することにより、教員のFaculty Development (FD)の向上を図るとともに、学生受入時にこれらの検討会に参加できるよう体制を整えている。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

理由・分析等

1. 包括的がん専門医療人養成コースでは、令和6年度と令和7年度に薬剤師が各1名ずつ、合計2名が大学院に入学し、がん診療に関わる専門的知識と研究能力の習得を目指している。また、令和8年度には、更に1名の薬剤師が大学院へ進学予定である。
2. がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コースでは、学生2名が在学し、がん患者支援やQOL向上また、に関する専門知識・技術の習得を支援した。これらの取り組みにより、がん診療現場で求められる人材育成は一定の進展がみられ、教育目標の多くは達成に近づいている。
3. がん専門医療人養成プログラムでは、医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など多職種の医療人が多数参加し、総論から各論にわたるがん診療の理解を深めた。修了者は4名であった。また、本年度、周知活動に力を入れた結果、昨年度182名から261名と大きく増加した。
4. 放射線治療専門医育成コースでは、放射線治療専門医を目指す医師に対して計画的な教育を実施している。また、令和7年度は新しく1名の医師がコースでの研修を開始した。

これらの取り組みにより、多職種の医療人の専門性向上や多職種連携による診療力の向上、さらに専門医資格取得に向けた教育環境の充実を図っている。今後も、大学院コースの学生数の増加や専門医資格取得の支援に一層注力していく必要がある。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

大学院コースとして、包括的がん専門医療人養成コースに学生2名、がん患者および家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コースに学生2名を受け入れており、がん診療に関わる人材育成を図っているが、今後もさらに学生の受け入れを増やしていく必要がある。

がん専門医療人養成プログラム(インテンシブコース)では、宮崎大学がんセミナーにおいて総論(がん薬物療法、放射線療法、がん病理学など)から各論(肺がん、乳がん、胃がん、大腸がんなどの代表的な腫瘍に加え、小児がん、皮膚がんなどの希少がん)まで幅広く講演会を実施している。今後も、地域でのがん診療の充実を目指し、がん治療専門医の育成や、多職種の医療人の専門性向上を推進していく予定である。

また、病理診断および放射線治療分野の大学院生の確保にも注力している。病理分野では、インテンシブコース受講者の中から大学院コースへの加入者や病理専門医・分子病理専門医試験の受験者・合格者を増やすためのプロモーションを行い、地域のがん診療を支える病理医の育成を継続していく。また、講義、研究室配属、カンファレンスを通じて、学生が病理医、研究医、大学院進学を目指す動機付けを行っている。放射線治療分野では、放射線治療専門医育成コース(インテンシブコース)の活動を通じて、専門医の育成と大学院生の確保につなげていくことを目指している。)

がん看護領域では、現在の大学院生2名が「がん予防・がん教育」を主題に研究を進めており、がん医療の現場課題への対応に加えて、がん予防を担う人材育成にも一定の成果がみられた。一方で、教育内容の高度化や研究領域の拡大に向けて、より多様な臨床課題に触れる機会の充実が今後の課題として挙げられる。

今後は、臨床現場・地域・教育機関との連携をさらに強化し、高齢がん患者支援、ゲノム医療、小児・希少がんなど、幅広い領域を学べる教育環境の整備を進めたい。また、38単位の専門看護師教育課程として認定されている本コースの特性を活かし、大学院進学希望者の増加につながる広報活動や学部生向けのキャリア支援も強化していく。

これらの取り組みを通じて、がん患者および家族のQOL向上に貢献できる高度実践看護師を継続的に育成する体制をさらに充実させる方針である。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	宮崎大学
-----	------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	放射線治療専門医育成プログラム	Uchimura R, Khant ZA, Hayashi H, Nagayama Y, Uetani H, Kaku Y, <u>Nagatomo T</u> , Tamura Y, Yokogami K, Mukasa A, Kiyosue H, Azuma M, Hirai T. Usefulness of Dual-Energy CT for Differentiating Hemorrhage From Iodine Extravasation in Meningiomas After Preoperative Embolization, J Comput Assist Tomogr, 49: 493-501, 2025

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	包括的がん専門医療人養成コース	幸妻貴子, BRAF変異陽性大腸癌におけるBRAF・MEK阻害剤耐性機構の解析, 第14回九州山口薬学会ファーマシューティカルケアシンポジウム(宮崎市), 2026年2月8日
2	包括的がん専門医療人養成コース	新地瑠海, 浦田修平, 大野梨絵, 南謙太郎, 幸妻貴子, 池田龍二, nal-IRI+5-FU/I-LV療法における炎症及び栄養評価指標の検討, 第17回日本がん薬剤学会(JSOPP)学術大会(鹿児島), 2025年6月7日
3	実践者育成コース(がん看護)	川野理沙, 佐藤伊代, 伊豆倉理江子, 甲斐友梨, 内田倫子, 田上博喜, 木下由美子, 看護専門学校生におけるがんステイグマとその関連要因の検討, 日本看護研究学会第51回学術集会(金沢), 2025年8月30日
4	実践者育成コース(がん看護)	新谷真美, 金岡麻希, 伊豆倉理江子, 甲斐友梨, 内田倫子, <u>川野理沙</u> , 木下由美子, 食道がん患者のフレイルとQuality of Lifeの関連, 日本看護研究学会第51回学術集会(金沢), 2025年8月30日
5	がん専門医療人育成プログラム	山口昌俊, 岩井美奈代, 寺川千晴, 土井宏太郎, 富永洋平, 細川歩, がんゲノムプロファイリング検査と生殖細胞系列での遺伝学的検査が一致しなかった1例, 第31回日本遺伝性腫瘍学会学術集会(福岡), 2025年6月20日
6	がん専門医療人育成プログラム	Goto Y, Doi K, Yamaguchi M, Murai Y, Matsu K, Muraoka J, Fujisaki M, Hirata T, Akizuki K, Iwai M, <u>Terakawa C</u> , Yamaguchi M, Tsuzuki R, Umekita Y, Sato Y, Katsuragi S, HPV-Related Cervical Cancer Diagnosed via Comprehensive Genomic Profiling in a Patient with Unknown Primary Metastases, The 70th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics(Yokohama), 2025.12.18
7	放射線治療専門医育成プログラム	今田真希, 寺田珠沙, 門田善仁, 梅北佳子, 佐藤勇一郎, 船元太郎, 東美菜子, ソマトスタチン受容体シンチグラフィがFGF23 関連低リン血症性骨軟化症の診断に寄与した一例, 第201回日本医学放射線学会九州地方会(北九州), 2025年6月7日

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	鹿児島大学
コーディネーター	鈴木 紳介
事務担当者	梅田 公貴

1. 概要

<p>テーマ</p> <p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p>

各テーマに対する今年度の実績

- 1) 大学院コースとして「先端がん診断・治療コース」、および2つのインテンシブコース（「がん専門薬剤師養成コース」「遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者養成コース」）を引き続き設けた。インテンシブコース（がん専門薬剤師養成コース）への参加者は4名、インテンシブコース（遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者養成コース）には5名（R06加入者。うち1名はR07修了。）が参加し、がん医療・予防・研究に資する専門的人材育成を行った（テーマ①②③）。
- 2) 日本臨床腫瘍学会「がん薬物療法専門医」、日本人類遺伝学会「臨床遺伝専門医」など、高度専門資格を有する医療人の育成を継続し、がん医療・予防・研究を横断的に担う人材輩出に寄与した（テーマ①②③）。
- 3) テーマ①③に対して、多職種構成員によるがんゲノム専門家会議（鹿児島大学病院 エキスパートパネル）を週1回計50回、事例検討会（鹿児島大学病院 Cancer Board）を計7回、公開講座（鹿児島県がん診療連携拠点病院事業四部門合同研修会及び部門会）を2回、市民公開講座を1回 主催（開催予定を含む）を今年度も継続的に開催した。大学院生の出席を促し、実臨床に即した学修機会を提供した。特に鹿児島大学病院 エキスパートパネルでは、5大主要がんのみならず、希少がんまで 40がん種を解析し、希少がん及び難治性がんに対応する人材育成を進めた。令和7年度からは、造血器腫瘍の遺伝子パネル検査（ヘムサイト）にも対応し、遺伝子変異情報から治療法のみならず、診断、予後予測についても解析できる人材育成に尽力した（図1）。

年齢：20代 性別：女性 ヘムサイト
 臨床経過：初発骨髄性肉腫（前線腫瘍、心臓
 遠隔転移）、上行大動脈～大動脈弓、前動脈、腹
 部、左梨頭、左股骨下動脈、左股頭静脈～上大
 静脈への腫瘍浸潤
 前線腫瘍生検、myeloid sarcoma Bcl2(+),
 TdT(30%+), CD117(weak+), CD38(weak+),
 CD79a(focal/weak+), CD35,4(-/+), CD8,
 CD34, CD20, CD10, CD30, CD56(-)
 1 次治療：IDR+AraC
 【検査】あり；母、子宮頸癌
 【発症がん】なし
 【変異】なし【アルコール多飲】なし
 【クレンジング】なし【遺伝子パネル検査】あり
 > Actionable遺伝子異常
 NRAS p.G12D, WT1 p.E345Ter, LUC7L2
 p.E253RfsTer34, PDS5B p.N1390MfsTer4,
 TP53 deletion, MLLT10-PICALM
 rearrangement (リード数: 340)
 > Druggable遺伝子異常
 なし
 > Germline Pathogenic Variants
 なし

【遺伝子プロファイルに基づく推奨治療】
 1. なし
 2. MEK inhibitor → NRAS p.G12D (C-CAT E) (EL A/D/C)
 * 2024年最新アップデートの臨床試験結果に基づき、NRAS p.G12Dを有する患者に対して、MEK阻害剤を用いた治療が示されています。臨床試験の結果に基づき、患者の病状や既往治療に基づいて治療法を選択してください。

【総合的に基づく推奨治療】
 1. TPICALM-MLLT10 (EL A/-/A) → TP53欠失(EL A/A/A) +
 NRAS活性化 + LUC7L2機能喪失変異(サブタイピング異常)
 化学療法で寛解を目指し、寛解後できるだけ早期に同種造血幹
 細胞移植 (allo-HCT) を検討
 * NRAS機能喪失変異、LUC7L2機能喪失変異を標的にした国内臨床試験なし

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

鹿児島大学病院 エキスパートパネル、鹿児島大学病院 Cancer Board、鹿児島県がん診療連携拠点病院事業四部門合同研修会及び部門会、市民公開講座には、大学院生の出席を促した。また、がん遺伝子パネル検査外来、遺伝カウンセリング外来への陪席も促し、インテンシブコース（遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者養成コース）を通して、日本臨床腫瘍学会「がん薬物療法専門医」と日本人類遺伝学会「臨床遺伝専門医」の取得するための教育を継続している。今年度の専門医取得者はいなかった。

2. 各事業の取り組み状況

<p>①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）</p> <p>（大学院コース）「先端がん診断・治療コース」では、本年度1名の在籍者がおり、「鹿児島大学病院 エキスパートパネル」、「鹿児島大学病院 Cancer Board」、「鹿児島県がん診療連携拠点病院事業 四部門合同研修会及び部門会」、「市民公開講座」への学生の参加を推奨し、多職種で連携して医療を実践するための知識や技術の獲得を促しつつ、医療実習（Cancer board、エキスパートパネル、遺伝カウンセリング）を行った。</p> <p>（インテンシブコース）「遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者養成コース」は、科学的根拠に基づいたがん予防の推進を行う人材養成を目的に、重要なコースであり、5名（R06加入者。うち1名はR07修了。）が参加した。インテンシブコース（がん専門薬剤師養成コース）の参加者は4名（R06加入者。）。</p>

②シンポジウム、セミナー、講習会等

【鹿児島大学病院 エキスパートパネル】

毎週主催、がん遺伝子パネル解析症例数 計198例、多職種（がん薬物療法専門医、臨床遺伝専門医、病理専門医、遺伝カウンセラー、分子遺伝学専門家、バイオインフォマティクス専門家、主治医、薬剤師、看護師、大学院生）参加人数 のべ928人（令和7年4月-12月）5大主要がんから希少がん・肉腫まで、今年度からは造血器腫瘍も解析した。ゲノム検査を入りに、病歴・家族歴・生活歴・病理像から、診断、予後予測、臨床試験を含めた治療法への道筋、さらに遺伝性腫瘍への家族を含めたサーベイランスについて詳細に検討した。診断学の伝統的手法から最先端のゲノム医療まで用いて、結論のみならず、各分野のエキスパートの考え方を伝え、大学院生のがん診療への深い理解を促した。



【造血器腫瘍遺伝子パネル検査 ～がんゲノム診療連携講演会～】

今年度から、保険診療となった造血器腫瘍遺伝子パネル検査について、従来の固形腫瘍との共通点と相違点について概説した。すでに解析した4症例を提示し、融合遺伝子異常が大きな意味を持ち、治療のみならず、予後予測と診断にも重要であることの理解を助けた。

【鹿児島大学病院 Cancer Board】

第1回（4/16）：肺癌術後のMALTリンパ腫

第2回（6/18）：集学的治療が奏効している腓神経内分泌腫瘍の一例

第3回（9/17）：皮膚粘液癌 多発骨、心膜、胸膜、肺転移

第4回（11/19）：乳癌術後7年、子宮頸癌術後30年、膣断端部で再発し、十二指腸乳頭部腫瘤を合併している症例

第5回・6回・7回は2026年1月21日・2月18日・3月18日・実施予定

【鹿児島県がん診療連携拠点病院事業 四部門合同研修会及び部門会】

第1回（7/26）：「単身者、身寄りのない方への支援 ～医療機関の役割について～」（講師：一般社団法人 愛の会 めぐみの会 岡江 晃児 先生）

第2回（2026/2/7予定）：「化学療法時の腎障害、蛋白尿マネジメント」（講師 栗原 孝成 先生）

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

【市民公開講座】

第1回（2026/1/17 予定）：「最新の肺がん治療～患者の希望に沿った医療をめざして～」（講師：鹿児島大学病院 呼吸器内科准教授 田中 謙太郎 先生）

「最後まで患者に寄り添う医療～家族と話そうこれからの医療とケアについて～」（講師：きいれ浜田クリニック 濱田 努先生）

【HP更新】

大学院コース・インテンシブコースへの周知のため、医歯学総合研究科HPを更新した。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

鹿児島県がん診療連携拠点病院事業 四部門合同研修会及び部門会は、年2回開催され、1回目は県内27施設、約150名（遠隔地にはweb発信）の参加者を得た。この中には、患者会などの参加もあった。鹿児島県のがん診療連携拠点病院（4施設）、特定領域がん診療連携拠点病院（1施設）、地域がん診療病院（7施設）、県がん診療指定病院（14施設）全て参加している。2回目は講演会と各部門の研修を開催予定である。

3. 自己評価

〔選択肢〕 a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

理由・分析等

（大学院コース）「先端がん診断・治療コース」では、本年度1名の入学者があった。
（インテンシブコース）「遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者養成コース」は、科学的根拠に基づいたがん予防の推進を行う人材養成を目的とした重要なコースである。
「がん専門薬剤師養成コース」には4名（R06加入者）が参加した。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

大学院生に対する座学や講演会企画のみではなく、医療実習（Cancer board、エキスパートパネル、遺伝カウンセリング）は整っており、さらに複数の大学院生獲得を目指す。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	鹿児島大学
-----	-------

○ 英文誌

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 先端がん診断・治療コース	Fukuda K, Hozaka Y, <u>Qi H</u> , Tomita M, Idichi T, Yamasaki Y, Kawasaki Y, Hayashi Y, Goto Y, Sugiura T, Akahane T, Higashi M, Tanimoto A, Ohtsuka T. Association between intra-tumoral microbiome and genetic alterations in intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas. Pancreatology. 2025 Sep;25(6):905-911.

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	琉球大学
コーディネーター	福島 卓也
事務担当者	鈴木 里彩

1. 概要

テーマ
<ul style="list-style-type: none"> ○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成 ○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。 ○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成

各テーマに対する今年度の実績
<p>テーマ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん薬物療法専門医取得を目指す医師の大学院コースは令和7年度入学はなかったが、令和6年度の1名が修学中である。 ・インテンシブコース「痛みの治療・ケアを担う緩和ケアエキスパートナース養成コース」には、県内各地のがん診療病院で、緩和ケア・がん看護に携わる臨床看護師7名が受講した。 ・大学院がん看護専門看護師コースには、3名が入学した。
実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）
<ul style="list-style-type: none"> ・インテンシブコース「痛みの治療・ケアを担う緩和ケアエキスパートナース養成コース」（10月開講）には、臨床看護師7名（うちCNSコース以外の本学大学院生1名含む）が受講している。現時点で、全員欠席もなく、熱心に講義、演習へ参加している。授業では、各自それぞれが臨床で抱えている困難や疑問点について、非常勤講師（がん看護専門看護師、老人看護専門看護師、緩和ケア認定看護師等）へ積極的に質問し、事例検討やロールプレイ等のグループワークにも積極的に参加しディスカッションを行うなど、主体的に参加している。 ・令和7年9月には、昨年度のインテンシブコース受講生7名による成果発表会を開催し、修了証を授与した。

2. 各事業の取り組み状況

① 教育コース（大学院コース、インテンシブコース）
<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄は島嶼県として離島おけるがん医療の均てん化の問題を抱えている。 ・インテンシブコース「痛みの治療・ケアを担う緩和ケアエキスパートナース養成コース」は、県内各地の臨床看護師7名が受講し、ELNEC-Jコアカリキュラムを活用したプログラムを提供し、緩和ケアに関する知識・技術向上を支援している。 ・第4期九州がんプロから始まった試みであるがん薬物療法専門医コースにおける長崎大学との連携により単位互換制度を締結した在宅・地域医療実習が非常に好評であった。そこで大学院がん看護専門看護師コースに拡大し、2026年3月に長崎大学大学院による「在宅・地域医療実習」に当研究科のがん看護CNSコース大学院生が2名参加する予定で調整中である。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

- ・2025年6月27日（金） 名古屋大学大学院 医学系研究科臓器病態診断学 教授 加留部謙之輔氏によるがんセミナーを開催し、遺伝子パネルについて、医師、看護師を対象に講演いただいた。
- ・2025年9月12日（金） AYA世代がん患者への支援をテーマとしたがん看護セミナー（ハイブリッド開催、講師：がん研究会有明病院 がん看護専門看護師 上間美夕紀氏）を開催し、県内外より38名の参加があった。また、2025年12月26日（金）には、認知症をもつ高齢がん患者への支援をテーマとしたがん看護セミナー（ハイブリッド開催、講師：静岡県立静岡がんセンター がん看護専門看護師 知念正佳氏）を開催した。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

医学部HPから九州がんプロへのリンクを設置して活動を周知している。琉球大学独自のHPの解説も準備中である。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

インテンシブコースには、県内の地域がん診療病院から多数の参加があった。がん薬物療法専門医コースについても、地域がん診療連携拠点病院の医師に広く勧誘している。また講演会もハイブリッド形式として、これらの病院にアナウンスしており、オンライン参加できる体制にしている。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

理由・分析等

- ・がん薬物療法専門医コースに1名在籍しているが、令和7年度の入学者が0名であった。
- ・今年度は、がん看護専門看護師コースに看護師3名（うち大学病院看護師2名）が入学した。県内看護系大学大学院とも連携しながら、より効果的な養成を図っていきたいと考える。また、県内各地からインテンシブコースに臨床看護師7名が受講している。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・引き続き当学の特徴である大学院コースである「痛みの治療・ケア、がん関連学際領域等を担う地域実践型がん看護専門看護師コース」へ入学する看護師のリクルートに努める。
- ・がん薬物療法専門医コースへ入学する医師獲得を目指す。
- ・がん医療のエキスパートによるセミナーを充実させる。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

■ セミナー・シンポジウム等の開催実績

	大学名	セミナー・シンポジウム等名称 ※主催以外による実施の場合は、その旨を末尾にカッコ書きで記入。	R7実績					
			開催回数	参加者数			参加大学数	
				※自動	(学内) ※ 連携大学含	(学外)		うち拠点外 大学数
1	九州がんプロ	全国がんプロ協議会市民公開シンポジウム	1	-		66		
2	九州がんプロ	九州がんプロ履修生による「教育研究成果発表会」	1	60	60	0	11	11
3	九州がんプロ	北部エリア5大学合同市民公開講座	1	45	7	38	4	0
4	九州がんプロ	北海道・東北・北信・九州がんプロ 4拠点連携シンポジウム (1月16日開催予定)	1	51	24	27	9	6
5	九州がんプロ	九州がんプロ全体研修会	1	35	34	1	10	0
6	九州がんプロ	外部評価会 (2月13日開催予定)	-	-	-	-	-	-
7	九州大学	最先端がん治療セミナー2025 (協力)	1	42	13	29	7	4
8	九州大学	異分野融合のはじめかた (後援)	1	270	225	45	4	2
9	九州大学	2025 Translational Science & Medicine Training Program (TSMTP) (後援)	1	49	22	27	9	5
10	九州大学	希少がんキャラバン「語り合おう！希少がん in 福岡」 (後援)	1	60	9	51	1	0
11	九州大学	先端医用量子線技術科学コース講演会 (次回、2月21日開催予定)	1	171	21	150	35	32
12	九州大学	九州大学病院がんセミナー (共催) (次回、3月2日開催予定)	3	159	68	91	4	0
13	九州大学	九州大学病院がんセンター 市民公開講座 (共催) (2月14日開催予定)	-	-	-	-	-	-
14	九州大学	九州大学病院がんセンター クローバー会 (協力)	5	91	0	91	1	0
15	九州大学	がんゲノム医療セミナー (共催) (次回、2月24日、3月開催予定)	1	174	145	29	8	1
16	九州大学	小児緩和ケアチーム勉強会 (共催) (次回、3月27日開催予定)	4	238	143	95	15	5

17	福岡大学	Lymphoma Web Meeting in South Fukuoka (後援)	2	33	5	28	5	0
18	福岡大学	骨髄腫福岡セミナー2025 (後援)	1	46	2	44	2	0
19	福岡大学	2025年度福岡大学病院がんセミナー (共催) (第142回~147回)	6	142	6	136	6	0
20	福岡大学	第49回福岡大学病院メディカルセミナー (共催)	1	28	18	10	18	0
21	久留米大学	九州がんプロセミナー開催予定 (3月27日開催予定)	-	-	-	-	-	-
22	久留米大学	「『がん患者が最後まで自分らしく』を支える日本型ACP看護支援モデルについて」 (久留米ネットワークの会共催) 開催予定	-	-	-	-	-	-
23	産業医科大学	市民公開講座 (共催)	1	32	2	30	1	0
24	産業医科大学	合同がんセンターボード (共催) (2月開催予定)	1	45	40	5	2	1
25	産業医科大学	両立支援オンラインセミナー (共催) (2月開催予定)	1	50	30	20	2	1
26	佐賀大学	がん診療セミナー (共同開催)	4	270	239	31	7	5
27	佐賀大学	院内がんゲノム勉強会	2	28	26	2	0	0
28	佐賀大学	佐賀県がん化学療法チーム研修会	2	54	13	41	0	0
29	佐賀大学	県民公開講座 (2月、3月開催予定)	-	-	-	-	-	-
30	長崎大学	長崎大学がんプロ記念講演会 兼 第3回長崎県がん診療連携拠点病院研修会 (共催) (2月10日開催予定)	-	-	-	-	-	-
31	長崎大学	県民公開講座「がんについてよく知ろう」 (後援)	1	117	16	101	1	0
32	長崎大学	長崎県がん診療連携拠点病院研修会 (共催) (2月10日、3月開催予定)	1	80	37	43	1	0
33	長崎大学	長崎県がん地域連携パス研修会 (共催) (2月27日開催予定)	1	111	23	88	1	0
34	熊本大学	消化器がんに関するセミナー (共催)	5	194	78	116	1	0
35	熊本大学	がん専門薬剤師養成・特別講演 (共催)	2	64	64	0	1	0
36	大分大学	第17回九州大学・大分大学合同カンファレンス (共催)	1	28	3	25	1	0
37	大分大学	がんを学ぶ広場 (共催) (2月15日開催予定)	-	-	-	-	-	-
38	大分大学	令和7年度第3回大分大学医学部附属病院市民公開講座 耳鼻のどにできる頭頸部を知ろう!	1	38	6	32	0	0
39	大分大学	令和7年度第5回大分大学医学部附属病院市民公開講座 口腔がんと口腔前がんについて講演 (2月開催予定)	-	-	-	-	-	-

40	大分大学	第9回日本サルコーマ治療研究会学術集会 九州がんプロ共催セミナー（3月5日開催予定）	-	-	-	-	-	-
41	大分大学	令和7年度事例検討会（1月24日、3月7日開催予定）	4	0	36	11	4	0
42	大分大学	令和7年度 第1回 公開講座 「終末期がん患者の退院支援と訪問看護～在宅支援での看取りの一事例～」	1	19	14	5	3	2
43	大分大学	令和7年度 第2回 公開講座 「スピリチュアルケアについて（仮）」	1	33	22	11	2	1
44	大分大学	令和7年度 第1回市民公開講座「アピアランスケアについて（仮）」（3月開催予定）	-	-	-	-	-	-
45	宮崎大学	がんセミナー	13	261	208	53	1	0
46	宮崎大学	令和7年度第1回九州がんプロフェッショナル養成プランにおける講演会について 「意思決定支援-最期まで生き抜くことを支えた一例-」	1	68	68	0	1	0
47	宮崎大学	令和7年度第2回九州がんプロフェッショナル養成プランにおける講演会について 「がん患者の口腔ケア」	1	68	68	0	1	0
48	鹿児島大学	造血器腫瘍遺伝子パネル検査 ～がんゲノム診療連携講演会～	1	60	50	10	0	1
49	鹿児島大学	鹿児島県がん診療連携拠点病院事業 四部門合同研修会	2	280	80	200	0	2
50	鹿児島大学	市民公開講座「最新の肺がん治療～患者の希望に沿った医療をめざして～」	1	40	30	10	0	1
51	鹿児島大学	鹿児島大学病院 エキスパートパネル	50	900	600	300	0	1
52	鹿児島大学	鹿児島大学病院 Cancer Board	7	110	105	5	0	0
53	琉球大学	がん看護セミナー（2025年9月12日開催、12月26日開催予定）	2	67	19	48	3	2
54	琉球大学	令和7年度がんプロ講演会「固形がんおよび造血器腫瘍パネルの意義と課題」	1	25	15	10	2	0
合計（自動計算）			140	4,736	2,694	2,089	184	83

**「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧**

- コース履修者・修了者の満足度調査（アンケート等）
- 指導技術向上等のためのFD
- ホームページ更新／SNS投稿回数

	大学名	コース履修者・修了者の満足度調査（アンケート等）		指導技術向上等のためのFD		ホームページ更新／SNS投稿回数	
		実施数	実施人数	実施回数	参加人数	ホームページ更新回数	SNS投稿回数
1	九州大学	1	49	42	168	28	36
2	福岡大学	0	0	0	0	6	0
3	久留米大学	0	0	0	0	8	0
4	産業医科大学	0	0	0	0	4	1
5	佐賀大学	0	0	0	0	3	0
6	長崎大学	0	0	0	0	10	0
7	熊本大学	0	0	0	0	10	0
8	大分大学	0	0	0	0	3	0
9	宮崎大学	0	0	0	0	2	0
10	鹿児島大学	0	0	0	0	1	0
11	琉球大学	0	0	0	0	0	0
合計（自動計算）		1	49	42	168	75	37

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

■ 教育プログラム・コース（インテンシブコース以外）の受入実績

	大学名	テーマ	教育プログラム・コース名称	対象職種	R7	
					受入実績	修了者数
1	九州大学	テーマ①	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	医師	11	10
2		テーマ①	放射線治療学コース	医師	0	0
3		テーマ②	がん予防とプレシジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	医師	1	1
4		テーマ①	次世代の病理学コース	医師	0	0
5		テーマ③	医用量子線データサイエンティストコース	医学物理士	21	13
6		テーマ①	がんゲノム専門細胞検査士コース修士課程	その他（細胞検査士）	2	1
7		テーマ③	がん創薬研究薬学コース博士課程	薬剤師	3	2
8	福岡大学	テーマ①	がんサバイバーの苦痛に対応できるがん専門医療人育成コース	医師	0	0
9	久留米大学	テーマ①	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット「放射線療法専門医養成コース」	医師	1	0
10		テーマ①	専門職養成コース がん看護分野 CNS養成	看護師	1	0
11	産業医科大学	テーマ①	がん治療と就労の両立支援医師養成コース	医師	1	0
12		テーマ①	がんゲノム医療重点コース	医師	1	0
13	佐賀大学	テーマ①	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	医師	1	0
14	長崎大学	テーマ①	多目的がん診療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程）	医師	2	0
				歯科医師	0	0
15		テーマ③	がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程）	医師	4	0
				歯科医師	0	0
16		テーマ②	遺伝看護・遺伝カウンセリングコース（修士課程）	看護師	1	0
17	熊本大学	テーマ①	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	医師	3	3
18	大分大学	テーマ③	包括的がん治療専門医療人養成コース	医師	10	0
				薬剤師	1	0
19		テーマ①	地域医療の様々なニーズに対応する医療人養成コース	看護師	0	0
20	宮崎大学	テーマ①	包括的がん専門医療人養成コース	看護師	2	0
				医師	0	0
21		テーマ①	がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース	薬剤師	1	0
22	鹿児島大学	テーマ①	がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース	看護師	0	1
				医師	1	0
23	琉球大学	テーマ①	先端がん診断・治療コース	薬剤師	0	0
				医師	1	0
24		テーマ①	痛みの治療・ケア、がん学際領域等を担う薬物療法専門医コース	看護師	3	0
				医師	1	0
				医師 小計（自動計算）	37	14
				歯科医師 小計（自動計算）	0	0
				薬剤師 小計（自動計算）	5	2
				看護師 小計（自動計算）	7	1
				その他 小計（自動計算）	23	14
				合計（自動計算）	72	31

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

■ 教育プログラム・コース（インテンシブコース）の受入実績

	大学名	テーマ	教育プログラム・コース名称	対象職種	R7	
					受入実績	修了者数
1	九州がんプロ	テーマ①②③	次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース	その他（各大学大学院生・各大学附属病院および九州内関連病院の医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、遺伝カウンセラーなど多職種の医療従事者）	35	3
2	福岡大学	テーマ①	多職種連携がん専門医療人育成コース	医師	48	48
				看護師	300	300
				薬剤師	15	15
				その他（理学療法士等）	74	74
3	久留米大学	テーマ①	大学院医学研究科修士課程「科目等履修生制度」	その他（地域医療に携わる医療従事者全般）	0	0
4	産業医科大学	テーマ①	がん治療と就労の両立支援医師養成コース	医師	0	0
5		テーマ①	がんゲノム医療重点コース	医師	0	0
6	熊本大学	テーマ①	がん患者個別のライフステージ・QOLに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース	薬剤師	1	1
7	大分大学	テーマ②	がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース	その他（医療従事者全般）	19	13
8	宮崎大学	テーマ①	がん専門医療人育成プログラム	医師	1	0
				薬剤師	1	0
				看護師	0	0
				その他（放射線技師）	1	0
				その他（遺伝カウンセラー）	1	0
9		テーマ①	放射線治療専門医育成コース	医師	1	0
10	鹿児島大学	テーマ①	遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者養成コース	医師	0	0
				薬剤師	0	0
				看護師	0	0
				その他（診療放射線技師）	0	1
11		テーマ①	がん専門薬剤師養成コース	薬剤師	0	0
12	琉球大学	テーマ①	痛みの治療・ケアを担う緩和ケアエキスパートナース養成コース	看護師	8	0
医師 小計（自動計算）					50	48
歯科医師 小計（自動計算）					0	0
薬剤師 小計（自動計算）					17	16
看護師 小計（自動計算）					308	300
その他 小計（自動計算）					95	88
合計（自動計算）					470	452

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

■ 受験・合格・資格取得者数

	コースを開設している 大学・研究科・専攻名	コース名	養成するテーマ ※自動	受験・合格・資格取得者数			
				取得が見込まれる各学会等認定資格のうち 受験や合格実績がある資格名	R7		
					受験者	合格者	資格取得者
	計				20	18	19
1	九州大学大学院医学系学府医学専攻	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	テーマ②	がん治療認定医（2025年4月1日取得）	0	0	1
2	九州大学大学院医学系学府医学専攻	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	テーマ②	外科専門医（認定日 2025年10月17日）	1	1	1
3	九州大学大学院医学系学府医学専攻	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	テーマ②	婦人科腫瘍専門医 2024年12月15日受験、2025年5月1日合格・資格 取得	0	1	1
4	九州大学大学院医学系学府医学専攻	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	テーマ②	内科専門医（2025年5月25日受験、7月30日合 格）	1	1	1
5	久留米大学大学院医学系研究科	修士課程看護学専攻 専門職養成コース がん看護分野 CNS養成	テーマ①	日本看護協会認定 がん看護専門看護師	3	3	3
6	佐賀大学大学院医学系研究科	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コー ス	テーマ①	がん薬物療法専門医	1	1	1
7	佐賀大学大学院医学系研究科	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コー ス	テーマ①	血液内科専門医	0	0	2
8	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	医療科学専攻、放射線医療科学専攻 がん個別化医 療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程）	テーマ①	がん治療認定医	2	2	0
9	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	医療科学専攻、放射線医療科学専攻 多目的がん診 療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程）	テーマ①	放射線治療専門医	1	1	1
10	熊本大学大学院医学教育部	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	テーマ①	日本内視鏡外科学会技術認定医	1	0	0
11	熊本大学大学院医学教育部	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	テーマ①	消化器病学会認定医	1	1	1
12	熊本大学大学院医学教育部	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	テーマ①	消化器外科学会専門医	1	1	1
13	熊本大学大学院医学教育部	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	テーマ①	がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）	2	0	0
14	熊本大学大学院医学教育部	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	テーマ①	外科専門医	1	1	1
15	熊本大学大学院医学教育部	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	テーマ①	消化器病専門医（日本消化器病学会）	2	2	2
16	大分大学大学院医学系研究科	包括的がん治療専門医療人養成コース	テーマ①	消化器外科専門医	3	3	3
17	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科	先端がん診断・治療コース	テーマ①	腫瘍専門医	0	0	0

文部科学省『次世代のがんプロフェッショナル養成プラン』採択事業



次世代の九州がんプロ養成プラン

TRAINING PROGRAM FOR NEXT-GENERATION HEALTH PROFESSIONALS
WITH CANCER CARE IN KYUSHU

令和7年度 内部評価報告書

発行 令和8（2026）年1月
編集・発行 九州大学大学院医学研究院 連携腫瘍学分野（九州がんプロ事務局）
ijsganpro@jimu.kyushu-u.ac.jp
<http://www.k-ganpro.com/>